

平成 27 年 度

兵庫教育大学大学院学位論文

推論から見た色彩語における命名と連想の研究

教育内容・方法開発専攻
文化表現系教育コース
言語系教育分野（国語）
M 1 4 1 7 0 G

中 尾 通 孝

目 次

序 章 はじめに	1
第1節 研究の目的と方法	
第2節 色彩語の重層性	
第3節 論文の構成	
第1章 推論を支えるメタファーとアナロジー	5
第1節 推論とは何か	
第2節 認識論としてのメタファー	
第3節 メタファーに基づく推論	
第4節 アナロジーとは何か	
第5節 本研究で用いる推論	
第2章 古典における色彩語について	14
第1節 色彩語の歴史的・分析における先行研究	
第2節 色彩語の歴史的変遷	
第3節 色彩語に関する時代別分析	
第4節 古典における色彩語の考察	
第3章 色彩語に関する児童の推論（その1） - データ編	27
第1節 目的と手順	
第2節 得られたデータの概要	
第3節 黒・白	
第4節 赤・青・黄	
第4章 色彩語に関する児童の推論（その2） - 分析編	36
第1節 全体的な分析と考察	
第2節 黒・白	
第3節 赤・青・黄	
第4節 色彩語に関する児童の推論に関する考察	
終 章 結語	47
参考文献	48
資料編 資料1 古典色彩語の時代別出現語	1 -
資料2 質問紙の内容	8 -
資料3 児童の色彩語の連想に関する推論詳細データ	9 -
資料4 児童の色彩語の連想に関する放射状カテゴリー詳細図	24 -

凡例

1. 例文の番号は，各章ごとにふりなおした。
2. 表および図の番号は，論文を通して通番とした。
3. 注については，各章末に付した。

序章 はじめに

本研究での対象となる色彩語は、言語学分野からみた「意味」や工学分野からみた「波長」などについて重層性を示すものである。一方、方法論的に今回その分析に用いようとしている推論については、心理学的な言語学分野、すなわち認知言語学分野でも新しい領域である。重層性を示す色彩語について推論を用いて考察することが、本研究の意義である。

そこで、序章では研究の方向性を示すために、第1節で研究の目的と方法を明らかにし、第2節でこれまでの研究を踏まえた色彩語の重層性、第3節で言語間の多様性と普遍性について概観し、第4節で本論文の構成を整理する。

第1節 研究の目的と方法

本論文の目的は、認知科学でいう推論という観点から、日本語における色彩語の多様性を分析することにある。この目的は大きく2つの下位目標からなる。第1は、歴史的な変遷の中で色彩語がどのように命名され分化したかという点に関する分析であり、第2は、現代における小学校児童の連想の中で色のイメージがどのように連鎖するかという点に関する分析である。この2つの目標のうち、1つ目は時間軸という大きな流れの中で色彩語の推移を捉える研究であり、2つ目は個人の共時的な思考の中で発想の広がりを捉える研究であるが、両者とも、「推論」という心理作用をキーワードとして色彩語の多様性を分析するものである。本論文の研究は、日本語の視覚語の中でも色彩語を考察の対象とし、推論の観点から分析を行うところに特徴がある。推論とは心理学の概念であり、この推論を用いて歴史的な色彩語の命名の方法と現代の色彩語における連想の2つについて分析を行う。

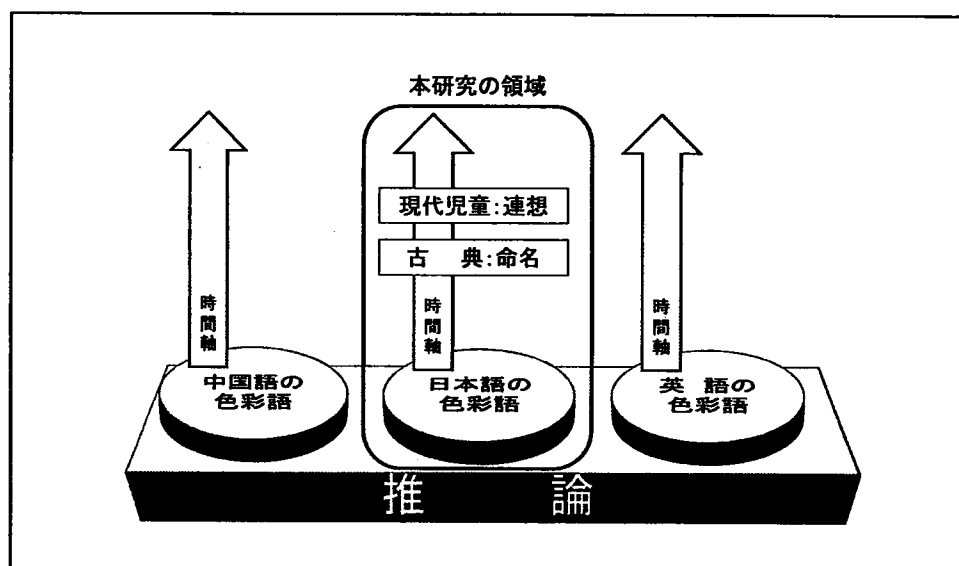


図1 本研究の領域

1つめの歴史的な命名の方法については、古典の色彩語を研究対象とした先行文献から色彩語を抽出し、推論を用いて古典における色彩語の成り立ちについて分析する。2つめの現代の色彩語における連想は、児童を対象に色彩語に関する連想のアンケート調査を行い、そこで生じた多義性について推論を用いて分析する。

第2節 色彩語の重層性

第2節では、これまでの研究を踏まえて色彩語の重層性について概観する。まずは、研究史的な観点から色彩語の歴史をふり返っておきたい。従来の色彩語の研究についてのアプローチは2つあった。言語学的なアプローチと工学的なアプローチである。

第1に言語学的なアプローチとしては、色彩語というものは歴史的な資料をもとに音韻や漢字から語源を調べるという形で、史的な意味論的、語彙論的研究がそれぞれの言語によって進められてきた。例えば、色彩語が色彩を表わすものであるか光を表わすものであるか論じたり、抽象的な色彩語と具体的な色彩語を整理し語源を明確にしたり、黒・白・赤・青を取り出して研究するものである。それらの研究を進展させ、沖森（2010）『色彩語の史的研究』は、色彩語を系統的かつ網羅的に論究し、色彩語の派生を考え「基本形」「展開形」として、具体的な語と色を関連させて明確にしている。同様に、物の彩を表わす「色」という漢字は、男女の情愛の様子を表わす象形文字とされており、視覚的な色のみではなく人間の認知が多く含まれている。語源から考えても色彩語の重層性について認識がされているにもかかわらず、重層性のメカニズムは解明されていない。

第2に、工学的なアプローチでは、色彩は一定の感覚をさす。「マンセル表色系」では、牡丹色を（3PR 5/14）など色相、明度、彩度の数値であらわす。古典における色彩については、残されている材料の資料を基に、草木染などの方法で再現が進みマンセル表色系で示されるようになってきた。吉岡幸雄（2002）『日本の色を染める』は、ミカン科の落葉高木である黄蘗の樹皮から黄蘗色を再現するなど、古典的な資料を参考に色彩を再現している。工学的なアプローチとして、さまざまな色の再現や数値を用いた識別についての研究が進んでいるが、そのような色の名前である色彩語がどのような意味を含有して用いられているかは明確になっていない。

現在では、以上にあげた言語学的アプローチや工学的アプローチの研究をもとに、社会文化学、心理学分野での研究が進み、民族や国家、時代、社会などの文化において違いがあることが注目されている。

言語の認識については、言語は文化によって認識が異なるという立場をとる言語相対性論がある。文化によって虹の色の数が4色、6色、7色と違いがあることや、太陽の色について白・赤・黄と違いがあることが有名である。具体的な色に関しても、例えば「紫」は、日本語の「紫」では冠位十二階の最上位として取り扱われるように「高貴」な色として用いられているが、英語の「紫」（violet）では「猥褻」という意味でも取り上げられている。「黄色」についても、日本では「貧しさ」を表わすこともあるが、中国では「尊さ」を表わすこともある。もちろん、「紫」や「黄」と表わしていても、それらをさす色相や明度、彩度には差があるが、色彩語を抽象的な言葉として取り上げている点では、文化によって違いがあることを示している。

これに対して、1969年にバーリン（B.Berlin）とケイ（P.Kay）は、色彩語は文化が違っても普遍性があることを主張した。抽出した色彩語から、色相、明度などの違いから色彩語の示す範囲は文化によって異なるがその中心となる語と色は同じであること、色彩語の増加の変遷が白・黒から赤、黄・緑、そして青、茶などと一定の順序が同じであることが示された。

白・黒 → 赤 → 黄・緑 → 青 → 茶 → 紫・桃・橙・灰

図2 バーリン (B. Berlin) とケイ (P. Kay) による色彩語の増加順序

認知メタファー理論では、瀬戸賢一 (1995) は、メタファーの種類を大きく2つに分類した。1つ目は、感じることで生じる「感性的メタファーⁱⁱ」である。体の内部の感覚や体の外部からの刺激を受けた時の感覚から生じるメタファーとしている。2つ目は、案じることで生じる「悟性的メタファーⁱⁱⁱ」である。一般的に認識されることや個人でしか認識されないことも含むが、考える先に生じるメタファーである。さらに瀬戸は、その感性的メタファーの中で、色彩に関するメタファーを視覚のメタファーに位置づけた。感性的メタファーの中で、五感を使った外部からの感覚から生じるメタファー「五感のメタファー」に分類している。さらに、五感を細分化した「視覚、聴覚、味覚、触覚、嗅覚」の中の「視覚のメタファー」として分類した。(図3)

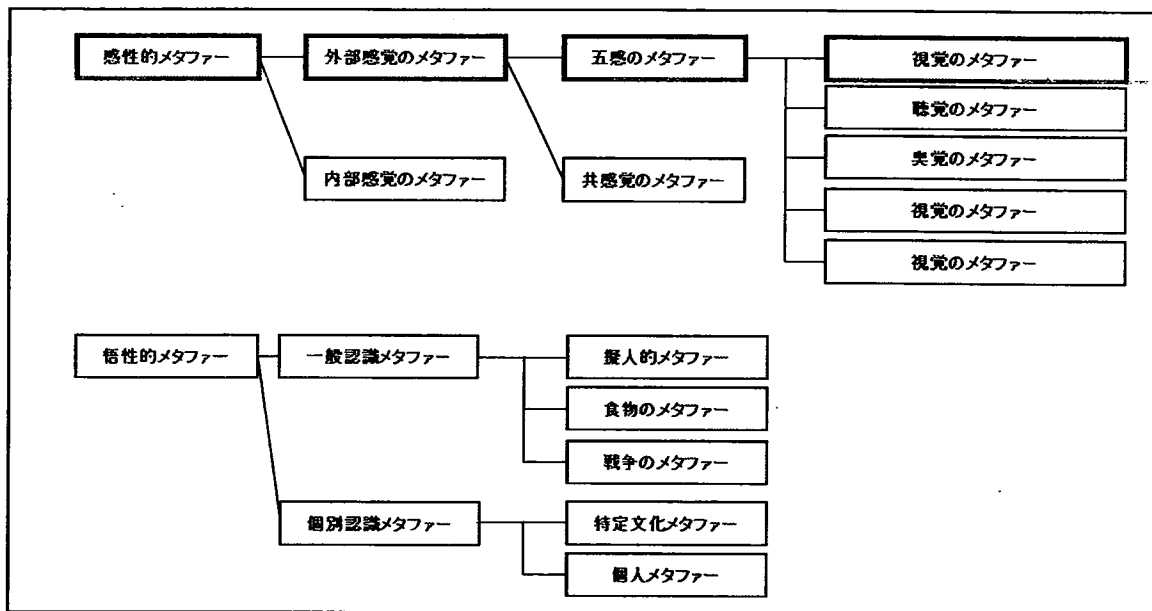


図3 瀬戸 (1995) によるメタファーの分類

視覚のメタファーは、空間と光のメタファーに分類され、光のメタファーの中に、明暗のメタファーと並ぶ色彩のメタファーとして位置づけ、「明確」「明晰」などを視覚的にとらえる表現として分析した。例えば、「音楽に関して詳しい」ことを「音楽に明るい」、「人生の見通がもてた」ことを「人生に一筋の光が見えた」と表わすことである。しかし、あくまでメタファーの素材として位置づけられており、色彩語の具体例は少なく、視覚のメタファーは共感覚的な言葉があることや、構造にまで至る悟性的メタファーのことについては明確にされていない。そもそも、言語を用いて情報（名前や様子・行動・時間・感情など）の共有を行っているということは、視覚だけにとどまらず五感を駆使しながら感性にまで至る傾向がある。そこで以上の先行研究を踏まえ、本研究では、色彩語は視覚語に位置する言葉でありながら、共感覚性を含み感性や物事の構造に関わる言葉としてとらえ、

推論を用いて分析する。ここでの本研究における研究対象を巨視的にとらえると次の図4のようになる。

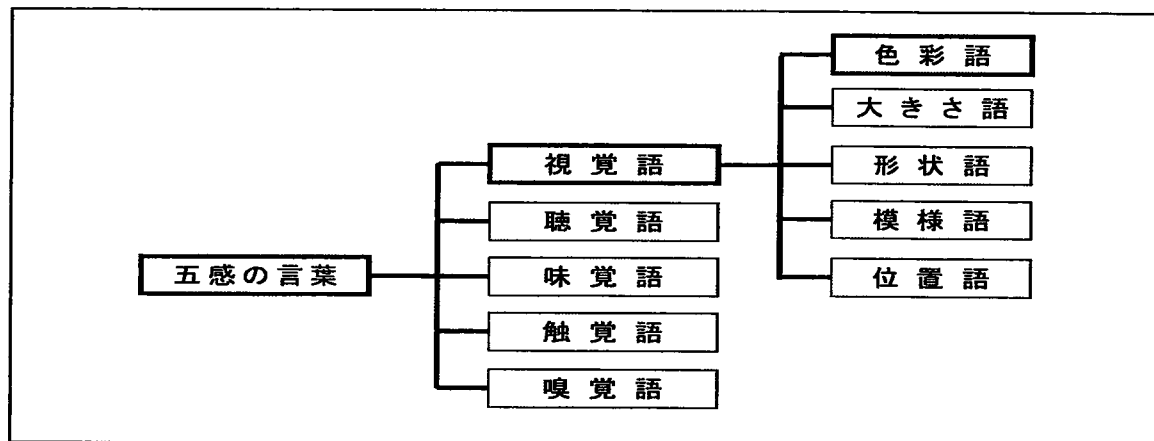


図4 本研究の領域

ここで描かれた対象全体が将来の研究する領域であるが、本論文においては最も右上の色彩語を直接研究対象とするものである。

第3節 論文の構成

以上、この章では本研究の目的と対象、範囲、アプローチ方法、色彩語の重層性を整理した。本論文の構成は次の通りである。まず、第1章において分析に用いる尺度としての推論を整理する。第2章では、古典の色彩語を研究対象とした先行文献から色彩語を抽出し、歴史的な変遷の中での色彩語の命名について考察する。第3章では、現代の色彩語における小学校児童の連想に関するアンケートを実施した結果を整理し、さらに、第4章でその分析と考察を行う。最後に、第5章で、歴史的な変遷の中で色彩語がどの様に分化したかという点と現代における小学校児童の連想の中で色のイメージがどの様に連鎖するかという点の2点を総括し、結論を述べる。

i マンセル表色系：1915年にアメリカの画家マンセルにより提唱されたものである。「3 PR 5/1 4」の牡丹色では、色相（R：赤，Y：黄，G：緑，B：青，P：紫をそれぞれ10等分した指標）、明度（明るさ）、彩度（あざやかさ）の数値であらわす。茶色は「5 YR 3.5/4」となる。

ii 感性的メタファー：瀬戸賢一（1995）によって示された「感じるメタファー」として身体的な知覚に基づいた直感的なメタファー。五感を通して得られた体内の敏感な神経網で感じたことで生じるメタファーのことである。大きく2つに分類され、1つ目は、五感を通じた外部感覚のメタファーであり、2つ目は、内部の感じたことによって生じる内部感覚のメタファーである。外部感覚のメタファーには、五感の領域に分類できる表現と、五感の領域をまたいだ表現があるために、さらに、五感のメタファーと共感覚メタファーに分類されている。

iii 悟性的メタファー：瀬戸賢一（1995）によって示されたメタファー分類の1つ。感性的メタファーと対になる「案じるメタファー」とされる。感性的メタファーは、直感的なメタファーとされているが、一方、「案じるメタファー」である悟性的メタファーは、考えることで生じるメタファーのことである。「会社の歯車」のような、社会と個人の構造を考えたようなメタファーのことである。

第1章 推論を支えるメタファーとアナロジー

第1章では、本論文において分析の主たる尺度となる推論について整理する。

この推論は、意識されていないが日常でよくつかわれている。例えば、新しい物事と出会った時、新しいものが生み出された時、表現の仕方に適切な表現が見つかった時などである。そこで、第1節では、推論について概観する。先行研究を整理し、従来の推論に関する確定だけではなく、認知言語学分野でのパラダイムで用いられる推論を合わせて全体像を明らかにする。第2節では、推論の中でも認識論としてのメタファーを整理し、第3節では、メタファーに基づく推論について具体例を示す。第4節では、メタファーと隣接概念にある推論の中のアナロジーについて整理し、第5節で、本研究における推論をどのようにとらえているのかを明確にする。

第1節 推論とは何か

第1節では、推論について先行研究を整理し、認知言語学分野における推論について推論とは何かということを概観する。

推論とは、問題解決、理解、概念形成などにならぶ思考の1つとされている。思考の研究は、アリストテレス以降形式論理学を中心に、ルネサンス以降は哲学的な洞察も加わり研究がすすめられてきた。科学的に研究されるようになったのは、ドイツのヴェルツブルク学派のキューペル (O. kulpe) やゼルツ (O. Selz) を中心とした内観法による思考研究からである。20世紀前半のアメリカを中心として盛んになった行動主義心理学のヴェルトアイマー (M. Wertheimer) やケーラー (W. kohler) らによる洞察、同時期のスイスのピアジェ (J. Piaget) によるシエマ (schema) (認知科学でのスキーマ) の研究がすすめられた。この推論は、市川 (1996) によると、大きく2つに分けられる。

1つ目は、演繹的推論 (deduction inference) である。高橋・服部 (1996) は、演繹的推論を、推論の正しい方法があり、その方法に従ってさえすれば、必ず正しい答えに到達するとする推論としている。アリストテレスの三段論法に代表されるもので、一般性の高い知識や事実から個別の結論を導くことができる。しかし、研究が進むにつれ、個別の知識によりエラーやバイアスが生じることが明らかになった。

2つ目は、帰納的推論 (induction inference) である。楠見 (1996) は、帰納的推論を、個々の事例に基づいて一般知識を導く推論であり、そのプロセスは、事例を獲得し、仮説を形成し、検証することであるとしている。さらに、帰納的推論は批判的思考を支えるとしており、情報の収集と推論、その確からしさの評価、一貫した解釈の構成において重要な役割を果たしているとしている。

そのような研究の過程で進められた推論、論理学の推論とは、正しいと想定される既知の知識を利用して新しい知識を導く手続きとして、常に正しいとは限らないが、日常的によく使われているものとしている。

このように既知のものから別のものを導く推論は、語彙レベルに関しても、日常的に多く用いられている。1つは新しい物事への命名で、2つ目は物事を喩えることである。

1つ目の命名に関しては、新しい物事を知ったとき、生み出したときには言語においても次のような3つの場合が考えられる。新しい事物を知ったときには、①別の言語を用いて表現すること、②別の国の言葉を自国の該当する言葉に置き換えること、③言葉を組み

合わせて新しい言葉をつくることである。別の言語を用いて表現する際には、意味に関する推論は少ないが、表記や音声に関しては推論が行われる。

- (1) a. volleyball → バレーボール (別の言語を用いて表現すること)
- b. swimming → 水泳 (別の国の言葉を該当する語に置き換える)
- c. baseball → 野球 (言葉を組み合わせて新しい言葉をつくること)

(1a)のように別の言語を用いて表現する例としては、「volleyball」がある。日本では、「バレーボール」と表記され、その際に、既有の音声と表記から一番適当なものを用いており、そこには音に関する推論が用いられていると考えられる。他にも、「tennis」と「テニス」、「rugby」と「ラグビー」などがある。その他にも、「coffee」と「コーヒー・カフェ」、「cup」と「コップ・カップ」、「handkerchief」と「ハンカチ・ハンケチ」、「gum」と「ガム・ゴム」などがあるが、伝わった経緯から別の表記があてられる場合がある。例えば、「coffee」の語源は、アラビア語で酒類を表わしていた「gahwah」だとされているが、英語では「coffee」、オランダでは「koffie」、フランス語では「cafe」とされ、西洋の各国でも聞こえたように表記され、その後、日本に伝わった経緯の違いから表記に揺れがあったり、別の意味をもたせたりすることがある。

(1b)のように別の国の言葉を該当する語に置き換えることに関しては、「swimming」である。もともと日本にあった水泳と意味が似ていることから「水泳」と表記され、その際に、意味を考えて置き換える推論が用いられていると考えられる。他にも、「book」と「本」、「bus (元は omnibus: 乗合馬車)」を「バス」、「radio」を「ラジオ」、「spoon」を「さじ」、「car」を「車」、「bell」を「鈴」などがある。

(1c)のように言葉を組み合わせて新しい言葉がつけられているものとしては、例えば、「baseball」と「野球」である。語源は正岡子規によることが有名であるが、「野で行う球技」ということと自分の名前「のぼる」からきてしているとされている。他にも「economics」がある。日本語では、理財、経済（経国済民・経世済民）とされており、既有の日本語を用いて新しくつくられたものである。「glasses」と「眼鏡」も同様である。

このように、推論は無意識的に使われている。新しい物事を生み出したときには、「ガウス（発見者名ガウスを磁束密度の単位）」のように発見した人の名前と置き換えたり、「マウス（パソコンの周辺機器を鼠）」のようにその物事に似た名前を用いたり推論が行われているといえる。

言語に関する推論の2つ目は、メタファーがあげられる。メタファー (metaphor) とは広義では比喩全般のことで、字義的でないことを表すことである。比喩とは、何かを喩えるということであるが、分類の仕方には様々あるようである。例えば、直喩と暗喩などとして分類している。オノマトペ (onomatopoeia) を比喩の1つとして、音喩 (擬音語)、声喩 (擬声語)、態喩 (擬態語) とする場合もある。元来、隠喩や暗喩と呼ばれるメタファーは、古代ギリシャや古代ローマの時代から、修辞法 (レトリック) の1つとして研究されてきたが、それらは文学や修辞学、哲学としての研究が主であった。修辞学は、医学と並んで身に着けるべき教養として重視されてきた。しかし、その後、異なる言語を調べ歴史的なつながりを考える比較言語学、一般性をもつ期待されるべき正しい言語を基準として

研究の対象とする構造言語学，生成文法などにおいて，字義通りではないメタファーの成り立ちは研究の対象となりにくく，言葉の綾や変則的な表現とされてきた。

従来のメタファーについての研究は，比喩は2つの物事の間における類似性に基づくとされてきた。そのような研究には，代替説(substitution view)，比較説(comparison view)，相互作用説(interaction view)などがある。次の例文をもとに整理していく。

- (2) a. 彼は鬼だ
- b. 彼は怒ると怖い
- c. 彼は顔が赤い
- d. 彼は仕事が早い
- e. 彼はまるで鬼のようだ

代替説(substitution view)では，字義通りの表現の代わりにメタファーを用いて字義通りの指示対象と等しい意味を表わすものとしてとらえている。代替説は怒ると怖い彼の様子(2b)を(2a)のように鬼に言い換えたものとしてとらえる。しかし，(2a)の鬼は(2c)のように顔が赤い容姿ともとらえられ，複数の候補があげられるということは，単純に代替としてとらえることができない。さらに，もともと字義通りの表現が見当たらない「パソコンのマウス」や「ストロー」のようなものもあり代替説では説明がつかない。

比較説(comparison view)では，メタファーを2つの事物を比べ，その間に生じる類似性を強調するものとして，「まるで～のようだ。」という明喩・直喩を省略したものとしてとらえている。(2a)が(2e)と同様の表現ということになる。比較して共通点を強調していることは，代替説と同様に(2b)の怖い様子や(2c)の顔の赤さに関しては，共通点が見つけられる。しかし，(2d)の仕事が早い様子のように共通点を見つけにくいものがある。戦での「鬼神の如き働き」ということから，仕事での働きに使われたということが考えられるが，現在の仕事においては共通点を見つけることが難しい。

相互作用説(interaction view)では，喩える側と喩えられる側が相互作用することにより意味が拡張されるととらえる。メタファーによって生じた新たな意味に目を向けている説である。「彼」の怒った時の様子と「鬼」という印象から「怖さ」に意味を拡張したことで，「彼」の仕事ぶりと「鬼」の強さから「凄まじさ」のように意味を拡張されていることについては説明できる。しかし，この際，「鬼」については今後も意味の拡張がなされる場合があるが，「彼」に関して意味は拡張しないと考えられる。さらに，「赤い」ということについては，意味の拡張というよりも共通点で意味は拡張し「赤い」以外の言葉に変化しないと考えられる。

このように，代替説(substitution view)，比較説(comparison view)，相互作用説(interaction view)では，一部の説明がつけられるが全体の説明がつきにくく，メタファーを用いる際の動機の1つや方向性を示すものとなっているに過ぎない。字義通り用いると誤用となってしまうことがあるが，発信された言語の意味やヒトの心的状況，文化，コミュニケーションでの文脈などから充分理解できるメタファーは，心理学，認知言語学とともに研究がはじめられ，それほど古いものではない。

以上第1節では、推論の先行研究と比喩のこれまでの考え方について整理した。そこで、次節では、近年研究された推論を用いた認識論としての比喩について整理する。

第2節 認識論としてのメタファー

第2節では、メタファーについて、近年研究が進んでいる認知メタファー理論(cognitive METAPHOR theory)を整理し、本研究におけるメタファーの定義を明らかにする。

認知メタファー理論では、思考の方向性により、メタファーを直喩(シミリ:simile)、隠喩(メタファー:metaphor)、換喩(メトニミー:metonymy)、提喩(シネクドキ:synecdoche)などに分類する。また、アナロジー(類推:ANALOGY)については、属性や関係性などに共通点が見られるなど比喩と同じような思考が用いられている場合がある。そこで、例示をもとに類推も含めて比喩の概念を整理する。

- (3) a. 彼はまるでパソコンだ
- b. 彼はパソコンだ
- c. パソコンを使って調べる
- d. パソコンでメールを送る
- e. デスクトップ、フォルダ、ファイル

(3a)では、「彼」の仕事ぶりの正確さや処理の速さ、知識量の豊富さなどの「彼」と「パソコン」という異なる領域にある共通点に注目して「パソコン」として表している。「まるでパソコンだ」とすることで「彼」自体はパソコンではないことが明示されており転義がない。これが直喩(シミリ:simile)である。直喩とは、「まるで～のよう」と喩えたことをはっきりと明示している比喩である。(2e)「彼はまるで鬼のようだ」も同様である。この比喩は、情報発信者自身が意識的に喩えとして用いることが多い。同様に、情報受信者も比喩であることを意識的に受けていることが多い。「まるで～のよう」を使うことで、歴史的に転義があるかどうかは別として、喩えに使用した言葉には転義がない。

(3b)では、比喩であることが明示されていないために、文章上の意味では彼がパソコンになっている。字義通りに受け取ると誤用となってしまう。しかし、「彼」と「パソコン」異なる領域の共通点である、正確さ、処理の速さ、知識量の豊富さ、あるいは冷静さ、人間味の無さなどを示している比喩である。(2a)「彼は鬼だ」も同様に、「鬼」に「怒ると怖い」、「顔が赤い」、「仕事が早い」などの転義がみられる。これが隠喩(メタファー:metaphorⁱ)であり、「まるで～のよう」を用いない比喩である。無意識のうちに使用されることや理解されることがあるようである。代替説、比較説、相互作用説を説明した際の、(2a)(2b)(2c)(2d)が隠喩にあたり、「まるで～のよう」を使わないことで、言葉に転義が生じる。

このように、異なる領域にある2つの物事の共通点に注目し「まるで～だ」のような言葉が用いられ転義がない比喩を直喩、2つの物事の共通点に注目し「まるで～だ」を用いず転義が生じた比喩を隠喩とする。転義があるかないかは異なるが、直喩と隠喩は思考の方向性が似ているが、思考の方向性については次の節で説明する。

(3c) では、パソコンを使っていることには間違いがない。しかし、実際はパソコンの中にあるインターネット検索ソフトかパソコンの外にあるインターネットを、パソコンに言い換えて転義がかかっている。少しずれが生じていることになるが、これはパソコンという意味では同じ領域である。直喩と隠喩は異なる領域間の類似性をもとに言い換えられた比喩であると定義づけたのでこれには当てはまらない。これを、換喩（メトニミー：metonymy）とする。野村（2013）は、「メトニミーは主要な比喩の1つであり、単一領域内での要素の隣接性に基づいて喩えられている」としている。瀬戸（2005）は日本語の換喩を次の5つの隣接関係にわけ、①全体と部分、②容器と中身、③製作者と産物、④原因と結果、⑤場所と機関としている。これらの定義に照らし合わせると、(3c)「パソコンを使って調べる」は中身・部分であるインターネットソフトを容器・全体のパソコンとして転義している。または、インターネット全体の一部としてのパソコンが、インターネット全体を表わしている。類似性というものはないが隣接関係にある。

(3d)「パソコンでメールを送る」のメールには、送付する文書という意味がある。本来は、手紙・電子メールともに mail である。しかし、最近では、メールというと通信機器による送付文書をさす。下位概念を上位概念で表すようになった例であり、提喩（シネクドキ：synecdoche）である。佐藤（1992）は、換喩との違いを明確に示しており、換喩の全体と部分の中でも、類と種の関係、包含関係にあたるものを提喩としている。手紙も電子メールもそれだけで存在しているが、現在の日本において、それらを含めた上位概念であるメールが下位概念電子メールを意味することがある。これと比較すると、換喩の例で示した(3c)のパソコンだけでは検索することができず、インターネットを使うことで一部の端末として検索することができる。逆に、上位概念を下位概念で示す場合もあるが次節で取り扱う。

(3e)「デスクトップ、フォルダ、ファイル」は、本来、実際に存在するものを示している。しかし、この関係性全体が、パソコンの世界での関係性と結びつき、パソコンの画面の最初の状態をデスクトップ、データの中規模なものをフォルダ、小規模なものをファイルとしている。このように、1つひとつではなく機能全体として写し取られたものをアナロジー（類推：ANALOGY）としている。

以上の、5つの概念を整理すると次の表1のようになる。

表1 本稿における比喩とその隣接概念の表記

概念	本稿での表記
メタファー（比喩全般：METAPHOR）	直喩（シミリ：simile）
	隠喩（メタファー：metaphor）
	換喩（メトニミー：metonymy）
	提喩（シネクドキ：synecdoche）
アナロジー（類推：ANALOGY）	—

以上のように、第2節では、認知メタファー理論による直喩（シミリ：simile）、隠喩（メタファー：metaphor）、換喩（メトニミー：metonymy）、提喩（シネクドキ：synecdoche）と、さらに、思考状況が似ているアナロジー（類推：ANALOGY）について概念を整理した。

そこで、第3節において、推論とメタファー、アナロジーの関係を明かにし、その後、本稿で色彩語の転義を分析するための推論を確定していく。

第3節 メタファーに基づく推論

第3節では、メタファーに属する直喩と隠喩、換喩、提喩においてどのように推論が用いられているかを整理する。

1 直喩 (simile) と隠喩 (metaphor) に基づく推論

(3a) の「彼はまるでパソコンだ」、(3b) の「彼はパソコンだ」では、①比喩としての明示である「まるで～のようだ」があるか、②転義があるかの2点についての違いがあるものの、「彼」と「パソコン」異なるものにある共通点であり、正確さ、処理の速さ、知識量の豊富さ、あるいは冷静さ、人間味の無さなどを示している比喩であることは述べた。同様な例として、次のような例がある。

- (4) a. まるでガラスのような壊れやすい心だ、ガラスの心
b. パソコンのマウス、ストロー
c. 金切り声、猫なで声
d. 腐卵臭、アーモンド臭
e. まろやかな味、まろやかな人
f. 鮫肌

(4a) の「まるでガラスのような壊れやすい心だ」は直喩であり、「ガラスの心」は隠喩にあたる。これは、図5のように、ガラスと心の壊れやすさやもろさに共通点があると考えられる。

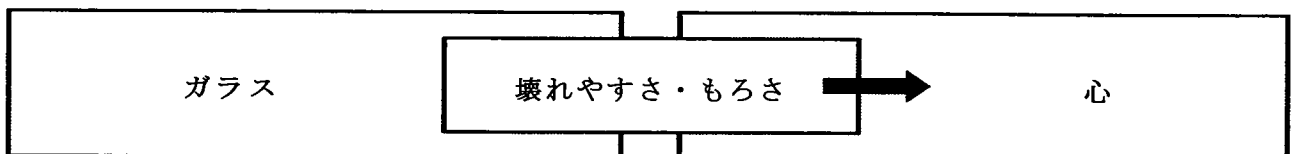


図5 直喩と隠喩の思考の方向性

ここで重要なことは、ガラスと心が全く別の領域間にあるということである。全く別の領域間に共通点があることで推論が働き直喩や隠喩となっている。同様な思考として、

(4b) の形の共通点をもつパソコンのマウス (パソコンのマウスと鼠)、ストロー (藁と飲み物を飲むときに用いるストロー)、(4c) の音の共通点をもつ金切り声、猫なで声、(4d) の臭いの共通点として腐卵臭 (卵の腐った臭いと硫黄の臭い)、アーモンド臭 (シアン化合物とアーモンドの実)、(4e) の「まろやか」では、角のない様子が共通点で昔から、「球状や筒状の形」や「しつこくない味」として用いられ、「温和な人柄」なども示すようになっている。(4f) の触感の共通点では (人の肌とサメの肌) などがある。以前例示した、(2a) の「彼は鬼だ」(2b)「彼は怒ると怖い」、(2c) の「彼は顔が赤い」、(2d) の「彼は仕事が早い」、(2e) の「彼はまるで鬼のようだ」これと同じ思考が働いている。視覚のみではな

く、五感や状況、感情などをすべて動員して推論が行われていることがわかる。別の領域間の共通点に注目して働く思考を直喩や隠喩の推論とする。

2 換喩 (metonymy) に基づく推論

(3c) の「パソコンを使って調べる」では、パソコンの中にある検索ソフト、または、パソコンの外にあるインターネットを用いて検索しており、このように隣接領域間でのずれがあることを換喩とした。同様の例として、次のような例が挙げられる。

- (5) a. 赤シャツ〔夏目漱石 『坊ちゃん』より〕(全体と部分)
- b. チョコレートを贈る (容器と中身)
- c. ストラディバリ (Stradivari) を使う (製作者と産物)
- d. チンする (原因と結果)
- e. 市役所へ行く (場所と機関)

(5a) では、本来は坊ちゃんに登場する教頭が、いつも身に着けているネルの赤シャツという隣接領域にずらされている (図6)。

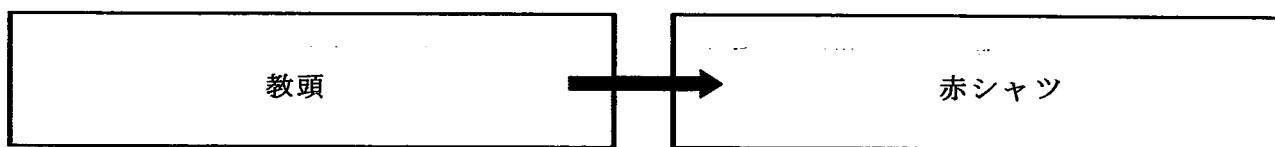


図6 換喩の思考の方向性

この際、教頭と赤いネルシャツには共通点がない。いつもの教頭の様子から部分の赤シャツにずらされており教頭全体から着ているものという部分、すなわち「全体と部分」の違いがある。「白パイが来る」「(小学1年生を意味して)ランドセルが歩いている」なども、この全体と部分の構造になっている。(5b) の「チョコレートを贈る」では、送ったのは箱に入れたチョコレートでチョコレートだけを贈ったわけではなく「容器と中身」の関係にある。容器の部分を短縮したとも考えられるが、チョコレートだけを贈ることとは認識されず、推論を用いて認識されている。(5c) の「ストラディバリ (Stradivari) を使う」では、バイオリンの製作者の名前が用いられており「製作者と産物」になっている。(5d) の「チンする」は、電子レンジに入れてものを温めた時に最後に「チン」という音が鳴っていたことから「原因と結果」の関係で結果を表現している。「お手洗いに行く」のお手洗いやも同様の構造となっている。(5e) の「市役所へ行く」は場所である市役所とそこにある機関で行う目的ことが変わっている。「市役所に問い合わせる」は市役所に電話をして役場の担当者に質問をすることであり構造的に「場所と機関」の関係になっている。「花園へ行く」「甲子園に行く」も同様で、機関ではないがその目的である全国大会と場所が変わっている。「大阪へ行く」も、大阪全体を示すわけではなく、「USJ」や「難波」などのどこかに行っていることを示している。また、「赤シャツ」「チョコレート」「ストラディバリ」「チン」「花園」だけでは、別の意味になってしまうということである。このように、隣接している領域にあり共通点がないものへ移行する思考を換喩の推論ととらえる。

3 提喩 (synecdoche) に基づく推論

(3d) における「パソコンでメールを送る」の「メール」には、本来は、手紙・電子メールともに mail であるが、最近では、メールというと通信機器による送付文書をさす、下位概念を上位概念で表すようになった提喩であると述べた。その提喩の思考について次の例を用いて提示する。

- (6) a. 東京ドームにミスターが現れた (下位概念→上位概念)
- b. サランラップを使う (上位概念→下位概念)

(6a) では、長嶋茂雄という東京読売ジャイアンツの歴史的な選手をミスターという上位概念で表現している。この2つの間には包含関係がある。このような例は他にも、「ジブリを見る」の例も挙げられる。「ジブリを見る」は、製作会社のジブリの「ラピュタ」や「もののけ姫」、「風立ちぬ」などの何かを見たことを「ジブリ」と表現している。下位概念を上位概念で表現する提喩である。

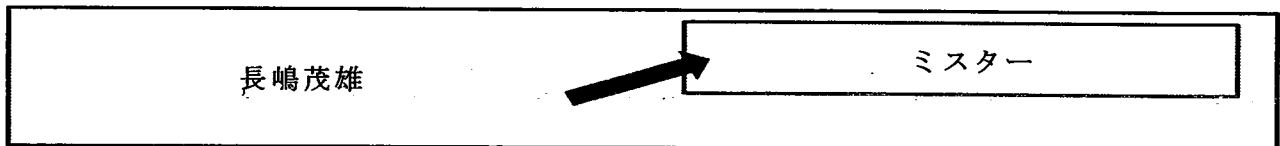


図7 提喩の上位概念で表現する思考の方向性

(6b) では、実際には「サランラップ」のほかにも食品包装用ラップフィルムはあるが、その中の1つの商品である「サランラップ」ということで、そのほかの商品も示してしまうことを表現している。上位概念を下位概念で表現する提喩である。

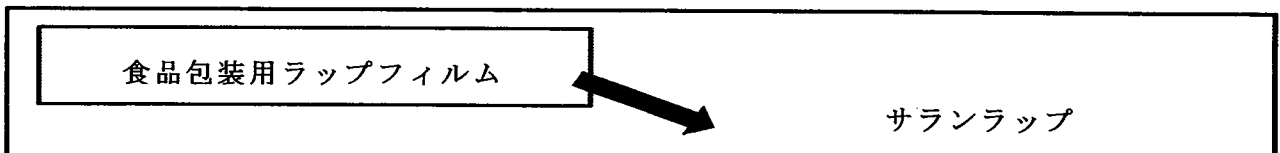


図8 提喩の下位概念で表現する思考の方向性

他にも、「テレビを見る」、「クラシックを聴く」などにも表れている。「テレビを見る」は、アニメ番組やドラマなどを見たことがテレビという上位概念で示している。「クラシックを聴く」はあらゆる古典的な芸術がある中で、クラシック音楽をクラシックと表現している。このように、包含関係の中で上位概念と下位概念の入れ替わりを提喩に関わる推論とする。

第4節 アナロジーとは

第4節では、前節でのメタファーの隣接概念にあるアナロジーについて整理し、推論をより明確にしていく。

類推とは、ある分野の構造的な知識を利用し、新しい物事を理解する方法である。(3e) 「デスクトップ、フォルダ、ファイル」は、実際にパソコン用語として用いられている。

しかし、パソコンの内部にはフォルダもファイルもないが、パソコン自体の構造を実際に使っている机の状況と比較することで新しい物事を説明的に使用している。仕事などで使用するパソコンをデスクトップとすると、書類などのデータを小さく管理するものと実際にあるファイル、小さいデータをまとめて管理するものとフォルダにわけている。このようなことが、飛行機の説明に船の説明の概念を使う (captain, port, ship, crew など) こと、電気の仕組みを水流の仕組みで理解すること (電流・電圧・電池と水流・水圧・池) や、テレビ局の構造をラジオ放送の構造 (放送局, スタジオなど) を表わすことにも用いられている。

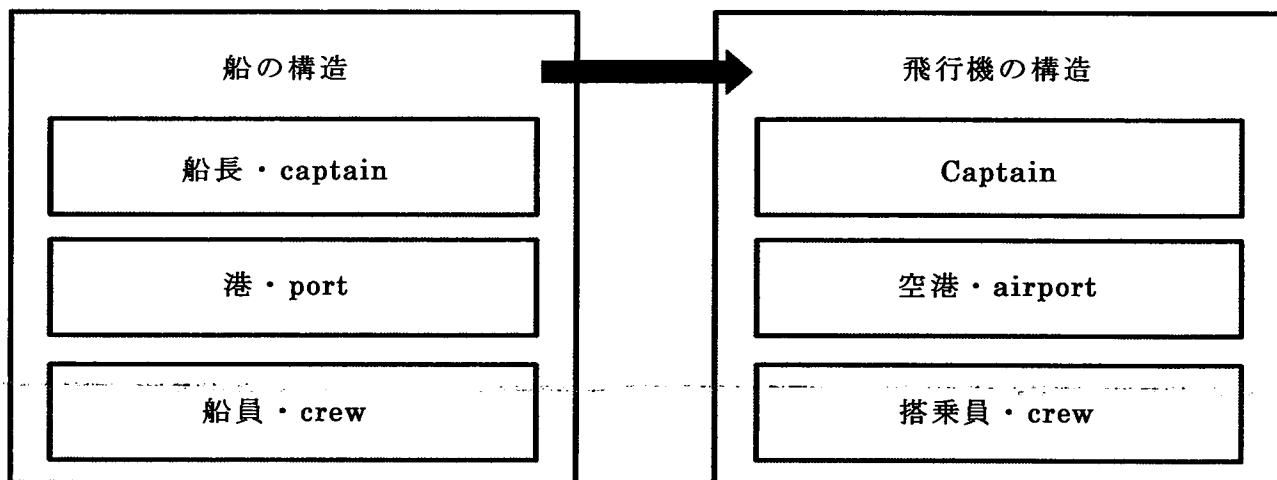


図9 船と飛行機の構造に関わるアナロジーの思考

色彩語に関しても、意味的に相対する白と黒を用いて「白黒はっきりつける」ことや、その中間にあたる灰色を用いて領域の間にある部分を「グレーゾーン」などということがある。また、革命旗が赤色であることから共産主義、社会主義、およびのその主義者をさして「赤」と称し、「赤」まではいかないが、いくらか左翼的傾向のある、共産主義、社会主義に公明する人を「ピンク」と表わしたことなどがある。

以上のような例は、部分的な類似性だけではなく構造全体の類似性をもとに用いられており、METAPHOR [比喩全般 (メタファー)] としてではなく、ANALOGY [類推 (アナロジー)] として分類されている。

第5節 本研究で用いる推論

以上、第1節の推論の概観と従来のメタファーの研究、第2節での認識論としてのメタファーの整理、第3節でメタファーを用いる際にはたらいっている推論、第4節でアナロジーに関わる推論を総括し、本研究で用いる主たる尺度としての推論について整理した。

本研究で取り扱う色彩語に関わる命名と連想には、直喩と隠喩を1つとして扱い、隠喩、換喩、提喩、さらに、アナロジーの4つ思考をもとに分析していく。

ⁱ metaphor: この場合は、メタファーを狭義の比喩として用いる。先行研究でのメタファーを除き、本研究では、比喩全体をメタファーと表記する。さらに、メタファーの種類を、隠喩、直喩、換喩、提喩と表わし、アナロジー (類推: ANALOGY) を含めて推論として用いる。

第2章 古典における色彩語について

第2章では、古典における色彩語について整理し、古典における色彩語の命名について推論を用いて分析し考察を加える。

論述の手順としては、第1節では先行研究にある色彩語の歴史的分析を整理する。第2節では、現在再現されている染色技術や古典文学に出現する色彩語から色彩語の成立の歴史の変遷について概観し、第3節では沖森紅美（2010）に示された色彩語を分析する。最後に、第4節では古典における色彩語について考察する。

第1節 色彩語の歴史的分析における先行研究

本論文で明らかにしようとしていることは、色彩語彙の歴史そのものではなく、色彩語彙から認識するものについてである。そこで、日本語の歴史的な色彩語についていろいろな文献をもとに整理し、それらに示された色彩語を分析の対象とする。そこでまず、分析の対象となる色彩語を明確にするために以下の様な文献を用いて、色彩語の歴史について整理する。

前田雨城（1980）『ものと人間の文化史 38 色染と色彩』法政大学出版局。

伊原昭（1994）「朝日選書」『文学にみる日本の色』朝日新聞社。

吉岡幸雄（2008）『日本人の愛した色』新潮社。

沖森紅美（2010）『色彩語の史的研究』（株）おうふう。

伊原昭（2011）『色へのことばをのこしたい』笠間書院

前に述べたとおり、色には重層的な意味が含まれており、文化学的アプローチ、工学的アプローチ、言語学的アプローチなどがある。そこで、文化学的アプローチとして前田雨城（1980）をもとに染色と色彩の歴史について概観し、言語学的アプローチである伊原昭（1994, 2011）や沖森紅美（2010）の文献と比較検討しながら、色彩語について整理をする。あわせて、染色の歴史的資料から古典の色彩を再現している吉岡幸雄（2008）の文献を、染色に用いられた材料をできる限り裏付けるものとする。

前田雨城（1980）は、文化学的、工学的アプローチとして、歴史的にどのような色彩に関する文化が生じてきたかについて示している。文学的資料や布などの染色のみではなく、世界的な壁画や衣料などの歴史的な資料も分析の対象としてあげられている。前田によると、世界的に色彩の起源については、約5万年前から5万年以上前には、当時の旧人類の化粧品や彩色されたとみられるものが出土されている。例えば、紀元前1万2千年の北部スペインのアルタミラの壁画、紀元前1万5千年のラスコーの壁画、紀元前2千6百年のエジプトのスフィンクスなどである。日本においては、正倉院宝物や法隆寺献納宝物などの物質としての資料が残されている。文学的には、『古事記』『日本書紀』『万葉集』『律令』や『源氏物語』『枕草子』などの平安文学について色彩語として残されている。文献に残る色彩名と色相の記し方には、同じ人によっても季節により違いがあるなど、非常に差があり大きな揺れがある。その中で大きく2つのグループが存在するようである。1つ目は、中国的な意義をもつか、または、中国に関連した色彩名群である。2つ目は、日本に中国文化が渡来する以前から存在していたと思われる色彩名群である。音声言語については以

前から日本のことばとして存在していたが、記録するための文字言語としては中国からもち込まれた漢字を用いて使用していたことから、中国文化と接触する以前の日本文化の色も、中国文化から伝わった漢字を用いて書くことも多かったということになる。そこで、前田は色彩語を次のように分類をした。

〈第一類〉色相のままを表現したもの。

〈第二類〉主観的色彩表現によるもの。

① 観的色彩相、または、観念的色彩を示したもの。

② 抽象的表示のためのもの。

〈第三類〉染材・染法を示したもの。

〈第四類〉自然現象や風物の名称をそのまま色彩名としたもの。

〈第五類〉中国的観念によるもの、

または、漢字のもつ中国的意義をそのまま色彩名としているもの。

伊原昭（1994, 2011）は、言語学的アプローチとして古典から色彩語を抽出し、部分的に整理しながら研究を進め、命名や成法について考察している。伊原（1994）は、色彩語の使われ方を文学作品の中から上代、平安、中世、近世の大きく4つの時代に分け、特徴を示している。

上代の色【桓武天皇延暦13年（794年）まで】

上代は、自然にある色を自分たちの生活に取り入れる時代である。実際にある自然の植物（その葉、花、茎、幹、根、実など）や土や鉱物を摺り付けたり浸み込ませたり、顔料として使ったりしながら色をつくりだした。植物からつくられたものの例には、あかね色がある。植物である茜の根からつくられた火の燃え盛るような赤色の名前である。このように上代の色彩語には原料名がそのまま色の名前に使われていることが多い。例えば、ミカン科の黄蘗の内皮からつくったきはだ色。梔子の実からつくったくちなし色。団栗の総称である橡からつくったつるばみ色。蘇芳（インド産マメ科）の木質部からつくったすおう色（但し媒溶剤の種類により4種類ほどの色がある）。桑の木皮や根の皮からつくったくわぞめ。胡桃の果皮や樹皮からのくるみぞめ、柴（栗櫟などの殻斗科樹木）の小枝交じりの葉からしばぞめなどがあげられている。また、紅花の頭状花からつくった紅色（コウショク）には、中国（呉）の植物の総称を藍と称していたことから呉の藍からくれない（紅）と呼ぶこともあるなど、中国の文化と混ざり合ったものもある。

また、中国との文化の交流から文字言語（漢字）を文化に取り入れたために、色に関する別の概念も文化の中に入ってきた。陰陽五行説にかかわる青・赤・黄・白・黒の5色である。陰陽五行説では、それぞれの色を次のようにあらわしている。青は春になり成長する草木の新緑の色、赤は燃え盛る火の色、黄は大地の光るような色、白は陰・西の意味を表し夕暮れ時のはっきりしない物の色、そして黒は、窓と煙の合字を使い窓から煙が出てふすぶられ煤で黒くなる色である。

しかし、日本にも大和言葉においての色や日本文化での価値づけもされており食い違点もある。例えば、中国の五行説では黄は中央に位置し、最も重んじられた色である。黄

河、黄道など重要な意味として使われている。しかし、そのころの日本での法令「衣服令」で黄色は無位であったために卑賤の色と捉えられていたという説もあり、文化・生活習慣による影響もみられる。

平安の色【桓武天皇延暦 13 年（794 年）～後鳥羽天皇文治元年（1185 年）】

平安期は、上代に作り出した色を、何度も浸み込ませる、縦糸と横糸の色を変える、多色を組み合わせて着る襲（かさね）などの新しいかかわりが生じた。そこで、自然の何の色に似ているかということで自然を模倣することが多くなる。例えば、梅、水色、紅葉、山吹色などである。原料は名前に由来しない。しかし、自然のものを名前としたものが多い。植物、土・鉱物に関するものが多い。

中世の色【後鳥羽天皇文治元年（1185 年）～後陽成天皇慶長 8 年（1603 年）】

中世期は、武士の世の中であり、縁起物を使ったものが見られる。例えば、「褐（かち）」という赤系の色を「勝ち」という言葉になぞって使われ、鎧を作るのに札を様々な色で綴るがこれを緞（おどし）とよび、脅威、恐怖を感じさせるものとして使われていたという説もある。言葉の音に関する由来がみられる。

近世の色【後陽成天皇慶長 8 年（1603 年）～明治天皇慶応 3 年（1867 年）】

近世の色は、染物屋が多く存在し庶民にも色が普及していたことがわかる。吉岡憲法が創始した色を吉岡染のように創始者名をつけたり、地名（藍深川、鉄深川、深川鼠など）をとったり、動物・昆虫の名前を付けた色（鶉色、白梅鼠など）の例もある。

沖森紅美（2010）では、系統的網羅的な研究が進められており、出現している色彩語を時代別に提示してあった。その研究から、各時代の出現数、色彩語の分類、「～ぞめ」と「～色」の関係の 3 点について整理する。

1 点目の各時代の出現した語については、沖森（2010）は、古代日本における色彩語彙量について伊原昭「万葉の色相」による『万葉集』の色名の分析を否定している。「はに」などの材料の意味として用いられる原材料の名前を色彩語彙として数えている点や『万葉集』だけ取り出すのでは不十分であるとし、前田千寸の文化史を含めて沖森は表 2 のような数の色彩語を抽出して表にまとめている。

表 2 奈良時代から江戸時代までの時代ごとの出現色彩語数 沖森紅美（2010）を中尾が一部改編

	出現色彩語総数	前代と共通する語	前代には見られない色彩語
奈良時代	78 語	—	78 語
平安時代	199 語	49 語	150 語
鎌倉・室町時代	196 語	110 語	86 語
江戸時代	559 語	104 語	455 語

2 点目の色彩語の分類については、色彩語を漢語と和語の関係や用いられ方から、次のような分類を行った。

① もっぱら漢文にのみ使用される色

曙色（ショショク） 青黒（セイコク） 碧色（ヘキショク）

② 漢語的表現と見られる語

銀色（ギンジキ） 金色（コンジキ） 生色（ショウジキ）

新緑（シンリョク） 翠色（スイショク） 青黒色（セイコクショク）

草色（ソウショク） 天色（テンショク） 銅色（ドウショク）

③ その色相に相当する和語がある場の、漢文系で用いられる語

黄色（オウシキ・コウショク/きいろ） 紅色（コウショク/あか）

金色（コンジキ・こがね） 赤色（シャクジキ/あかいろ）

青色（セイシキ/あおいろ） 白色（ハクショク・ビャクショク/しろ）

火色（カショク/ひいろ）

④ 顔料・絵具の名称であって、色彩の名称を表わしたものとは認められない語

臙脂（エンジ） 紺青（コンジョウ） 緑青（ロクショウ）

⑤ 形容詞や形容動詞の語幹として用いられる語

浅黒（あさぐろ） 赤黒（あかぐろ） 団十郎茶（だんじゅうろうちゃ）

江戸紫（えどむらさき） 吉岡染（よしおかぞめ）

⑥ 襲の色や織り色を表わした語

さくら にがいろ やまぶきいろ

以上のような分類の中で、沖森は、和語であり襲の色を含まないものについて研究の対象としている。

3点目の「～ぞめ」と「～色」の関係については、色彩語の「～ぞめ」に関する語が文献で出現する年代にも注目し、次のように記述している。

7世紀前半には「～ぞめ」の出現は見られないが、7世紀後半から8世紀後半まで次の13語の語が見られる。次のような言葉である。

かきつばたぞめ くるみぞめ はすのはぞめ ひさぎぞめ はとぞめいろ えびぞめ
まつぞめ きぞめ すぎぞめ

しばぞめ（柴） くわぞめ（桑） くりぞめ（涅） はりぞめ（榛）

9世紀前半から、12世紀後半までは次のとおりである。

《9世紀前半》2語 きすみぞめ つるばみぞめ

《9世紀後半》1語 あらぞめ

《10世紀前半》9語 あいぞめ あさきももぞめ あさずきぞめ うつぶしぞめ くちなしぞめ すみぞめ つつじぞめ はなぞめ むらさきぞめ

《10世紀後半》3語 あらぞめ かしぞめ くないぞめ

《11世紀前半》5語 うすはなぞめ かりやすぞめ こうぞめ すおうぞめ
ちょうじぞめ

《11世紀後半》3語 うすこうぞめ うすずみぞめ こきすみぞめ

《12世紀前半》1語 ちょうぞめ

《12世紀後半》3語 いっこんぞめ かばぞめ ちゃぞめ

この中で、あらぞめなどの同じ語の出現や濃淡の違いである「うす～」「こき～」の語を最初の出現に合わせると、7・8世紀には14語、9・10世紀には12語、11・12世紀には、8語となる。この中で、かきつばたぞめ（かきつばた色）、きぞめ（黄色）、くるみぞめ（くるみ色）、すぎぞめ（ひわだのすぎ色）、はなぞめ（はな色）、つつじぞめ（つつじ色）、むらさきぞめ（むらさき色）、くちなしぞめ（くちなし色）、こうぞめ・うすこうぞめ（うすこう色）は、「～ぞめ」と「～色」の対応がはっきりしており、これらは「～ぞめ」の出現が早く、「～色」の出現が遅いものであるとしている。

以上に述べた、前田雨城、伊原昭、沖森紅美の研究について比較し整理すると、内容には共通点が多い。そこで、本章で対象とする古典の色彩語については、沖森（2010）の研究で整理された和語で襲の色を含まない各時代独自の色彩語767語（表2における「前代には見られない色彩語」の総数）を対象とし、その他の研究資料で補強を行いながら整理する。本章では、固定資料である沖森（2010）が色彩語として取り上げた色彩語を扱うが、その中であって、伊原（1994）においても色彩語として取り扱われているもの、さらに、前田雨城（1980）や吉岡幸雄（2008）で染色方法を確認できる色彩語、すなわち、沖森と伊原の両方で色彩語と扱われており前田雨城（1980）や吉岡幸雄（2008）も色彩として資料として名前が確認できたものを取り扱うことで、いわば複数の限定がかけられている。もちろん、色彩語というものは文脈上色彩として扱われないことや、具体的な色彩を示さないことがあることは言うまでもない。しかし、その中に命名に関する推論が含まれると考えられる場合は分析の対象とする。

また、襲の色、綾・織物の色として認識されている傾向が強いものは染色方法不明として取り扱い、数えた限り数値としての異なりがあった場合は修正して提示した。

第2節 色彩語の歴史的変遷

第2節では、歴史的な流れに沿って先行研究の中から色彩語を取り出し具体的に示す。

奈良時代の色彩語

奈良時代の出現した語を次に示す。

あか、き、あお、くろ、しろ、
くれない、あかね、かすみ、からくれない、すおう、あけ、あさあけ、くらきあけ、
そい、おうに、きかち、くるみぞめ、すぎぞめ、くちなし、あおに、はとぞめ、
まつ、あさみどり、くろみどり、なかみどり、ふかみどり、みどり、あおずり、
あい、あさはなだ、からあい、はなだ、ふかきはなだ、かち、えびぞめ、かきつばた、
あさむらさき、けしむらさき、ふかむらさき、むらさき、あかむらさき、
あさえびぞめ、ふかきえびぞめ、くり、しばぞめ、つるばみ、はりずり、はり、
しらつるばみ、あさくれない、けしくれない、つきぞめ、なかくれない、はねず、
ふかきくれない、まそお、あさくるみ、あさはじ、くるみかち、しいろ、
じゅひしょく、そお、なかくるみ、はすのはぞめ、ひさぎぞめ、ふかきはじ、
ふかくるみ、きつるばみ、くわぞめ、くろき、あさかりやす、ふかきかりやす、
かものはいろ、あおかち、しろみどり、みはなだ、みずつるばみ、ふかきつるばみ

以上 78 語

奈良時代の特徴としては、すでに漢字が日本にもたらされており、「赤、黄、青、黒、白」などの中国的観念である陰陽五行説の影響が含まれている。さらに「浅」「濃い」「深き」「消し」「中」などの色の濃淡や光の明暗などを表現する言葉も出現している。「かち」という表現は、溶媒を加えるという意味の「かてる」という製法を含んだものとされている。それに、黄色味を帯びたという意味の「きかち」なども含まれており、どのような色味を帯びているかという表現も見られる。「えびぞめ」は、現在の海老と音が同じであるが、葡萄を「えびづる」「えびかずら」と読んでおり、現在とは異なるものを示す語がある。

平安時代の色彩語

平安時代の出現した語を次に示す。

いっこんぞめ、いまよういろ、うすいろ、くれないうすいろ、くろあけ、
こきくれない、さくらいろ、つつじいろ・ぞめ、あかきしらつるばみ、あかくす、
あさすぎぞめ、かき、かばぞめ、かんじいろ、きくちば、ちゃぞめ、ちょうじ・ぞめ、
ちょうぞめ、にじろ、はじ、ひわだのすぎいろ、あめ、うすくちば、
うすこう・いろ・ぞめ、うつぶしぞめ、おちくちばいろ、かんぞう・いろ、きくちなし、
くちば・いろ、こう・ぞめ、こきくちば、もくらん、やまぶき、あさくちなし、
いわぬいろ、かいねり、きくろ、きすみぞめ、こがね、そがいろ、ねりいろ、ふかき、
ふかきくちなし、あおこう、おみなえしいろ、かりやすぞめ、きわだ、みるいろ、
うすもえぎ、きくじん、なえいろ、まつば、もえぎ、やなぎいろ、やまばといろ、
にびはなだ、はなあさぎ、ふかきあいいろ、みずいろ、うすはなぞめ、かちかえし、
こん、こんるり、はな・いろ・ぞめ、るり・いろ、あおむらさき、ききょういろ、
しおん・いろ、ふじ、りんどう、むしのあお、あさきけしむらさき、うすいろ、
ねずみいろ、ふかきにびいろ、ふかきねずみいろ

等 150 語

平安時代の特徴としては、染めの技術と織りの技術の進歩である。「くちば・いろ」「るり・いろ」のように、色彩語のみの場合と色彩語と色が同時に表現される場合が存在する。また、「うすこう・いろ・ぞめ」「はな・いろ・ぞめ」のように、「色彩語のみ」「～染め」と「～色」が混在する場合がある。材料名が色彩名と一致しなくなったことが原因と考えられる。研究の対象としては、「色彩語のみ」「～染め」と「～色」を同一の色彩語として示す。何度も繰り返して染めた「かえし」や「うす」「こき」などの濃淡表現が増えたのも染めの技術と織りの技術の進歩と考えられる。「すおうのかち」では、同じ「かち」をつくる場合にも、染色技術の進歩により似た色がつくられるようになり材料名を付け足す場合も見られる。「こう・いろ・ぞめ」は、漢字では「薄香色」と示され「丁子」で染められたものである。「丁子」は染料としても用いられており色だけではなく、香でも表現されたものであると考えられる。同じく「丁子」で染めた「ちょうじぞめ」も存在しているが、「こうぞめ」と「ちょうじぞめ」は、表現の異なりから別の色彩語として提示する。

鎌倉・室町時代の色彩語

鎌倉・室町時代の出現した語を次に示す。

あかはな、うすはなざくら、うすあか、くろこうばい、こきあかい、こきこうばい、
にじいろ、べにぞめ、ももいろ、おちくりいろ、しょうじょうひ、まそお、うすがき、
うすちょうじぞめ、うすはじ、うめぞめ、かきのそ、かば、からちゃ、かわらけいろ、
きいろ、きちゃ、くりいろ、くりぞめ、くりうめ、くろうめ・ぞめ、くろちゃ・ぞめ、
こきかい、こがれいろ、こがれこう、さびいろ、しぶいろ・ぞめ、ひといろ、
あかくちなし、うこんぞめ、かれいろ、こきこう、こきやまぶき、こびちゃ、
すすたけ、やまももいろ、あさき、うすき、うすねり、かやいろ、こきき、
とりのこいろ、かりやす、なたね、みるちゃ、あおちゃ、かげもえぎ、こきもえぎ、
はいろ、あさみどり、あおぐろ、くろあお、ときわいろ、ろくしょういろ、こきあお、
うすあさぎ、かげあさぎ、こいあさぎ、あおねり、うすあお・ぞめ、うすずみなど、
こあい、みずはな、うすこん、はなむらさき、むくげ、むくのみいろ、こきうすいろ、
はいむらさき、ふしがね・いろ・ぞめ、ゆかりのいろ、ぶどう、なでしこ、しいにぶ、
ふしぞめ、ろういろ、うるみいろ、こうにぶいろ、こきいろ、つしみちいろ、
ふかねずみ

以上 86 語

鎌倉・室町時代の特徴としては、真偽表現の出現にある。「まそお」は「真朱」と漢字が
あてられ、本当のという意味がある。いろいろな材料から赤色に関わる「朱」「紅」「緋」
などがつくられるようになり、表現に真偽が現れたものと考えられる。これは、江戸時代
でさらに顕著となるが、庶民にも彩色文化が広がり安価な材料で似た色彩を表現する傾向
があると考えられる。

江戸時代の色彩語

江戸時代の出現した語を次に示す。

いまようぞめ、にごんぞめ、ほんもみ、もみ、もみまがいぞめ、あかぐろ、
あかこうばい、あさきあかい、うすあかね、うすべに、うすもみ、うすもみじ、
しちりょうぞめ、しんく、べになんど、べにばないろ、ほんくろがき、
ほんくろべにぞめいろ、ほんべに、まがいべに、しのめ、ちゃとび、ときいろ、
ときはいろ、とび、かきけんぼう、かきしぶいろ、かでんちゃ、かばすすたけ、
かばちゃ、がまちゃ、かわらけすすたけ、きかち、くるみいろ、くわちゃ、くわぞめ、
なんきん、くろすすたけ、くろちゃけんぼう、しんさいちゃ、けんぼう、こきうこん、
こぶちゃ、さびすすたけ、しがんちゃ、すこぶちゃ、すすたけちゃ、たまごすすたけ、
たまごちゃ、ちょうじすすたけ、ちょうせんすすたけちゃ、とのちゃ、ないきすすたけ、
ねずみけんぼう、ふかがわねずみ、みなとすすたけ、けんぼうりきゅう、ときわぞめ、
ふかがわおなんど、たまむしいろ、びろうど・いろ・ちゃ、あおたけいろ、
えどおなんどちゃ、おなんどちゃ、こいなんどちゃ、たんばいろ、おぼろけはないろ、
こいはないろ、べにみどり、べにみなと、いまむらさき、にせふじいろ、
なんきんふじ、にせむらさき、ゆうむらさき、きょうむらさき、むらさきまがいぞめ、
えびいろ、うるしねずみ、きぬねずみ、ぎんねずみ、くろねずみ、けんぼうくろちゃ、
こいねずみ・いろ、しろねずみいろ、すきやねずみ、ちゃけねずみ、どぶねずみ、
ねずみいろ・ぞめ、

等 455 語

江戸時代の特徴としては、「よしおか」「けんぼう」「おなんど」「だんじゅうろうちゃ」のようにその色を染めた人名や「ほん」「にせ」「まがい」などの真偽表現が多く出現していることから、染物屋が多く存在し庶民にも色が普及していたことが想像できる。他の特徴としては、その色が用いられた場所（江戸の役所で使われた江戸納戸）、つくられた場所（藍深川、鉄深川、深川鼠、江戸紫など）を出現していることである。また、鼠、紫、茶などの差異化が進み、「ねずみ」「むらさき」「ちゃ」「すすたけ」などの表現が増えている。

第3節 色彩語に関する時代別分析

第3節では、第2節までに示したように、歴史的な流れと命名に関係性があると考えられるために、時代ごとに特徴のある傾向について具体的に色彩語を提示し分析を行った後に、各時代を通した傾向について分析する。時代の分類としては、奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代とするが、これらの時代は、時間を区別するものとして用いている。口語として用いられている時代とは差がある文献を用いて抽出した色彩語をもとに分析を行っていることもあり、明確に時代をわけるものではない。

奈良時代の色彩語の分析

奈良時代の色彩語の出現した語数と全体に対する割合は次の表3のとおりである。

表3 奈良時代の出現した語の出現した語数と割合

出現した語数	材料名	何かに喩えた名	代表させた色彩名	ぼかした色彩名	濃淡	明暗	本物・偽物	不明
78 語	21 語	12 語	1 語	5 語	24 語	4 語	0 語	11 語
100%	26.9%	15.4%	1.3%	6.4%	30.8%	5.1%	0.0%	14.1%

奈良時代の特徴としては、「あかね」「すおう」「くちなし」「むらさき」「つるばみ」などのように、材料名が色彩名に変化した割合が約 56%と高い割合で生じているということである。「あかね」は、茜の根で染められた色を意味する色彩語である。茜の根はまさに赤く赤根であり、根の様子、植物名、色彩名に共通点が見られる。この材料となる「茜」が異なる領域の色彩名「茜色」に変化したということになる。この変化は、原因と結果をあらわす換喩ということができる。

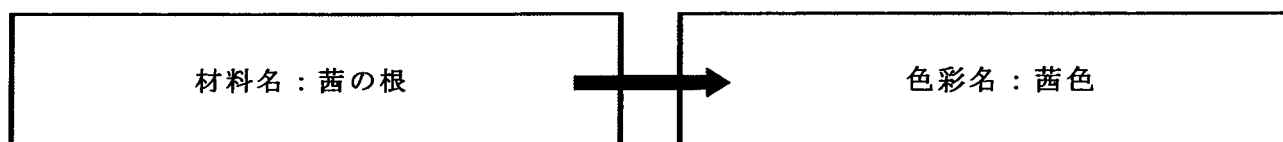


図10 「茜」に関する換喩の思考の方向性

沖森紅美（2010）によると宇津保物語と古今著聞集に現れる「かち」は、吉岡（2000）は「かてる」という、加えるという意味が語源としている。そのことから考えると、製造方法が色彩語として用いられていると考えられる。

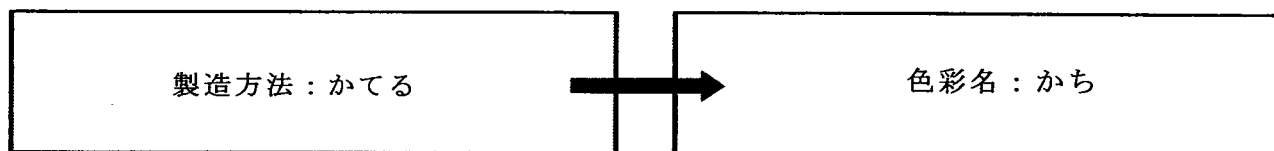


図 11 「かち」に関する換喩の思考の方向性

「すおう」は、インド南部やマレー半島などに生育するマメ科の樹木「蘇芳」の幹の芯に、明礬や灰をつかって発色させたやや青味のある赤色である。「くちなし」は、「支子・梔子」の晩秋に色づく実を煎じて染料とした黄味のある赤色である。「むらさき」は、ムラサキ科の多年草、「紫の根（紫根）」を材料として染めた赤味のある青色である。「つるばみ」も同様に、櫟・檜・柏・樫などブナ科の落葉樹の実、一般的に団栗と呼ばれる「橡」で染めた後、鉄分を含んだ液で発色させた黒色に近い色である。これらも原因と結果を表わす換喩による命名と言える。

「くれない」は「呉の藍」が「紅」になったとされている。地域を特定する語が含まれる色彩語であるが、この原料となる紅花は、エチオピアからエジプトあたりが原産地とされ、シルクロードを通じてもたらされたとされている。「からあい」は日本での奈良時代、中国の唐の影響で「唐藍・韓藍」と表記される同系の色である。材料としては「鴨頭草」とする説や「紅花」とする説があるが、「鶏頭」の古称であるとされている。「藍」は産地や種類により多少の色の違いがあるが、「藍」は植物から採った青色であり、最も親しみやすい染料として染料の総称としても用いられていた。そのことを考えると、染料として日本に輸入された可能性が高く、「くれない」「からあい」ともに染料名を示す色彩語で原因と結果を表わす換喩とすることができる。しかし、染料を藍と称したことは、上位概念の染料を下位概念の藍で表したことになり、提喩も含まれる色彩語であり二重のメタファーがかかっていることとなる。

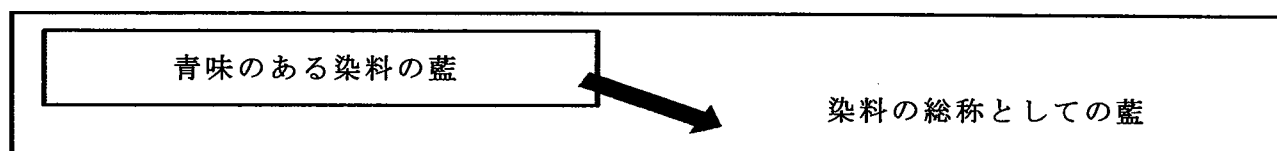


図 12 「藍」に関する提喩の下位概念で表現する思考の方向性

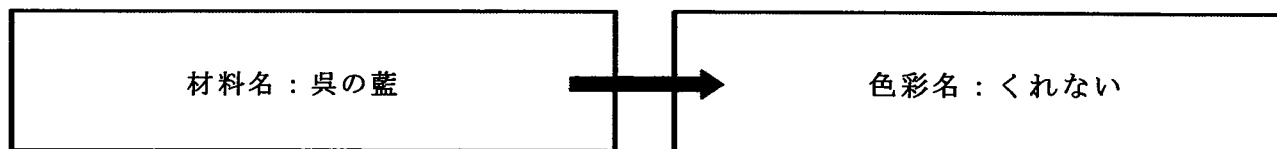


図 13 「くれない」に関する換喩の思考の方向性

また、「赤、黄、青、黒、白」などの中国的観念である陰陽五行説の影響が含まれている。これらは、日本にはなかった概念的な言葉である。象形文字から推測すると、中国では、青は春になり成長する草木の新緑の色、赤は燃え盛る日の色、黄は大地の光るような色、白は陰・西の意味を表し夕暮れ時のはっきりしない物の色、そして黒は、窓と煙の合字を使い窓から煙が出てふすぶられ煤で黒くなる色としてあらわされている。これらの陰陽五行説をアナロジーとして用いた可能性が考えられる。しかし、日本にも大和言葉において

の色や日本文化での価値づけもされており食い違う点もある。例えば、中国の五行説では黄は中央に位置し、最も重んじられた色である。黄河、黄道など重要な意味として使われている。しかし、そのころの日本での法令「衣服令」で黄色は無位であったために卑賤の色と捉えられていたという説もあり、文化・生活習慣による影響もみられる。さらに、漢字が音ではなく訓で用いられることから考えると、和語と漢語には違いがみられる。例えば、和語の「あを」は、「白馬」と書いて「あをうま」とされることがあることを考えると、白と黒の中間の幅のある色を表し「あわい」と関係すると考えられる。「セイ」と「あを」には違いがあると考えられる。日本語と中国語の共通点から直喩と隠喩を用いて日本語のそれぞれの色と置き換えた可能性も考えられるが、総合的に考えると、「赤、黄、青、黒、白」については、メタファーの種類を限定することができない。

「浅」「濃い」「深き」「消し」「中」については、濃淡や明暗の表現を色彩語に付け加えているが、色を形容する働きをしており、色自体に転義は見られず、色彩語の命名とは考えられない。「浅い」「深い」については、水に関係する漢字が使われており、水面から底までの距離を表わしているものと考えられるが、漢字の意味と大和言葉との関係を明確に見出すことができなかったために、形容として考える。そのことから、メタファーとしては取り扱わないものとする。

平安時代の色彩語の分析

平安時代の色彩語の出現した語数と全体に対する割合は次の表4のとおりである。

表4 平安時代の出現した語の出現した語数と割合と割合

出現した語数	材料名	何かに喩えた名	代表させた色彩名	ぼかした色彩名	濃淡	明暗	本物・偽物	不明
150 語	19 語	57 語	1 語	7 語	44 語	9 語	0 語	13 語
100%	12.7%	38.0%	0.7%	4.7%	29.3%	6.0%	0.0%	8.7%

平安時代の特徴としては、材料名を用いた色彩語は奈良時代とほぼ同数でありながら、何かに喩えた色が増えている。何かに喩えた色については、「ちゃぞめ」「こうばい」「まつば」「もえぎ」「やまばといろ」「わかなえいろ」である。「ちゃぞめ」は「茶染め」であるが、茶色系の色は、柿渋や茜、椎、矢車（榛の木の実）などを染料としたものが多く、茶を染料として用いられた記録を見つけられなかった。そのことから考えると、何かに喩えた直喩と隠喩の思考であると考えられる。

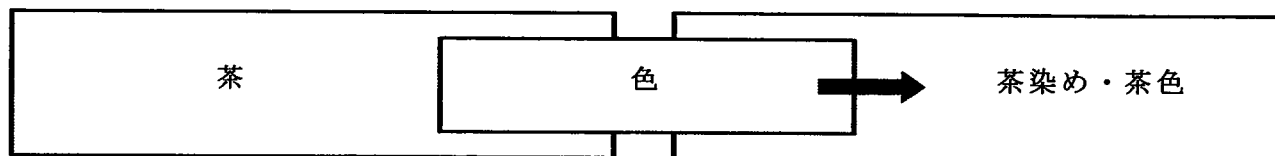


図14 「茶染め」に関わる隠喩の思考の方向性

「こうばい」「まつば」「もえぎ」「やまばといろ」「わかなえいろ」についても、「紅梅」

「松葉」,「萌木」,「山鳩」,「若苗」を染料に用いた記録がないようであり、同様に直喩と隠喩の思考になる。

濃淡表現については、出現した語数は約2倍になっているが、総数もほぼ2倍であり、割合としては増加していない。染める回数や染め方に関連する「あらぞめ」「かちかえし」「ふたあい」などが増えている。

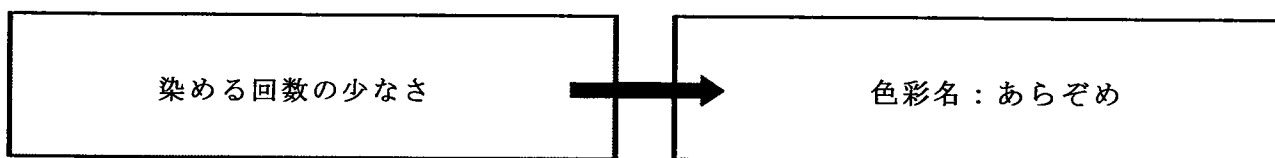


図15 「あらぞめ」に関する換喩の思考の方向性

「こう・いろ・ぞめ」は、漢字では「香色」と示され「丁子」で染められたものであるが、染めた際に香が残ることからこの名前の由来とされている。視覚を用いて認識する色に関する命名について、嗅覚が用いられており瀬戸（1995）の分類でいうと共感覚のメタファーであり、異なる領域のものに喩えられていることから換喩の思考であると考えられる。染める回数や染め方、香に関する色彩語は、染めの技術と織りの技術の進歩があったものの濃淡の割合が増えていないことを考えると、濃淡の形容詞だけで表現できなくなったものについて細分化する際に異なる領域に拡張したと考えられるが、今回の調査では明確にならなかった。

「いまよういろ」は濃い紅梅色である。漢字をあてると「今様色」であり、「今流行の色」「今時の色」ということである。その時代に用いられた色彩は数多くあるが、濃い紅梅色である色を代表させて「いまよういろ」と用いていることになる。そのことから、サラップ同様に上位概念を下位概念で表した提喩を用いた命名であると考えられる。

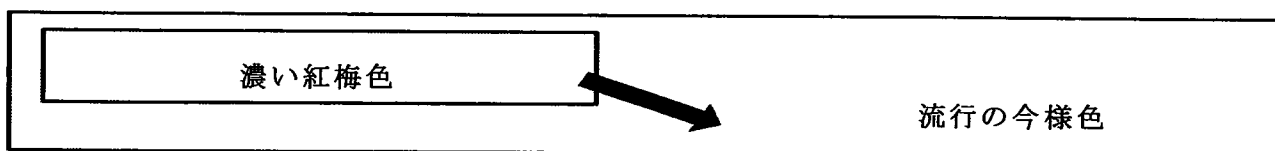


図16 「今様色」に関わる提喩の下位概念で表現する思考の方向性

「あおみどり」「あおじろ」など、色彩名と色彩名が合わさった色が登場しているが、これは、これも濃淡表現・明暗表現と同様、形容と考えられる。よって、メタファーには含まないものとする。

鎌倉・室町時代の色彩語の分析

鎌倉・室町時代の色彩語の出現した語数と全体に対する割合は次の表5のとおりである。

表5 鎌倉・室町時代の出現した語の出現した語数と割合

出現した語数	材料名	何かを喩えた名	代表させた色彩名	ぼかした色彩名	濃淡	明暗	本物・偽物	不明
86語	7語	29語	2語	1語	30語	2語	0語	16語
100%	8.1%	33.7%	2.3%	1.2%	34.9%	2.3%	0.0%	18.6%

鎌倉・室町時代として特筆すべきは、「うすずみなんど」「まそお」である。「うすずみなんど」の「なんど」は、貴族の邸宅にある「納戸」で奥の暗い様子を表わすという説と役職名である「納戸役」「納戸方」で流行った色であるという説がある。流行から考えると、鎌倉・室町時代よりも江戸時代が多く、役職名も江戸幕府の役職であるとされている。そのことから考えると、この「うすずみなんど」は、鼠色がかった藍色と「納戸」の奥の暗い様子が共通点となり隠喩の思考が働いたものと考えられる。



図17 「納戸」に関わる隠喩の思考の方向性

「まそお」は「真朱」と漢字があてられ、真偽表現の出現にある。いろいろな材料から赤色に関わる「朱」「紅」「緋」などがつくられるようになり、表現に真偽が現れたものと考えられる。これは、江戸時代でさらに顕著となるが、庶民にも彩色を楽しむ文化が広がり安価な材料で似た色彩を表現する傾向があると考えられる。その色を強調するような思考が働いているが、転義が行われておらずメタファーとしては取り扱わない。

江戸時代の色彩語の分析

江戸時代の色彩語の出現した語数と全体に対する割合は次の表6のとおりである。

表6 江戸時代の出現した語の出現した語数と割合

出現した語数	材料名	何かを喩えた名	代表させた色彩名	ぼかした色彩名	濃淡	明暗	本物・偽物	不明
455 語	25 語	251 語	64 語	23 語	37 語	26 語	24 語	29 語
100%	5.5%	55.2%	14.1%	5.1%	8.1%	5.7%	5.3%	6.4%

江戸時代として特筆すべきは、まず、「よしおか」「けんぼう」「だんじゅうろうちゃ」のように人名が用いられていることである。「よしおか」「けんぼう」は「吉岡憲法」の名前で、「けんぼうくろちゃ」は染物屋の吉岡で染めた黒茶色であり、色彩と隣接関係にある製作者の名前が用いられている。このことから、製作者と産物の関係にあると考えられるが、「憲法がつくった」という形容と考えられる。よって「けんぼうくろちゃ」の「けんぼう」にはメタファーが存在しないと考えられる。しかし、「けんぼう」「よしおかいり」「よしおかぞめ」など色彩語と共存しない表現が見られる。これらは、色彩語として用いられていると考えられる。そのことから、「けんぼう」「よしおかいり」「よしおかぞめ」に関しては、人と色彩語という隣接領域にあり製作者と産物の関係であることから換喩といえる。前述のとおり、茶色自体にも隠喩が用いられており次のようなことが考えられる。

飲む「茶」の色との共通から色彩語「茶」が生じ、黒味がかかった「茶」に製作者の名前が加えられ、製作者そのものが「色彩語となった」、すなわち、隠喩と換喩の二重のメタファーが加えられていると考えられる。ただし、今回の調査では、形容と換喩の順序性は明確になっていない。

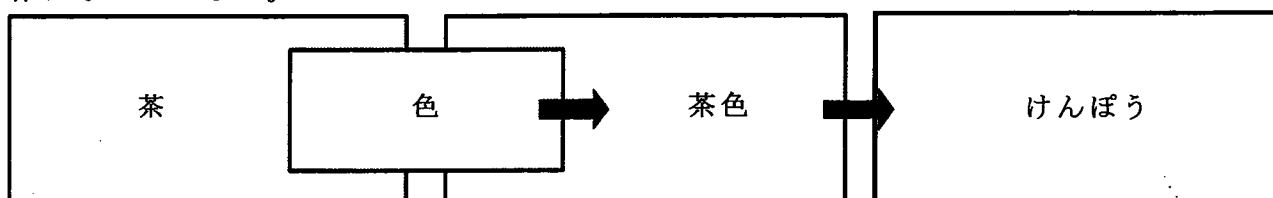


図 18 「けんぼう」に関する換喩の思考の方向性

つくられた場所に関係する色には、「江戸紫」「藍深川」「鉄深川」「深川鼠」などがある。例えば、「江戸紫」は江戸でつくられたという形容された紫だと考えられる。メタファーにはなっていない。しかし、江戸時代の役職名である「納戸方」に関する「おなんど」には、「おなんど・いろ・ぞめ」「えどなんど」などが見られる。この場合納戸に敬意を表す「御」が結びついていることから場所の「納戸」ではないと考えられる。また、色彩語を伴わず転義があるため「おなんど・いろ・ぞめ」「えどなんど」は、「なんど」自体が色彩語として用いられていると考えられる。色彩と隣接関係にある役職名が色彩語となっていることから、換喩が成り立つ。

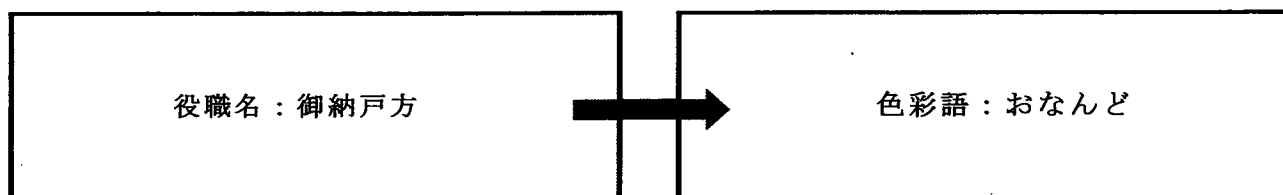


図 19 「おなんど」に関する換喩の思考の方向性

「ぎんおなんどちゃ」は、色彩語が2つ結びついている。御納方がよく用いる茶色に銀色味があるという形容詞が結びついていると考えられる。すなわち、二重の形容ということでメタファー思考がないと考えられる。

第4節 古典における色彩語の考察

以上、この章では、古典における色彩語に関わるメタファーについて分析した。古典の色彩語において、2点の事が確認された。1点目は、色彩の増加に伴い色彩語をより詳細に区別するためにメタファーが用いられていることがわかった。2点目は、材料名から色彩語に変化する換喩から始まり、他のものに喩える隠喩を経て、提喩へ移行する傾向があることが確認された。

第3章 色彩語に関する児童の推論（その1） - データ編

第3章では、児童の言語使用に見られる色彩語の多義性や変化について考察するために、児童に行った色彩語から連想する語のアンケートについて、調査方法と表出された語の整理を行う。ここで整理された語について次の第4章で考察を加えるものとする。以下、第1節では、調査目的と手順を提示する。第2節では児童による反応語¹を概観したうえで表出した反応語を概観し、第3節では黒と白の2色を、第4節では赤と青と黄の3色を取り上げ、概観した後に具体的な反応語を示す。

第1節 目的と手順

第1節では、調査の目的と調査の手順について明らかにする。第2章において、古典の色彩の命名についてどのような推論が用いられているかを考察してきた。それに対し、この章では現代ではどのような推論が行われているかを明らかにすることが目的である。調査の方法、項目、対象については、表7に示す。

表7 調査の概要

調査方法	3分間の色彩語からの反応語句を自由記述する質問紙法
調査項目	黒・白・赤・青・黄の5色についてこの順序で行う
調査対象	平成26年度の第2学年児童96名と第6学年児童121名

調査の方法としては、現代における色彩語にかかわる推論を分析するために、児童に対して質問紙法を用いて黒・白・赤・青・黄の連想にかかわる反応語を収集した。現代において色彩語を命名する機会が少ないために、色彩語から連想する事物についての調査を行うことにした。連想とは、ある刺激に対しての反応のことで、事象レベルだけではなく、語（句）レベルでも発生する。語（句）レベルの連想である語連想（word association）の中で最初に与えられた語を刺激語（stimulus word）、引き出される語を反応語（response word）という。調査方法の説明を音声で行った後、各色について3分間ずつの反応語を記入する方法で行った。音声の説明と3分間の測定時間は、CDを作成し調査対象校に配布して実施してもらった。音声の内容は資料編の「資料2 質問紙の内容」に示す。

調査項目は、陰陽五行説など古代から用いられている色彩語である黒・白・赤・青・黄の5色とした。現代では、古典において使用されていたが使われていない色彩語が存在するからである。そこで、調査対象となる色彩語については、古典から使用されていて現代でも一般的に使用されている色彩語、陰陽五行説の黒・白・赤・青・黄の5色とした。すなわち、この章において、刺激語は黒・白・赤・青・黄の色彩語で、反応語は児童の記述した内容である。

調査対象として、平成26年度の第2学年96名と第6学年121名である。調査校を行ったのは、兵庫教育大学附属小学校、佐賀県武雄市立武内小学校、佐賀県武雄市立東川登小学校である。

そこで、第2節ではデータの概要について、第3節では黒と白のデータの詳細、第4節では赤と青と黄のデータの詳細を示す。

第2節 得られたデータの概要

第2節では、得られたデータの概要を示すために、延べ反応語数について整理する。調査項目である黒、白、赤、青、黄とその総数である五色について整理する。集計する際には、できるだけ児童の記述に対して忠実に記すことに配慮した。「マジック」と「マーカー」のように識別が曖昧なものや「鉛筆」と「シャープペンシル」、「色鉛筆」のように同じような内容のものに関しては「鉛筆・シャープペンシル・色鉛筆」のように並列で示した。個人で「鉛筆」「シャープペンシル」のように両方の記述がある場合は、出現数を2として集計した。そこで、出現語の数を示す場合には「延べ反応語数」、出現語の項目を示す際には「異なり反応語数」として表記している。また、判別できなかった文字や対象が確認できなかったものについては不明とし、考察の対象とはしていない。ただし、存在しないと確定できないために、延べ反応語数としては掲示することとした。詳細については、「資料3 児童の色彩語の連想に関する推論詳細データ」で示す。

色彩語（黒・白・赤・青・黄）からの連想に関する出現語概要を示すために、延べ反応語数について第2学年と第6学年にわけて表8に示す。また、第2学年と第6学年の調査対象数に差があるために、表8と同様の項目で平均値を算出し表9に示す。

算出方法は次の通りである。黒に関する出現語は、第2学年では、総数687個の出現が見られ、1人平均7.2個である。第6学年では、総数1,321個の出現が見られ、1人平均10.9個である。平均で比較すると、第6学年の方が約4個程度出現数が多いことがわかる。同様に、白では、第2学年では、総数895個の出現が見られ、1人平均9.3個である。第6学年では、総数1,650個の出現が見られ、1人平均13.6個である。赤では、第2学年では、総数874個の出現が見られ、1人平均9.1個である。第6学年では、総数1,669個の出現が見られ、1人平均11.7個である。青では、第2学年では、総数879個の出現が見られ、1人平均9.2個である。第6学年では、総数1,566個の出現が見られ、1人平均12.9個である。黄では、第2学年では、総数898個の出現が見られ、1人平均9.4個である。第6学年では、総数1,615個の出現が見られ、1人平均13.3個である。

表8 色彩語からの連想に関する出現語概要

項 目	延べ反応語数（単位：語）					
	黒	白	赤	青	黄	合計
第2学年の延べ反応語総数	687	895	874	879	898	4,233
第6学年の延べ反応語総数	1,321	1,650	1,669	1,566	1,615	7,821
全体の出現総数	2,008	2,545	2,543	2,445	2,513	12,054

表9 色彩語からの連想に関する出現語概要

項 目	延べ反応語数（単位：語）平均値は小数第3位を四捨五入					
	黒	白	赤	青	黄	合計
第2学年の延べ反応語平均数	7.1563	9.3229	9.1042	9.1563	9.3542	44.094
第6学年の延べ反応語平均数	10.917	13.636	13.793	12.942	13.347	64.636
全体の出現平均数	9.2535	11.728	11.719	11.267	11.581	55.548

第2学年、第6学年のいずれも、黒色についての出現数が少ない。調査の進め方については、黒に関する連想の調査を行った後に、同様に、白、赤、青、黄と進めていった。順序を変えた調査や、実施調査の前に対象項目以外での予備調査を行っていないが、白、赤、青、黄において3分間における延べ反応語数に差がないことから、3分間に記述できる反応語は、第2学年では約9個、第6学年では約13個と想像できる。そのことから考えると、黒に関する連想の反応語の出現数の少なさは、調査の順序と調査形式についての慣れの違いによるものであると考えられる。黒に関する連想の調査で、形式に慣れた児童が、同様に進められた白、赤、青、黄において出現数が上昇したと考えられる。

反応語に物理的に刺激語の色が含まれる場合、その色の共通点から隠喩を用いた推論により連想されたと予測できる。そこで、異なり反応語の中に物理的に刺激語が含まれるか否かについて整理し、表10に示す。黒・白・赤・青・黄の刺激語の色によって多少の差があるが、すべてにおいて刺激語の色が含まれる異なり反応語が多いことがわかる。

表10 刺激語の色が含まれる反応語数（認識不明の語を除く）

単位：語

項 目	黒	白	赤	青	黄	合計
刺激語の色が含まれる異なり反応語数	229	317	258	199	292	1295
刺激語の色が含まれない異なり反応語数	104	120	156	180	146	706

異なり反応語に物理的に刺激語の色が含まれるか否かについて、発達段階によって違いがあるのかということを確認するために、第2学年と第6学年の異なり反応語数を比較する。その表として、刺激語の色が含まれる反応語を表11に、刺激語の色が含まれない反応語を表12に示す。また、調査対象となる児童数が異なるために、平均値を（ ）の中に示す。平均値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで示す。

表11 刺激語の色が含まれる異なり反応語数の学年別分析（認識不明の語を除く）

単位：語

項 目	黒	白	赤	青	黄	合計
第2学年の異なり反応語数	109 (1.1)	192 (2.0)	147 (1.5)	110 (1.1)	155 (1.6)	713 (7.4)
第6学年の異なり反応語数	189 (1.6)	253 (2.1)	208 (1.7)	159 (1.3)	240 (2.0)	1,051 (8.7)

表12 刺激語の色が含まれない異なり反応語数の学年別分析（認識不明の語を除く）

単位：語

項 目	黒	白	赤	青	黄	合計
第2学年の異なり反応語数	30 (0.3)	25 (0.3)	26 (0.3)	48 (0.5)	37 (0.4)	166 (1.7)
第6学年の異なり反応語数	92 (0.8)	106 (0.9)	141 (1.2)	165 (1.4)	127 (1.0)	638 (5.3)

刺激語の色が含まれる反応語について、第2学年での異なり反応語平均個数は、黒 1.1 個、白 2.0 個、赤 1.5 個、青 1.1 個、黄 1.6 個、合計では 7.4 個であった。第6学年での平均個数は、黒 1.6 個、白 2.1 個、赤 1.7 個、青 1.3 個、黄 2.0 個、合計では 8.7 個であった。合計で第2学年と第6学年を比較すると、平均 1.3 個の差がある。

刺激語の色が含まれない反応語について、第2学年での異なり反応語平均個数は、黒 0.3

個、白 0.3 個、赤 0.3 個、青 0.5 個、黄 0.4 個、合計では 1.7 個であった。第 6 学年での平均個数は、黒 0.8 個、白 0.9 個、赤 1.2 個、青 1.4 個、黄 1.0 個、合計では 5.3 個であった。合計で第 2 学年と第 6 学年を比較すると、平均 3.4 個の差がある。

第 2 学年において、刺激語の色が含まれる反応語をもとに刺激語が含まれない反応語の比率を算出すると、0.23 倍となる。同様に第 6 学年において比率を算出すると、0.60 倍となり、第 6 学年の方が刺激語の色を含む反応語か否かについての差が少ないということになる。

異学年間の異なり反応語平均数の差や同学年における刺激語の色を含むか否かの比較を考えると、第 6 学年の方が「刺激語が含まれない反応語」をたくさん表出していることがわかる。

以上、この節では、調査により得られたデータを概観して大きく 2 点について整理した。1 点目は、色彩語からの連想に関する延べ反応語数について整理した。まず、色によって延べ反応語数に違いがあるかについてである。色が変わっても延べ反応語数に違いがなかったことがわかった。次に、発達段階によって延べ反応語数に違いがあるかである。発達段階によって違いがあるかについては、本調査において違いがあると明言できないことがわかった。2 点目は、刺激語の色が含まれるか否かについて整理した。まず、刺激語の色が含まれる反応語が多く出現していることが確認された。次に、発達段階によって、刺激語の色が含まれない反応語の出現率に差があるということが確認された。

第 3 節 黒・白

第 3 節では、黒と白に関する得られたデータを大きく 2 つのことについて整理する。まず、色に関する連想で出現した概要を示すために、出現した語の総数を提示する。次に、黒と白のそれぞれについて具体的な反応語を示す。

黒と白からの連想に関する異なり反応語数は次の表 13 の通りである。各学年での反応語に特徴があるかということを明確にするために、項目を 3 つに分けた。第 1 項目は、第 2 学年と第 6 学年の児童において共通に出現した反応語、「第 2 学年・第 6 学年共通の反応語」である。第 2 項目は、第 2 学年のみで出現した反応語を「第 2 学年独自の反応語」とし、第 3 項目は、第 6 学年のみで出現した反応語を「第 6 学年独自の反応語」として整理した。

表 13 色彩語からの連想に関する異なり反応語数の概要（黒・白）

項 目	異なり反応語数類数	
	黒	白
第 2 学年・第 6 学年共通の異なり反応語数	88 語	146 語
第 2 学年独自の異なり反応語数	51 語	71 語
第 6 学年独自の異なり反応語数	193 語	213 語
異なり反応語総数	332 語	430 語

※識別不明な語を含む

黒の異なり反応語について、第 2 学年では、共通の異なり反応語数 88 語と第 2 学年独自の異なり反応語数 51 語を合わせて 139 語となる。同様に第 6 学年では、88 語と 193 語を

合わせて 281 語となる。第 2 学年と第 6 学年を合わせると、共通の異なり反応語数 88 語と第 2 学年の異なり反応語 51 語と第 6 学年の異なり反応語 193 語を合わせた 332 語となる。白に関しても同様である。黒と白ともに、第 2 学年独自の異なり反応語が少なく、第 6 学年独自の異なり反応語が多いことがわかる。

次に、黒と白の黒と白のそれぞれについて、各学年での反応語に特徴があるかということを確認するために、同様の 3 項目「第 2 学年・第 6 学年共通の異なり反応語」と「第 2 学年独自の異なり反応語」と「第 6 学年独自の異なり反応語」にわけ、具体的な異なり反応語を示した。さらに、第 4 章で「色彩語からの推論」について分析するために、「物理的にその色が含まれるもの」と「物理的にその色が含まれないもの」にわけて整理した。その際、部分としてその色を含む場合と一部の種類にその色を含む場合は「物理的にその色が含まれるもの」に含める。また、実存しない架空のものについては、物理的な色が識別できないために、「物理的にその色が含まれないもの」に含めるものとする。

表 14 黒色に関する反応語の分類例（詳細は資料 3 の 3-1 から 3-3 に示す。）

学年	共通の反応語例	第 2 学年独自の反応語例	第 6 学年独自の反応語例
物理的に黒が含まれるもの	色鉛筆、クレヨン・クレパス、墨・炭・墨汁、糸・ひも、色紙・折り紙、画用紙、パンダ、犬、黒猫、カラス、ブラックバス、髪の毛、玄武岩、影、雨雲、煙、闇、夜空、暗い、文字、音符、胡麻、ダークチョコレート、眼鏡、かばん、くろくん（絵本キャラクター）、ピアノ、鍵盤、ゴム など 71 語	アゲハチョウ、カブトムシ、ハエ、馬、ロバ、リスの模様、アボガド、絵本、地面、充電器、定規・ものさし、図、スイミー（教科書教材主人公）、なわとび、海苔、乗り物・車、乗り物・自転車、ピアノカバー、スパッツ、タイツ、望遠鏡、ほうき、枕、マスク、毛布 など 38 語	コーラ、ひじき、醤油、なす、黒点、日食、すす・スモーク、夜の森、かび、蝙蝠、熊、ゴリラ、しまうま、ジャガー、ひぐま、くまもん（キャラクター）、サッカーボール、サングラス、ストラップ、スピーカー、電話、音楽プレイヤー、石炭、鉛、筆、黒字、判子、腕時計、液体、機関車、車、オセロ、お歯黒、中華鍋、布、シート、服・喪服・式服、筆箱（男子用） など 116 語
物理的に黒が含まれないもの	悪魔、犬の名前、宇宙、黒板、こげ・こげる、ゴミ、地獄、電気、電子黒板、ほこり、夜、ブラックホール、黒田さん、くろみちゃん、色、おばけやしき、トンネル 以上 17 語	おばけ、くろおに、黒川（人名）、木、銀、サッカー、血、地下鉄、土、洞窟、猫の名前、森、虫 以上 13 語	悪い、悪い人、犯罪、腹黒い、熱い・暑い、雨、あられ、暗黒、いじめ、裏、落ち込む、清い心、嫌い、刑務所、怖い、死、白黒はっきり、制圧、暴力、戦争、葬式、卒業式、月、星、強い、辛い、敵、深い、冬、平日、無次元、闇金、闇鍋、欲、執事、ともだち、姉ちゃん、堕天使、魔女、鬼、ライト など 77 語

上の表 14 が、黒色に関する出現した反応語の具体例を整理したものである。2 学年合わせた場合では「物理的に黒が含まれないもの」よりも「物理的に黒が含まれるもの」が多い傾向にある。また、第 2 学年よりも第 6 学年の方が、「物理的に黒色が含まれないもの」が多い。その黒色が含まれないものの中で、第 2 学年では具体的なものや架空のものでも静止画や動画で示されているものなど、視覚的にとらえられるものが多い。それに対して、

第6学年では、「落ち込む」「熱い・暑い」「強い」などの心情や感覚的、または、「犯罪」「いじめ」などのように色で表すことが困難なものが含まれる。

次に、白に関する出現した反応語の具体例を黒色と同様に整理し、表15に示す。

表15 白色に関する反応語の分類例（詳細は資料3の3-4から3-6に示す。）

学年	共通の反応語例	第2学年独自の反応語例	第6学年独自の反応語例
物理的に白が含まれるもの	絵具、クレヨン、糸、生地・布、画用紙、レース、紐、バック、犬、うさぎ、牛、白鳥、白馬、白熊、パンダ、卵、歯、目・白目、太陽、息、霜、泡、雪、湯気、綿、塩、砂、大根、豆腐、カリフラワー、綿菓子・綿あめ、米・ごはん、新幹線、エアコン・ヒーター、扇風機、電気・電球・ライト・蛍光灯、洋服 など131語	アスパラガス、桜、シロイルカ、白タヌキ、真珠、鶏、霰、貝・貝殻、鉛筆、鉛筆研ぎ、日の丸、消火器（市販・簡易）、モンシロチョウ、ビブス、筆、ベランダ、棒、マット、マリオ（アニメキャラクター）、ユニフォーム、冷蔵庫、廊下、マカロン、紙コップ、紙粘土、紙飛行機、看板、切符、 など61語	真っ白、煙、砂浜、月、ホワイトタイガー、シチュー・ホワイトルー、練乳、ウェディングドレス、白装束、白衣、ホワイトハウス、部屋、星、骨、勾玉、まな板、水玉、無地、モノクロ、リボン、リモコン、カメラ、腹巻、ハンカチ、布団、スーツ、制服、枕、軍手・手袋、キャンパス、液体、ウルトラマン（テレビキャラクター） など121語
物理的に白が含まれないもの	色、ダイヤ・ダイヤモンド、天国・天界、天使、日曜日、光、病院、冬、窓、マヨネーズ、幽霊・おぼけ、シロ（ペットの名前）、結婚式、風呂、花 以上15語	英語、ガラス、空気、唇、猿、静電気、キャラクター、信号機、菓子、模様 以上10語	医者、白井さん（人名）、担任の先生（白髪）、埼玉西武ライオンズ、郵便局、葬式、死、平和、仏、神様、心、勝ち、明るい、頭が真っ白、お洒落、潔白、正義、善、晴ればれ、涼しい、自由、純真・純白、シンプル、ふわふわ、夢、未来、無欲、ゼロ、無限、無罪、北海道、日本、アクセサリー、水晶、黒、白黒、紅白、未知の世界 など92語

以上が、白色に関する出現した反応語の具体例を整理したものである。物理的に白色が含まれないものの中で、第2学年では「ガラス」「空気」などの具体的なものや「怪盗キッド」「天使」などの架空のものでも、一般的に静止画や動画で示されているものなど視覚的にとらえられるものが多い。それに対して、第6学年では、「明るい」「晴れ晴れ」「清潔」「涼しい」などの心情や感覚的、または、「未知の世界」「正義」のように色で表すことが困難なものが含まれる。

以上、黒と白について、色彩語からの連想に関する異なり反応語の概要と具体的な異なり反応語を整理した。

第4節 赤・青・黄

第4節では、赤・青・黄についてデータを整理する。黒と白の場合と同様、まず、入りに関する連想で出現した異なり反応語の概要を表16に示し、赤と青と黄のそれぞれについて具体的な反応語を表17から表19に示す。

表 16 色彩語からの連想に関する異なり反応語数の概要（赤・青・黄）

項 目	異なり反応語数類数		
	赤	青	黄
第 2 学年・第 6 学年共通の異なり反応語数	114 語	109 語	122 語
第 2 学年独自の異なり反応語数	59 語	55 語	71 語
第 6 学年独自の異なり反応語数	235 語	222 語	245 語
異なり反応語総数	408 語	386 語	438 語

黒・白と同様に、赤・青・黄においても、第 2 学年独自の異なり反応語が少なく、第 6 学年独自の異なり反応語が多いことがわかる。

次に、黒・白と同様に、赤・青・黄について「第 2 学年・第 6 学年共通の異なり反応語」と「第 2 学年独自の異なり反応語」と「第 6 学年独自の異なり反応語」にわけ、具体的な異なり反応語を例示する。さらに、第 4 章で「色彩語からの推論」について分析するために、物理的にその色が含まれるか否かの 2 項目について整理する。

赤に関する反応語の具体を次の表 17 に示す。

表 17 赤色に関する反応語の分類例（詳細は資料 3 の 3-7 から 3-9 に示す。）

学年	共通の反応語例	第 2 学年独自の反応語例	第 6 学年独自の反応語例
物理的に赤が含まれるもの	赤鉛筆、赤ペン、口紅、車、ポスト、赤色灯、画用紙、洋服、リボン、赤ずきん、靴下、鉢巻、夕日、夕焼け、いちご・野イチゴ、梅・梅干し、人参、唐辛子、西瓜、ざくろ、トマト、椿、バラ、もみじ、海老、蟹、ザリガニ、蛸、唇、血液・血管・鼻血、キムチ、紅組、東京タワー など 99 語	あかしし、金魚、ロブスター、鶏冠、鳥、ダリア、芋、木の実、ドラゴンフルーツ、きじ、お守り、紐、紙テープ、あかちゃん（ヨードチンキ）、赤丸、エプロン、鉛筆立て、大玉、傘、薬、靴、靴ひも、鍵盤ハーモニカ、ごみ箱、財布、座布団、図・線、スリッパ、ソファ、そり、長靴、ネックレス、バイク、橋、花火、ブレーキのランプ など 48 語	真紅・真っ赤、マニキュア、赤潮、朝日、夕・夕方、赤身、刺身、鮭・サーモン、肉、ウインナー、ソーセージ、ハム、ベーコン、一味、七味、唐辛子・ハバネロ、脳、肺、心臓、小腸、怪我・傷口、オパール、新幹線、日の丸・国旗、ピン止め、笛、ボンドのキャップ、マグマ・溶岩、煉瓦、レッドカーペット、赤い糸、赤い羽根、赤備 など 109 語
	赤鬼、色、火山、火事、カレンダー、サンタクロース、信号機、ダイヤモンド、太陽、チョコ、虹、ハート、旗・国旗、花、枯葉・葉 以上 15 語	秋、いのち、絵、コーラ、自動販売機、時計、任天堂、歯ブラシ、絆創膏、かざり、スプレー 以上 11 語	紫、ピンク、紅白、赤字、注目、華やか、明るい、温かい、暑い、怒り、止まれ、警告、勢い、祝い、強い、辛い、殺意、残酷、災い、歴史、運命、戦争、ストレス、赤ちゃん、赤とんぼ、嘘、アメリカ、京都、神社、吸血鬼、地獄、消防士、夏、日曜日、バレンタイン、ナイフ、ミニ黒板、名鉄、運動会、植物、紅葉、弓矢、爪、骨、銀杏、キャンプファイヤー、サラダ 以上 126 語

以上が、赤色に関する出現した異なり反応語の具体例を整理したものである。物理的に赤色が含まれないものの中で、第2学年では、例えば「自動販売機」のように、自動販売機全部が赤色ではないが、ある特定の企業の自動販売機に赤色が多くつかわれるなどの、代表させ上の概念で示すような例示が出現している。それに対して、第6学年では、「怒り」「殺意」「残酷」「災い」「歴史」などの心情や感覚的、または、色で表すことが困難なものが含まれる。

青に関する異なり反応語の具体を表18に示す。

表18 青色に関する反応語の分類例（詳細は資料3の3-10から3-12に示す。）

学年	共通の反応語例	第2学年独自の反応語例	第6学年独自の反応語例
物理的に青が含まれるもの	絵具・インク・ペンキ、クレヨン・クレパス、新幹線、糸・紐、生地・布、洋服、バック・袋・かばん、筆箱、いるか、養生シート、カーテン、自転車、眼鏡・フレーム、うんてい、ラジカセ、コップ・カップ、棚・ロッガー、バケツ、キャップ、テープ・ガムテープ、ごみ箱、魚、名札、磁石、サファイア、ドラえもん（アニメキャラクター） など73語	スプレー、紙テープ、毛糸、線・図形、文字、蚊帳、カルタ、カレンダー、看板、座布団・クッション、下敷き、ジャングルジム、スタンプ、すべり台、積み木、ネクタイ、ネット、貼り紙、ハンガー、ビーズ、ビブス、風船、布団、ブランコ、ホース、ボタン、マカロン、虫かご、メガネケース など38語	紫、緑、藍色、水色、打ち身、葡萄・ブルーベリー、茄子、トマト、パプリカ、タピオカ、飴・キャンディー、グミ、かき氷、シロップ、スカイブルー、オオイヌノフグリ、勿忘草、すみれ、チューリップ、葉、鳥、トカゲ、蟹、サメ、LEDライト、貝・貝殻、かつら、鐘、道路標識、ブルーハワイ、ブルトナー、サファイヤ、ヨット、洗面器、トイレ、風呂 など88語
物理的に青が含まれないもの	家、台風・ハリケーン、時計、涙、水たまり、模様、夜、黒板、沼、火・炎、水晶・クリスタル、男・男の子、地図、波、虹、晴れ、ソーラーパネル、青りんご、色、風、宇宙、風神、雨、地球、氷、友だち、池、信号機、湖、川、空、水、海・マリン、宝石、花、ソーダ・サイダー・ラムネ 以上36語	ガラス、紺、青鬼、ゲーム、さぼてん、水道、ダイヤ、歯磨き粉、部屋、夜空、水仙、あおき（人名）、エルサ（アニメキャラクター） 以上13語	6月、OK、white、アニメ、お墓、おばけ、お菓子、こい、フリーパス、個体、ハワイ、エベレスト山、格好いい、悲しみ、環境、寒色、落ち着き、冷静、泣く、流す、優しい、優秀、冷え・冷たい、病気、睡眠、鮮やか、速い、夏、冬、窓、滴、滝、ダム、津波、水遊び、水鉄砲、青年、サッカー日本代表、ブルーギル、魔女、龍・ドラゴン 以上131語

物理的に青色が含まれないものの中で、全体的には「水」に関係するものが非常に多いことがわかる。第2学年では具体的な「ガラス」「夜空」のようなものや「青鬼」「エルサ」などの架空のものでも一般的に静止画や動画で示されているものなど視覚的にとらえられるものが多い。また、赤で示した「自動販売機」のように、代表させて上位の概念で示すような例示も見られる。例えば「信号機」や「部屋」などである。それに対して、第6学年では、「悲しみ」「落ち着き」「冷え」「格好いい」「泣く」などの心情や感覚的、または、「睡眠」「病気」など色で表すことが困難なものが含まれる。

最後に、黄に関する反応語の具体を表19に示す。

表 19 黄色に関する反応語の分類例（詳細は資料 3 の 3-13 から 3-15 に示す。）

学年	共通の反応語例	第 2 学年独自の反応語例	第 6 学年独自の反応語例
物理的に黄が含まれるもの	色鉛筆, 絵具・ペンキ・インク, クレヨン, 靴・シューズ, 枕, ライオン, ランドセル, 旗, 鉢巻, ハンカチ, バック, キリン, 虎, 猫, ひよこ, チーター, 蝶, 蜂, 蜂蜜, 銀杏, マンゴー, グレープフルーツ, たんぽぽ, 菜の花, 向日葵, たくあん・漬物, 雷, 光, 星, 500 円玉, 水筒, 滑り台, ドクターイエロー, 砂, 卵焼き・オムレツ, 目玉焼き など 101 語	ミニカー, 看板, リボン, きつね, 雛・子鳥, ヒョウ, すだち・酢橘, サンゴ礁, 卵ごはん, クリーム, マカロン, ラーメン, かずのこ, トパーズ, 5 円玉, ネット, 粘土板, バッタ, バット, 歯ブラシ, 歯磨き粉, 貼り紙, ハンガー, 笛, 船, 防犯ブザー, メガネケース, 文字・英語 など 54 語	駅のホームの黄色い線, 花粉, 点字ブロック, 反射板, ユニフォーム, 麦わら帽子, 金メダル, ラッパ, 額・額縁, 鐘・ベル, 画鋏, PM2.5, 稲, 王冠, 国語, 国語辞典, ゆず, パパイヤ, ミニトマト, 山梨, 梨, ザボン・文旦, 黄色い人参, 柿, 金柑, 蛙, ホタテ貝, 芋, 油揚げ, 飴, パン・パン生地・ケーキ, ゆで卵, 脂肪, サラダ油, オリーブオイル, 黄粉, 泥, 濁った川, ピラミッド, ファラオ, ツタンカーメン, 地層, 黄砂, 金閣寺 など 139 語
物理的に黄が含まれないもの	黄色, 輝き, きらきら, 国旗, 信号機, 雷, 光, 星, 静電気, 電気・ライト・明かり, 太陽, 注意, 友だち, 葉・紅葉, 花, 春, ボンド, 虫, りんご, 朝ごはん, 模様 以上 21 語	稲妻, 3 月, 絵, 会社, 顔, 絆・きずな, 木の実, 寿司, 名前, 鶏, 避難所, 文房具, 流れ星, 炎・火, ハート, ダイア 以上 16 語	色, 緑, 薄い・薄い色, 着色料, 金色, 黄緑, 蛍光色・発光色・ネオンカラー, 金・黄金, 雷雲, キング, 金星, 金目鯛, 明るい, 鮮やか, 暖かい・温かい, 暑い, きらびやか, 辛い, 重い, 綺麗, 幸運・幸せ, ゴージャス, 目立つ, 優しさ, リラックス, 平和, 春, 昼, 人工物, 酸っぱい, 善, 暖房, 元気・元気な人, 日光・日差し, テンションが高い, 希望, 笑顔, エネルギー, 黄色い声, 秋, レ（音階） 以上 106 語

物理的に黄色が含まれないものの中で、「光」に関するものが多いことがわかる。第 2 学年では、例えば「寿司」のように、全体が黄ではないが、ある特定の寿司「卵焼き」が印象的に用いられ、代表させて上位の概念で示すような例示が出現している。赤での「自動販売機」や青での「信号機」「部屋」などと同じような事例である。また、具体的な「稲妻」「流れ星」のような一般的に黄色で示されるものなど、視覚的にとらえられるものが多い。それに対して、第 6 学年では、「幸運」「希望」「笑顔」「リラックス」などの心情や感覚的、または、「エネルギー」「レ（音階）」など色で表すことが困難なものが含まれる。

以上、この章では調査方法と手順を示し、さらにその調査で得られた児童の色に関する反応語のデータを、全体的な概要、黒・白、赤・青・黄についての異なり反応語の具体について整理した。概観した中での傾向としてではあるが、反応語の種類について、発達に伴って出現数が増え、心情や感覚、色で表すことが困難だと思われる反応語が出現していることがわかった。

i 語（句）レベルの連想である語連想（word association）の中で最初に与えられた語を刺激語（stimulus word）、引き出される語を反応語（response word）という。

第4章 色彩語に関する児童の推論（その2） - 分析編

第4章では、第3章で整理したデータをもとに分析を加え、現代の色彩語において児童がどのような推論を行っているかを考察する。第1節では、黒、白、赤、青、黄の5色を通して全体的な分析、第2節では黒と白の分析、第3節では、赤・青・黄の分析を行う。第4節では、第1節、第2節、第3節を受けて第4章を総括する。

第1節 全体的な分析と考察

第1節では、黒・白・赤・青・黄のすべてに関する全体的な分析し考察を加える。まず、「刺激語の色そのものが含まれる語」と、「刺激語の色そのものが含まれない語」について整理する。

刺激語の色そのものが含まれる語の総数と刺激語の色そのものが含まれない語の総数を比較すると、色そのものが含まれる語は1295語、色そのものが含まれない語は706語である。刺激語の色そのものが含まれる語が非常に多いことがわかる。刺激語の色そのものが含まれる語の例としては、黒色における「鉛筆・色鉛筆」である。第2学年・第6学年の共通の反応語であり、2学年を合わせた出現率52.89%と高い語である。

図20のように、刺激語「黒」から連想された「鉛筆の芯」は、共通の「黒」をもつことから隠喩であると考えられる。「鉛筆の芯」と反応語「鉛筆」には、部分と全体の関係にあり、換喩である。

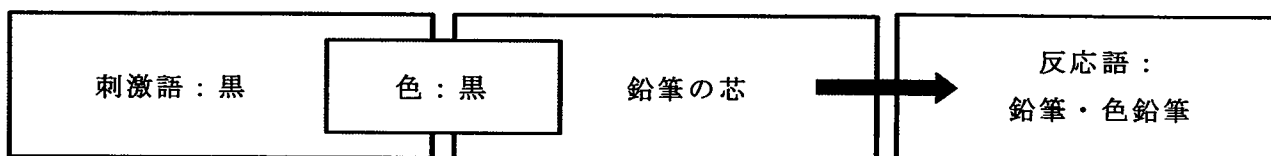


図20 黒色「鉛筆・色鉛筆」に関する隠喩と換喩の思考の方向性

しかし、「鉛筆」のコーティング部分は黒とは限らない。そのことから、共通する色により連想された隠喩と換喩の複合の推論と分析される。刺激語「黒」の「トランプ、ハードル」、刺激語「白」の場合の「パンダ、消火器」、刺激語「赤」の場合の「赤ペン、パトカー」、刺激語「青」の場合の「鍵盤ハーモニカ、道路標識」、刺激語「黄」の場合の「キウイ、ゆで卵」なども同様に隠喩と換喩の複合の推論と考えられる。

刺激語「黒」の「毛・髪の毛、ピアノ」、刺激語「白」の場合の「紙、雲」、刺激語「赤」の場合の「口紅、ポスト」、刺激語「青」の場合の「いるか、養生シート」、刺激語「黄」の場合の「かずのこ、嘴」なども同様に隠喩になる。そのことから、「刺激語の色そのものが含まれる語」である1,295語には、色により連想された隠喩の推論と分析されるものが多い。

以上のことから、「刺激語の色そのものが含まれる語」には、非常に多くの隠喩が含まれていることがわかり、反応語全体の中でも割合が大きいということがわかる。

このような隠喩の思考と分析される「刺激語の色が含まれる反応語」は、表27のように第2学年では714語、第6学年では1064語出現している。第6学年の方が1.49倍とより多い反応語数を示しているが、ある意味当然のことである。前にも述べたとおり、記述を行う質問紙法を取り入れて調査を行ったために、思考による差なのか、記述能力に関する

差なのかは不明である。しかし、第6学年の隠喩の思考と分析される「刺激語の色が含まれる反応語」が多いということは明らかな事実である。

また、「刺激語の色が含まれない反応語」については、「刺激語の色が含まれる反応語」と同様に第6学年の出現数が多い。しかし、その比率は3.74倍と差が大きいことから、記述能力とは別に第6学年の方が「刺激語の色が含まれない反応語」を出現させるということは事実である。第6学年が複雑な推論を行っているということが一般的にいえるのは当然のことであるが、第6学年の中にも「刺激語の色が含まれる反応語」だけ記述している児童がいる。対照的に、第2学年の中にも「刺激語の色が含まれない反応語」も記述している児童がいる。そのことから考えると、生活経験や学習経験が、推論に影響を及ぼしている可能性が高いことがわかる。

以上、この節では、黒・白・赤・青・黄のすべてに関する全体的な分析と考察を加えた。そこで2点の事が確認された。1点目は、「刺激語の色そのものが含まれる語」に関しては隠喩が含まれることと、さらに換喩を用いて二重に推論が用いられている場合があることである。2点目に、「刺激語の色が含まれる反応語」と「刺激語の色が含まれない反応語」の出現総数の差、第2学年と第6学年の出現数の比率から、「色」からの連想では隠喩が多く用いられていることがわかった。

第2節 黒・白

第2節では、刺激語「黒」「白」に対する反応語を抽出し、分析して、考察を加える。

「黒板」について分析する。刺激語「黒」に対する反応語「黒板」については、昔は黒で「黒板」という名前と呼ばれている。この名前自体にも、本来の素材である「黒い板」そのものに、学校などで用いる学用備品としての「黒板」という名前に転義している。この命名自体には、素材が学用備品名に変化していることから換喩であるといえる。今回の連想に関する研究では、「色」を問題として取り扱わなければいけない。現在の色は濃い緑色か濃い紺である。それを黒から連想しているということは、文字の黒で共通していると考えられる。さらに顕著な例が「電子黒板」である。電子黒板自体は、光を投影するため白が多い。それにも関わらず黒から連想しているということは、文字の中にある「黒」の共通部分から連想され反応語として現れたものと考えられる。黒では「黒板、電子黒板、黒田さん、黒川（人名）、ブラックホール、暗黒、執事、大田黒（苗字）、黒木メイサ（女優）、黒子のバスケ（漫画タイトル）、ブラックジャック」、白では「白人、白雪姫、Mr.White（英語の教科書の人）、白井さん（人名）、白血球」がこのような反応語として同様であると考えられる。

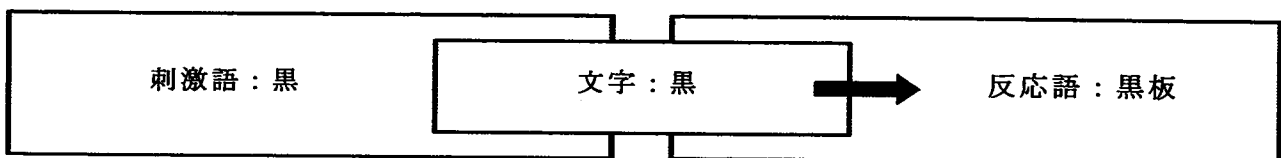


図 21 黒色「黒板・電子黒板」に関する隠喩の思考の方向性

「犬の名前」について分析する。刺激語「黒」に対する反応語「犬の名前」については、文字の「黒」とは異なり音の「kuro」という点で共通していると考えられる。もともとは、

犬の毛色から命名されたものと推測できる。その場合は、「犬の毛色」から「犬の固有名詞」へと異なる領域への類推ということで換喩といえることができる。しかし、本調査では、刺激語である「黒」からの反応語としての「犬の名前」であったことから、「音：kuro」の共通点をもつ隠喩であると考えられる。同じような事例の反応語として、黒では「猫の名前」、白では「シロ（ペットの名前）」があった。「犬の名前」同様、刺激語の色からの反応ということで、音の共通点をもつ隠喩と判断する。

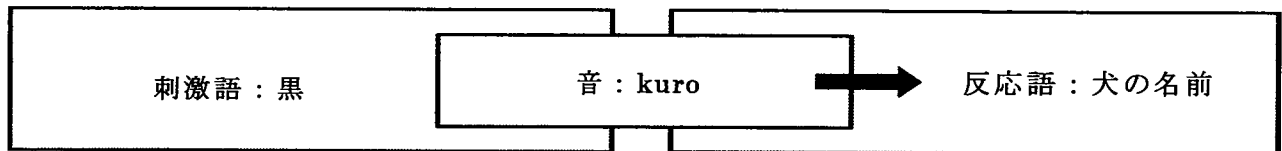


図 22 黒色「犬の名前」に関する隠喩の思考の方向性

「悪魔」について分析する。刺激語「黒」に対する反応語「悪魔」については、架空の存在である可能性が高く目にしたことは少ないと考えられる。しかし、イメージが映像化される場合があり、多くが黒色の衣服を身に着けていて、そのことが大きく影響していると考えられる。そのことを考えると、色の共通点から隠喩として衣服へ移り、さらに換喩の思考により衣装を身に着けている反応語「悪魔」が生じたものと考えられる。同じような事例の反応語として、黒では「魔女、堕天使」、白では「天使、幽霊・おばけ、怪盗キッド（アニメキャラクター）」があった。「悪魔」と同様に、隠喩と換喩が二重にかかった連想であると考えられる。

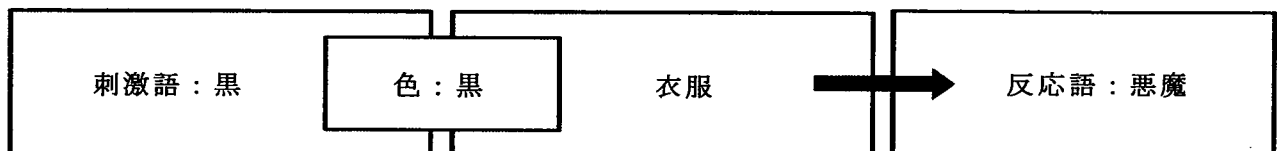


図 23 黒色「悪魔」に関する隠喩と換喩の思考の方向性

反応語「虫」について分析する。刺激語「黒」に対する反応語「虫」については、カブト虫やクワガタ虫など全体的に「黒」を呈する虫もいる。その場合には、図 24 の思考が考えられる。「黒」という共通の部分から隠喩により全体的に「黒」を呈する虫に移り、その虫を上位概念で示す虫に移行させている思考である。



図 24 黒色「虫」に関する隠喩と提喩の思考の方向性

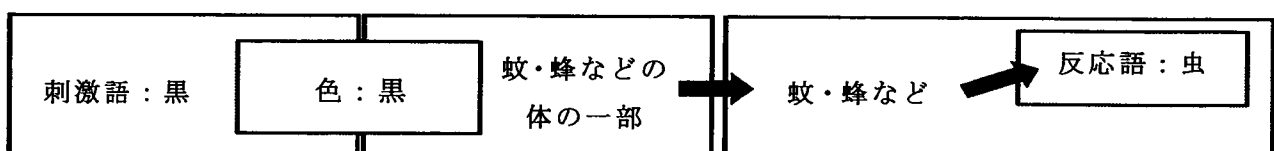


図 25 黒色「虫」に関する隠喩と換喩と提喩の思考の方向性

また、これが蚊や蜂をイメージすると、全体的に「黒」ではないことから、一度体の一部から全体に移行する換喩を経由していることになる。

同じような事例の反応語として、黒では「色、植物、虫、動物」、白では「花、色、国旗、ワイン、植物、動物」があった。「虫」と同様に、提喩によって移行している連想であると考ええる。

また、刺激語「黄」でも「虫」の反応語が見られる。今回の調査では出てこなかったが、刺激語「青」でも「青虫」のように反応語「虫」を生み出すことがある。これは、連想の経緯が異なるだけで同じ反応語が出ることは当然のこととしてとらえられる。

刺激語「白」からの反応語「無罪」について分析する。「黒と白」という色の対になる構造が、「罪の有無」という対になる構造に移行したものであると考えられる(図 26)。まだ、2項目ずつの対応で簡単な構造であるが、これはアナロジーによる連想であると考えられる。刺激語「白」に対する反応語の中に「反対」というもあるが、これも、「白黒」「無罪有罪」などの構造に目を向けたものだと考えられる。児童の反応語としては出現していないが、一般的に「灰色の判決」「灰色の人物」であったり、「グレーゾーン」であったりする表現にみられるように、灰色・グレーというものを含めて構造的に用いられている。アナロジーを用いた推論であると考えられる。このように、黒・灰・白の3者の関係が、有罪・曖昧・無罪の3者の関係と結びつくことで、アナロジーを用いた推論が行われる。青から連想しても有罪や無罪に結びつかないことが1つの理由と考えられる。

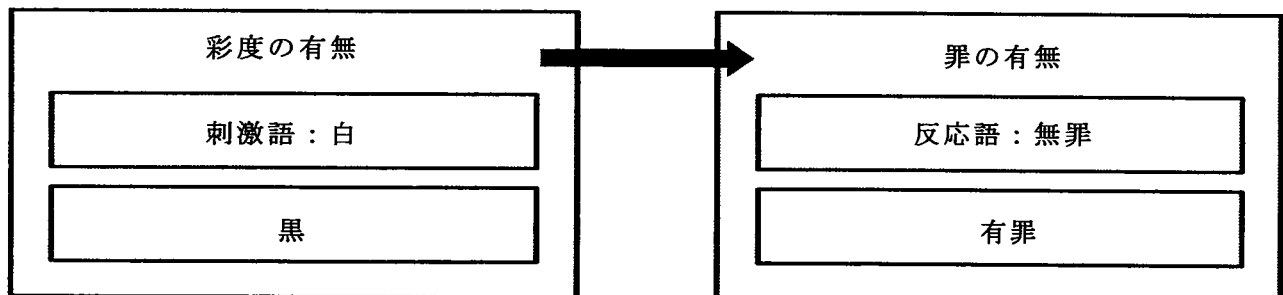


図 26 黒色「無罪」に関するアナロジーの思考の方向性

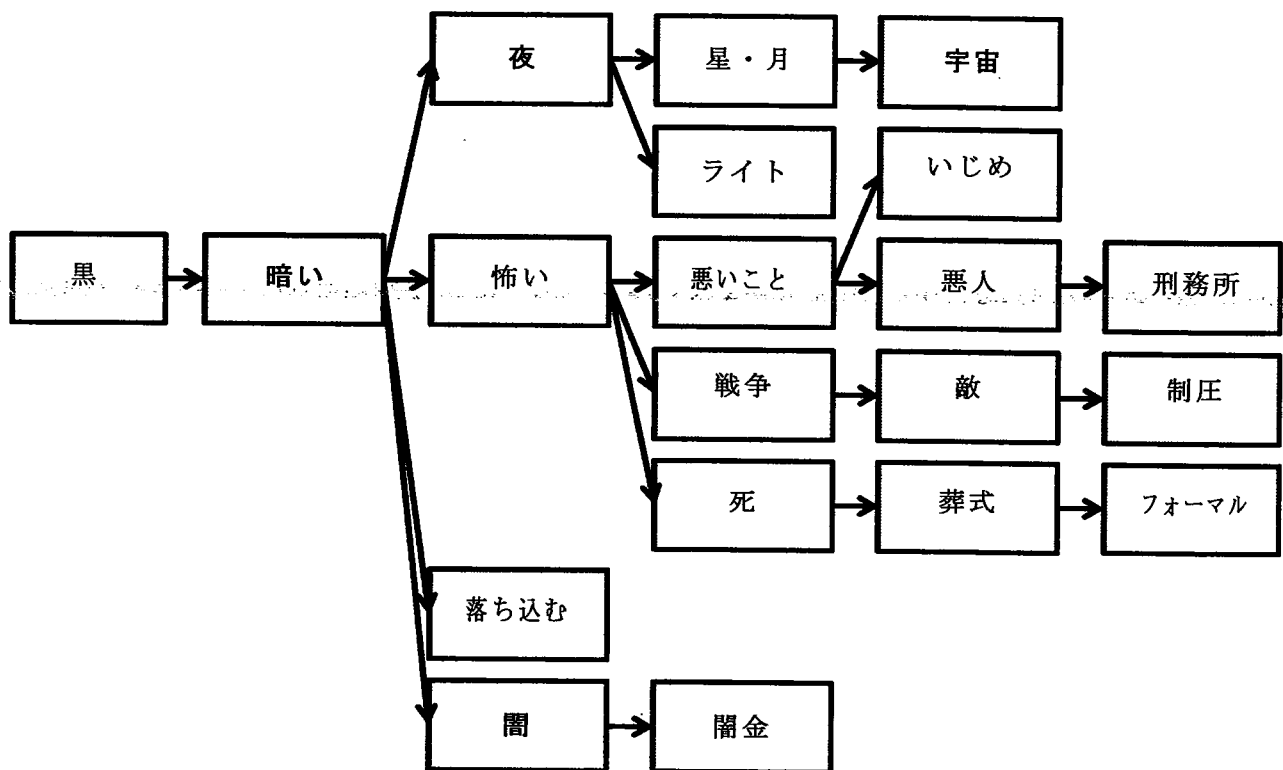
同じような事例の反応語として、黒では出現していないが、白では「紅白、勝ち負け・勝負・勝ち」があった。「無罪」と同様に、アナロジーによる連想であると考ええる。

以上に刺激語「黒」「白」として例示した反応語と比喩の関係をまとめると、次の表 28 になる。

表 20 刺激語が色が含まれない反応語の整理

用いられている比喩	
隠喩	毛、黒板、犬の名前、紙、白血球、シロ（ペットの名前）など
隠喩→換喩	色鉛筆・鉛筆、ハードル、パンダ、悪魔、天使など
隠喩（→換喩）→提喩	色、植物、虫、動物、花、色、国旗、ワインなど
アナロジー	無罪、紅白、勝ち負け・勝負・勝ちなど

しかし、「刺激語の色そのものが含まれない語」の中には、上の表には収まらない反応語もある。例えば、刺激語「黒」に対する反応語「星、月、宇宙、ライト、悪いこと、悪人、刑務所、いじめ、戦争、敵、制圧、死、葬式、フォーマル、闇金」などである。それらの連想の関係を図 27 に示す。刺激語「黒」からの反応語として、第 2 学年と第 6 学年に共通として見られた反応語は、「暗い」、「夜」、「宇宙」、「闇」の 4 つの語である。出現率については次に示す。「暗い」が第 2 学年で 1.04%，第 6 学年で 15.7%である。「夜」では、第 2 学年で 6.25%，第 6 学年で 29.75%である。「宇宙」では、第 2 学年で 1.04%，第 6 学年で 8.26%である。「闇」では、第 2 学年で 1.04%，第 6 学年で 22.31%である。そのほかの反応語は、第 6 学年でのみ出現した語である。なお、放射状カテゴリーの図に関しては、出現率と合わせて資料編に記載している。



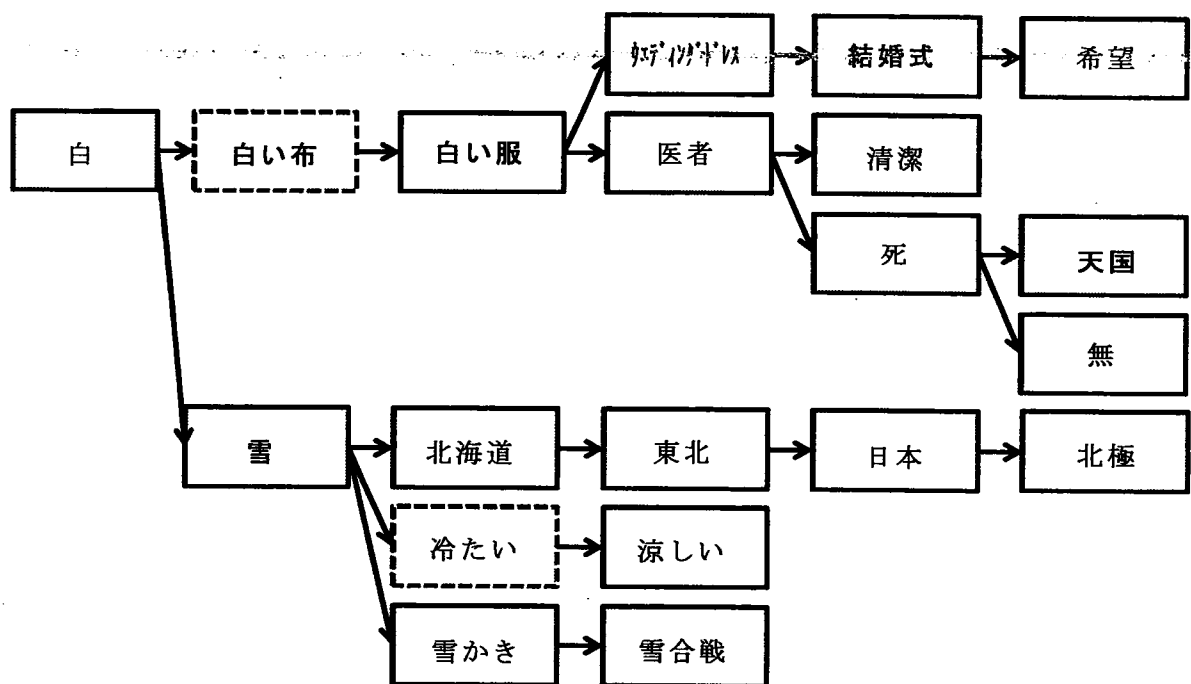
(ゴシックの書体は第 2 学年と第 6 学年で共通して出現した語を示す。)

図 27 黒色「刑務所」などに関する予想される思考の流れ

第 2 学年と第 6 学年で共通して出現している反応語「暗い」は、非常につながりがつよい反応と言える。「色」が共通する隠喩であると考えられる。出現率としては、「夜」の出現率が高い。刺激語「黒」から「宇宙」に直接的に連想された場合も考えられる。刺激語「黒」の「暗さ」を経由しながら連想しながらも出現しない場合、言い換えると、2 段階以上の連想を同時に行うという現象があると考えられる。この刺激語「黒」からの状況では判断できないが、直接的に連想した場合と 2 段階を同時に連想した場合の両方の可能性を残しながら、放射状カテゴリー (radial category) ⁱ では、1 つの連想の例として示しながら考察を加える。「暗い」という明るさの程度を示す語から、「闇」というマイナスのイメージを含みこんだ状況を示す語に移行するのは換喩が用いられている。同様に心情の「怖い」、「落ち込む」も換喩で放射状につながっていく。心情を表わす「怖い」から順

に考えると、事柄である「悪いこと」、そのことを行う人物「悪人」に換喩が連続で用いられる。連想という推論がつながることで生じた反応語が「刑務所」であると考えられる。同様に「宇宙」、「制圧」、「フォーマル」、「闇金」なども推論が連続することで生じたものと考えられる。このように、放射状カテゴリー（radial category）を用いて考えると連想の連続性や刺激語からの連想の回数などが把握しやすい。本研究で行ったのは児童の記述による反応語を全体的に把握し整理したもので、そのほかの連想順序の可能性も考えられる。そのために、1つ1つの連想に至るまでの推論について隠喩・換喩・提喩の違いを明瞭せず、1つの推測される例として示す。

2点目の例として、図28に示す。刺激語「白」に対する反応語の例は「結婚式、始まり、希望、清潔、死、神様、仏、天国、無、涼しい、日本、北極」などである。それらの連想の関係を図28に示す。刺激語「白」からの反応語として、第2学年と第6学年に共通として見られた反応語は、「白い服」、「結婚式」、「天国」「雪」の4語である。映像化されたものを見ることや経験したことなどから出現率に差が生じることでこのような状況が生じたと考えられる。しかし、複数の推論を重ねた放射状カテゴリーの末端に近づくとも第6学年での出現が多い傾向がうかがえる。



（ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。）

図28 白色「希望」などに関する予想される思考の流れ

「スカート」「ズボン」「シャツ」「洋服」などの反応語が多く、これらを合わせると第2学年と第6学年の出現総数は147個で出現率は67.74%である。本来であると、白という色から糸や布などの素材への換喩が行われて、「白い布」という素材から製品としての「服」などへの換喩にあたる。素材そのものである「布・布地」「糸」「絹」の出現語総数は4語で、出現率は第2学年と第6学年を合わせて5.99%である。これらの素材と製品の出現率から考えると、子どもにとって身近なものは製品であって「白い布」などを經由せずに「白い服」などへの推論が行われたことが考えられる。また、「医者」や「花嫁」については、

「白い服」を羽織る象徴的な存在として推論されたと考えられる。「ウエディングドレス」が用いられる機会としての「結婚式」、そして「希望」へとつながっていると考えられる。刺激語「白」から反応語「希望」は案じることで生じた語であると考えられる。同様に「反応語」「天国」なども推論が複数用いられ出現した語であると考えられる。

さらに、刺激語「白」から反応語「雪」によって生じる連想もある。雪が降る場所としての「北海道」「東北」「日本」「北極」という換喩で生じた反応語である。「雪」に関わることとして「雪かき」「雪合戦」などもある。その中で「雪」といえば「冷たい」という表現が適しているはずであるが、「涼しい」という反応語が出てきている。これは、無意識的に多少の嫌悪感を含む現象に対する「冷たい」を経由して心地よさを感じる現象である「涼しい」へと隠喩によって生じた反応語であると考えられる。

3点目の例として、「勝ち負け、善、平和」などを図 29 にあげる。反応語「黒」は、「白」との共通点が非常に少なく対照的であると考えられる。「白黒」というと、相撲での勝敗を「白星」「黒星」というように用いられることがある。「白黒はっきりさせる」、「有罪無罪」、「グレーゾーン」「玉虫色の判決」なども同じような言葉である。「白」と「黒」という色彩語の構造を意識することで、「黒」という反応語が出現したと考えられる。順序からすると、「白」→「白黒」を経て、「黒」となるが、「白黒」が出ている時点で、「白」と「黒」という色彩語の構造を意識しているものと考えられる。

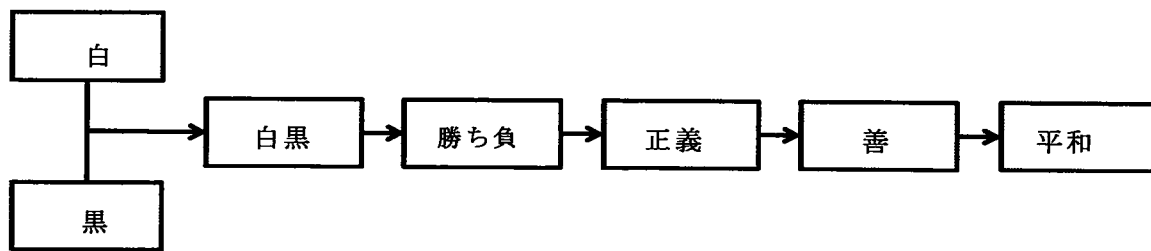


図 29 白色「平和」などに関する予想される思考の流れ

その「勝ち負け」から連想されるものとして、「正義」「善」などがあり、結果としてもたらされるものが「平和」として考えられる。この例に示した反応語は非常に出現率が少ない。すべて第6学年のみでの出現で、「黒」が1.65%、「平和」が2.48%、その他は0.83%と少なく、非常に高度な思考を要するものであると考える。

以上、刺激語「黒」と「白」に関する反応語を、第2章で提示した図を用いて隠喩・換喩・提喩・アナロジーを用いた反応語と放射状カテゴリーを用いて複数のメタファーが用いられた反応語について分析した。隠喩・換喩・提喩・アナロジーなどの推論を1つだけ用いて連想された反応語のみではなく、複数の推論を用いて生じた反応語が存在するという可能性を明確にした。さらに、複数の推論を用いて生じた反応語の出現は第6学年に多く、推論が成長や経験と関係している可能性を確認しておきたい。

第3節 赤・青・黄

第3節では、赤・青・黄という刺激語に対する反応語について抽出した語を分析し、考察を加える。

「赤ちゃん」について分析する。刺激語「赤」に対する反応語「赤ちゃん」については、

文字記号の中に「赤」が含まれており、色としての赤が文字の赤という共通点をもとに推論された隠喩であると考えられる。このように、文字記号をもとに連想された反応語は、赤では「赤とんぼ、赤字」、青では「青年、青木（人名）、青りんご」、黄では「黄桃、黄金」がこのような反応語として同様であると考えられる。同様に隠喩を用いた推論は、文字記号のみではない。そのほかにも3通りの傾向がみられる。まず、本章第1節全体的な分析と考察で行った「物理的に刺激語の色が含まれている場合」と前節で行った「刺激語の色と音声記号が共通する場合」「一般社会で映像化された時のイメージなどに刺激語の色が含まれる場合」などもある。1点目の「物理的に刺激語の色が含まれる場合」は、赤では「人参、唐辛子、さくらんぼ・チェリー」、青では「サメ、LED ランプ・ライト」、黄では「銀杏、マンゴー、みかん」などである。2点目の「刺激語の色と音声記号が共通する場合」は、青での「ブルーギル、ブルーハーツ（バンド名）」などである。3点目の「一般社会で映像化された時のイメージなどに刺激語の色が含まれる場合」は、赤では「地獄」、青では「龍・ドラゴン、半漁人、人魚・人魚姫」、黄では「雷神、イエス様」などである。これらは、刺激語「黒」「白」のさいに述べた「黒板」「犬の名前」「悪魔」などと同様に隠喩を用いて推論された反応語であると考えられる。

「ボンド」について分析する。刺激語「黄」に対する反応語「ボンド」は、木工用ボンドが黄色の容器に入っていることが多い。共通である色が黄の容器に隠喩を用いて推論され、中身の「ボンド」に換喩を用いて推論されたものであると考えられる。刺激語「黒」「白」の際の「魔女、堕天使、天使、幽霊・おばけ、怪盗キッド（アニメキャラクター）」などと同様で、赤での「ちびまるこちゃん（アニメキャラクター）」、青での「ミッキー」などの反応語が考えられる。

「野球日本代表」について分析する。刺激語「青」から「サムライブルー」と呼ばれている紺色をもとにした日本代表野球チームのユニフォームに隠喩で推論され、ユニフォームの色が隣接領域である反応語「野球日本代表」と上位概念である語で表した提喩を用いた推論であると考えられる。刺激語「黒」「白」の際の「色、虫、花、ワイン、植物、動物」などと同様で、赤での「色、国旗」、黄での「信号機、朝ごはん」などの反応語が考えられる。

刺激語「赤」からの反応語「紅白」について分析する。「赤と白」という色の対になる構造にが、「対立する集団」という対になる構造に移行したものであると考えられる。まだ、2項目ずつの対応で簡単な構造であるが、これはアナロジーによる連想であると考えられる。刺激語「赤」「黄」に対する「信号機の赤と黄」と「止まれ、注意」も反応語の中に「規範としての意味」が含まれている。これも、構造に目を向けたものだと考えられる。「紅白、勝ち負け・勝負・勝ち」と同様で、反応語「赤字」は「赤と黒」における経済の「赤字と黒字」の1つであると考えられる。反応語である「酸性とアルカリ性」は水溶液の性質を表わし、反応語「N極」は磁力の向きに関する「N極とS極」をもとにしたアナロジーによる推論であると考えられる。

しかし、「刺激語の色そのものが含まれない語」の中には、上の表には収まらない反応語もある。そこで、「赤」「青」「黄」に関する例を1例ずつ、合計3例を示す。

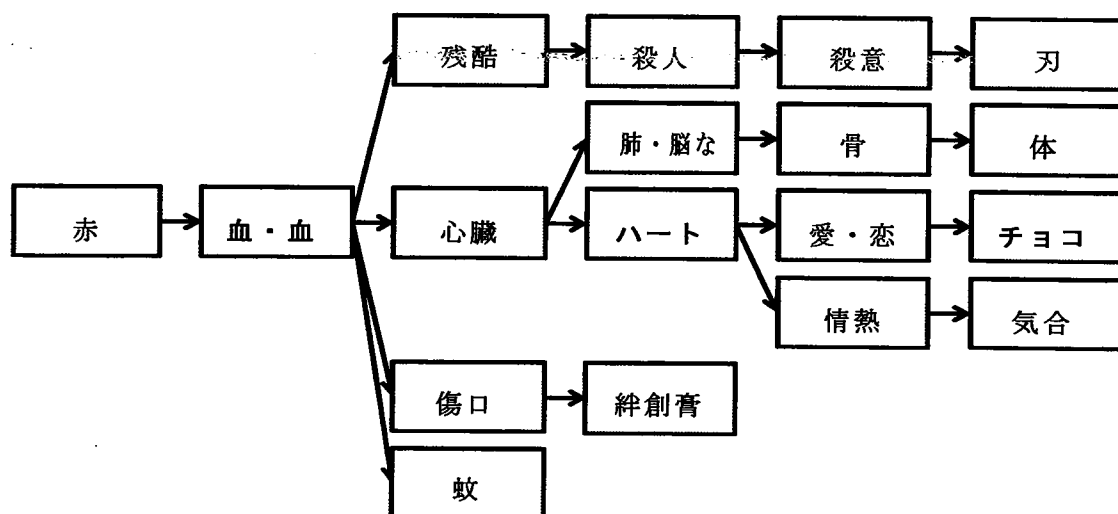
1例目は、刺激語「赤」に対する反応語「残酷、殺意、刃、チョコ、気合」などである。

それらの連想の関係を図30に示す。第2学年と第6学年の両方で出現した反応語は、「血

・血液」「ハート」「チョコ」の3語である。

刺激語「赤」からの反応語「血・血液」は、第2学年では40.62%、第6学年では79.34%とつながりが深い反応であると考えられる。「心臓」や「肺や脳など」「ハート」は、「血・血液」を含む容器と考えると換喩を用いた推論と考えられるが、物理的に赤色を含み刺激語「赤」からの隠喩を用いた推論の可能性も考えられる。特に第2学年の「ハート」は、トランプの「ハート」を考えた可能性があり、その場合は、「赤」を共通とする隠喩を用いた推論であると考えられる。反応語「愛・恋」や「情熱」「気合」は「ハート」から換喩を用いて推論されたものと考えられる。「チョコ」に関しては、「バレンタインデー」での風習やその時に用いられるイメージカラー、チョコレートの箱などから連想されたものであると考えられる。「残酷」については、「血・血液」がある状況や場所であり、換喩を用いた推論で拡張され、さらに殺人の道具である「刃」まで至ったと考えられる。「傷口」「蚊」は、血液で共通するもので隠喩を用いた推論で拡張したものと考えられる。「絆創膏」自体は赤ではないが、「傷口」から換喩を用いて推論されたものであると考えられる。

また、例外はあるものの、放射状カテゴリーの末端にあたる部分は、第6学年だけの反応語が多いこともわかる。



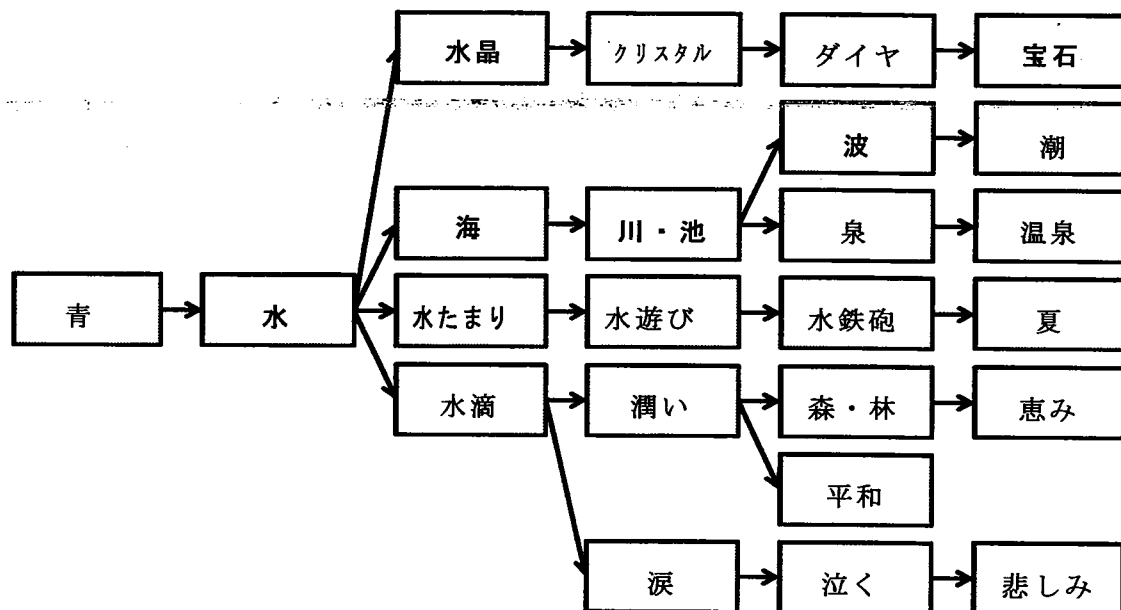
(ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図30 赤色「チョコ」などに関する予想される思考の流れ

2例目は、刺激語「青」に対する反応語「恵み、宝石、泉」などである。それらの連想の関係を図31に示す。第2学年と第6学年の両方で出現した反応語は、「水」「水晶」「宝石」「海」「川」「池」「波」「水たまり」の8語である。

刺激語「青」からの反応語「水」は、第2学年では22.92%、第6学年では52.07%とつながりが深い反応であると考えられる。日本の文化でも薄い青色を「水色」などと呼ぶことなどを考えると、青と水は非常に関連が深いものであると考えられる。「水」から連想されるもので「水晶」がある。同じ文字記号「水」を含むものとも考えられるが、「水」「クリスタル」や「ダイヤ」などの出現を考えると、透き通ったものを「青」から連想できる傾向があると考えられる。透き通ったものは、その奥にある海底や宇宙からの光を反射して青く見えることもある。他の場合としては、ゲームやアニメ、絵画など絵を描くときなどに

青色を用いられることを考えると映像化されたものを見てイメージしている場合も考えられる。この映像化されたものも、人間の認識による映像化であることには違いがない。このようなことをふまえると、「水」や「水晶」など透過したものを青色と認識する傾向が存在するものと考えられる。そこで、刺激語「青」から「透過したもの」をイメージし刺激語「水」「水晶」「クリスタル」「ダイヤ」が出現したものと考えられるが、推論の種類は特定できない。「宝石」に関しては、「水晶」「クリスタル」「ダイヤ」を上位概念で表現する換喩を用いた推論であると考ええる。さらに、「水」そのものから想像されるものがある。その規模の大きさから考えると、「海など」「水たまり」「滴」などの大きな集合が見てとれる。ここで、「海」は、「水」がある場所の事であり、換喩を用いた推論によって生じたものであると考える。同様の反応として「川・池」「湖」「泉」も出現したといえる。「温泉」に関しては、文字表記から「泉」と関連して生じたものではないかと考える。「水たまり」からその場所で行う「水遊び」や道具「水鉄砲」とその季節「夏」に推論を用いて拡張していることがわかる。「水滴」に関しても同様であるが、「恵み」と「悲しみ」という異なる印象を受ける反応語も拡張の仕方により生じることが考えられる。



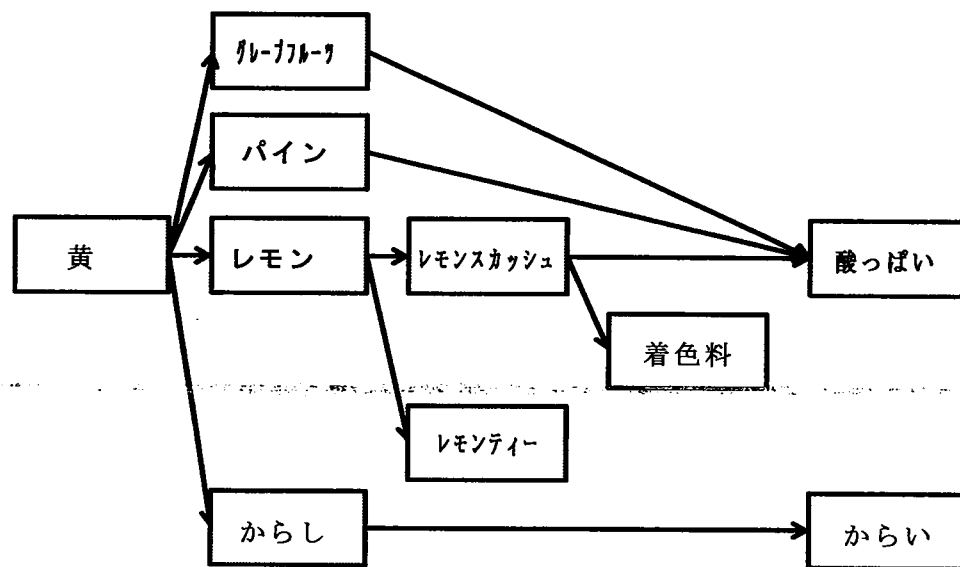
(ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図 31 青色「温泉」などに関する予想される思考の流れ

3 例目は、刺激語「黄」に対する反応語「酸っぱい、からい」などである。それらの連想の関係を図 32 に示す。第2学年と第6学年の両方で出現した反応語は、「グレープフルーツ」「パイナップル」「レモン」の3語である。

刺激語「黄」からの反応語「レモン」「パイナップル」「グレープフルーツ」は、第2学年と第6学年の両方で出現しており、つながりが深い反応であると考ええる。特に、「レモン」は、第2学年で 26.04%、第6学年で 42.15%と関係が深い。そのことから、味覚に関する反応語「酸っぱい」が出現したものと考えられる。「レモンスカッシュ」や「レモンティー」は、刺激語「黄」から色で共通する「レモン」へ隠喩を用いて推論され、その「レモン」を使用した料理へと拡張したものと考ええる。経験により差が出るが、「レモン」果汁そのものは

白濁した色であるが、「レモン」の表皮の色を出すために使用されている「レモンスカッシュ」の素材である「着色料」を意識している児童もいるが、第6学年で1名のみで0.83%と非常に少ない。第6学年で2名（1.65%）の「からし」と第6学年で1名（0.83%）の「からい」も反応率は少ないものの出現している。刺激語である色から反応語である味を考えることは少ないが、飲食店のポスターなどを見ると、色と味を関連させることは珍しいことではないと考える。また、「酸っぱい」と「からい」という異なる味覚に関する反応語があるが、連想の過程を明確にすると理解できる。共感的なメタファーの中には、連想により生じたものがあることがあることは、事実である。



（ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。）

図 32 黄色「酸っぱい」などに関する予想される思考の流れ

第4節 色彩語に関する児童の推論に関する考察

以上、この章では、色彩語に関する児童の推論について分析した。色彩語に関する児童の推論において、3点の事が確認された。1点目は、刺激語を色彩語にした連想に関しても反応語との間に隠喩・換喩・提喩・アナロジーなどのメタファー思考が確認されたことである。その際には、順序性は明らかではないが、換喩が多く用いられていることが1つの傾向として明らかになった。2点目は、複雑な連想には年齢差や経験差が大きく影響しているということである。3点目は、視覚に位置づけられる色彩語からの連想であったが、聴覚や味覚、感情など共感的な反応語が見られ、連想関係を調べることで想像できる場合があるということである。

放射状カテゴリー (radial category) : ジョージ・レイコフ (Lakoff 1987) が示した認知モデル理論の1つの方法である。中心のスキーマは身体基盤的な原始体験に基づくスキーマが多く、周辺のスキーマは抽象化されたものであるとしている。本研究では、前者（中心のスキーマ）が刺激語から直接的に結びつくような紙面の左側に示した語で、後者（周辺のスキーマ）は刺激語から連想を繰り返して出現したような紙面の右側の語にあたる。

【参考文献】 (アルファベット順に示す)

- 浅井邦彦(1997)「感覚的文章と色彩語との相関」『福井工業大学研究紀要. 第一部』27:1-6.
- 赤祖父哲二(1982)『日本語のメタファー』東京大学出版会.
- 伴 浩美(2005)「日英色彩語の連想イメージの比較」『国際教養学部紀要』1:117-128.
- Cytowic, Richard E. (1998) *The man who tasted shapes*. MIT Press. (山下篤子[訳]2002『共感覚者の驚くべき日常一形を味わう人、色を聴く人』草思社.)
- 藤井 誠(2010)「色彩語彙に関する一考察」『人文学報 表象文化論』431:77-88.
- 藤村逸子(2003)「色彩名詞と色彩形容詞の対立:新聞と文学のコーパスからわかること」『日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用におけるコロケーション研究 中間報告論文集』, pp. 25-48.
- Gibbs, Jr., Raymond W. (1994) *The Poetics of Mind: figurative thought, language, and understanding*. Cambridge University Press (辻幸夫・井上逸兵[監訳], 小野滋・出原健一・八木健太郎[訳]2008『比喻と認知:心とことばの認知科学』研究社.)
- 郡司隆男・阿部泰明・白井賢一郎・坂原茂・松本裕治(1998)『岩波講座言語の科学 4 意味』岩波書店.
- Holyoak, K. J. and P. Thagard. (1995) *Mental Leaps: Analogy in Creative Thought*. Cambridge: The MIT Press. (鈴木宏昭・川原哲雄[監訳]1998『アナロジーのカー認知科学の新しい探求』新曜社.)
- 本多 啓(2013)『知覚と行為の認知言語学「私」は自分の外にある』開拓社.
- 石田 彰[監修](2012)『認知心理学演習 言語と思考』オーム社.
- 市川伸一[ほか著](1996)『認知心理学 4 思考』東京大学出版会.
- 稲村耕雄(1955)『色彩論』岩波書店.
- 伊原 昭(1994)『文学にみる日本の色』朝日新聞社.
- 伊原 昭(2011)『色へのことばをのこしたい』笠間書店.
- 今井むつみ・針生悦子(2014)『言葉をおぼえるしくみ』ちくま文芸文庫.
- 金子隆芳(1988)『色彩の科学』岩波書店.
- 金子隆芳(1990)『色彩の心理学』岩波書店.
- 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健(1993)『言語学 第2版』東京大学出版会.
- 金杉高雄(2013)「名詞句の語用論的解釈」『認知歴史言語学』くろしお出版, pp. 194-199.
- 兼沢純子(1994)「メタファーと認知」『大阪芸術大学紀要 藝術』17:85-91.
- 兼沢純子(1995)「メタファーと認知 2」『大阪芸術大学紀要 藝術』18:62-68.
- 兼沢純子(1997)「メタファーと認知 3」『大阪芸術大学紀要 藝術』20:111-117.
- 向野康江(1992)「色彩語の形成と受容」『美術科教育学会誌』12:125-134.
- 權 寧成(2002)「日・韓両語の色彩語『クロ』の語彙分化」『広島大学大学院教育学研究科紀要. 第二部, 文化教育開発関連領域』51:317-325.
- 小坂由美(1999)「英語と日本語における色彩語の発想とイメージ」『横浜女子短期大学研究紀要』14:31-40.
- 楠見 孝[編](2007)『メタファー研究の最前線』ひつじ書房.
- Lakoff, G and M. Johnson (1980) *Metaphors We Live By*. University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸[共訳]1982『レトリックと人生』大修館書店.)

- 李 静曉(2008)「色彩語の意味拡張メカニズムに関する研究」『お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」報告書』, pp. 220-223.
- 前田雨城(1980)『ものと人間の文化史 38 色染と色彩』法政大学出版局.
- 松本裕治・今井邦彦・田窪行則・橋田浩一・郡司隆男(1997)『岩波講座言語の科学 1 言語の科学入門』岩波書店.
- 初山洋介(2008)「メタファーの認知的基盤と経験的基盤」『言語文化研究叢書』7: 97-111.
- 初山洋介(2014)『日本語研究のための認知言語学』研究社.
- 鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版.
- 中本敬子・李在鎬(編)(2011)『認知言語学研究の方法』ひつじ書房.
- 中江克己(2003)『色の名前で読み解く日本史』青春出版社.
- 新妻明子(2013)「心的状態を表す英語の色彩語メタファー」『常葉大学短期大学部紀要』44:47-62.
- 野村益寛(2014)『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房.
- 生越秀子(2007)「メタ言語能力を育てる小学校国語教育についての一考察」『全国大学国語教育学会発表要旨集』112:13-16.
- 沖森紅美(2010)『色彩語の史的研究』おうふう.
- 王 軒(2014)「色彩語メタファー表現の特徴」『言語科学論集』18:1-12.
- Ramnerö, Jonas and Niklas Törneke (2008) *The ABCs of human behavior: behavioral principles for the practicing clinician*. New Harbinger Publications. (松見淳子・武藤崇・米山直樹[訳]2009『臨床行動分析のABC』日本評論社.)
- 酒井邦夫(2002)『言語の脳科学』中央公論新社.
- 佐久間淳一・加藤重広・町田健(2004)『言語学入門』研究社.
- 佐藤信夫(1992)『レトリック感覚』講談社.
- 佐藤信夫(1993)『レトリックの記号論』講談社.
- 瀬戸賢一(1995)『メタファー思考』講談社.
- 瀬戸賢一(1997)『認識のレトリック』海鳴社.
- 瀬戸賢一(2002)『日本語のレトリック』岩波書店.
- 瀬戸賢一(2005)『よくわかる比喩』研究社.
- 田中克彦(1993)『言語学とは何か』岩波書店.
- 多鹿秀継[編著](2008)「学習心理学の最先端～学びのしくみを科学する」あいり出版.
- 田邊敏明(2000)『比喩から学ぶ心理学—心理学理論の新しい見方』北大路書房.
- 多門靖容(2007)「日本語の比喩史」楠見孝(編)『メタファー研究の最前線』ひつじ書房, pp. 105-122.
- 湯 佳美(2012)『日本語オノマトペの意味的多様性に関する基礎的研究』兵庫教育大学修士学位論文.
- 高橋英光(2013)「認知言語学研究の流れと現在」『認知言語学 基礎から最前線へ』くろしお出版, pp. 2-12.
- 山崎青樹(2001)『古代染色の二千年の謎とその秘訣』美術出版社.
- 山梨正明(2000)『認知言語学原理』くろしお出版.

山鳥 重(2002)『「わかる」とはどういうことか—認知の脳科学』ちくま新書.

吉岡幸雄(2000)『日本の色辞典』紫紅社.

吉岡幸雄(2002)『日本の色を染める』岩波新書.

吉岡幸雄(2008)『日本人の愛した色』新潮社.

吉村耕治(2007)「色彩語を含む共感覚表現にみられる日英語の文化的相違」『関西外国語大学短期大学部研究論集』86:19-37.

1行40字, 1頁40行, 1頁あたり1,600字, 400字換算200枚
(40字 × 40行 × 50頁 ÷ 400字 = 200枚)

資料編

資料 1	古典色彩語の時代別出現語	・ ・ ・ ・ ・	- 1 -
資料 2	質問紙の内容	・ ・ ・ ・ ・	- 8 -
資料 3	児童の色彩語の連想に関する推論詳細データ	・ ・ ・ ・ ・	- 9 -
資料 4	児童の色彩語の連想に関する放射状カテゴリー詳細図	・ ・ ・ ・ ・	- 24 -

資料 1 古典色彩語の時代別出現語

資料 1-1 奈良時代

【材料名をそのまま使った色彩名】

くれない，あかね，すおう，きかち，くるみぞめ，すぎぞめ，くちなし，あい，からあい，かち（染め方），えびぞめ，むらさき，しばぞめ，つるばみ，はりずり，はり，まそお，くるみかち，そお，ひさぎぞめ，くわぞめ

【何かの色に喩えた色彩名】

おうに，はとぞめ，まつ，みどり，かきつばた，くり，つきぞめ，はねず，ししいろ，かものはいろ，あおかち，みずつるばみ

【濃淡の形容を含む色彩名】

あさあけ，あさみどり，なかみどり，ふかみどり，ふかきはなだ，あさむらさき，けしむらさき，ふかむらさき，あさえびぞめ，ふかきえびぞめ，しらつるばみ，あさくれない，けしくれない，なかくれない，ふかきくれない，あさくるみ，あさはじ，なかくるみ，ふかきはじ，ふかくるみ，あさかりやす

【明暗の形容を含む色彩名】

くらきあけ，くろみどり，あかむらさき，きつるばみ

【色による形容を含む色彩名】

存在を認めず

【本物・偽物の形容を含む色彩名】

存在を認めず

【その他の色彩名】

あか，からくれない，き，あお，くろ，しろ

【不明】

かすみ，あけ，そい，あおに，あおずり，あさはなだ，はなだ，じゅひしょく，はすのはぞめ，くろき，みはなだ

資料 1-2 平安時代

【材料名をそのまま使った色彩名】

いっこんぞめ, あらぞめ (染め方), たいこう, すおうのかち, ちょうじ・ぞめ, はじ, うつぶしぞめ, こう・ぞめ (香), かりやすぞめ, きわだ, やまあい, あいずり, つゆくさ, かちかえし (染め方), こん (染料), ふたあい (染め方), むらさきこう (香), しいしば, すみ・ぞめ (染料)

【何かの色に喩えた色彩名】

さくらいろ, つつじいろ・ぞめ, あかきしらつるばみ, こうばい, ひいろ, ひ, ひわだいろ, あかくちば, あかきこう, かき, かばぞめ, きくちば, ちゃぞめ, ひわだのすぎいろ, あめ, おちくちばいろ, かんぞう・いろ, きくちなし, くちば・いろ, もくらん, やまぶき, かいねり, きすみぞめ, こがね, あおこう, おみなえしいろ, みるいろ, きくじん, なえいろ, まつば, もえぎ, やなぎいろ, やまばといろ, わかなえいろ, わかみどり, あおぐろいろ, つぎみどり, こんあさみどり, とくさ, あおあさみどり, あおしらつるばみ, あさぎ, ひそく, そらいろ, はなあさぎ, みずいろ, こんるり, るり・いろ, あおむらさき, ききょういろ, しおん・いろ, ふじ, りんどう, くらむらさき, わかむらさき

【濃淡の形容を含む色彩名】

うすいろ, くれないうすいろ, こきくれない, あさきももぞめ, あさすおう, うすくれない, うすすおう, こきすおう, なかすおう, ふかきすおう, あさすぎぞめ, うすくちば, うすこう・いろ・ぞめ, こきくちば, あさくちなし, ふかき, ふかきくちなし, うすもえぎ, きあさみどり, うすみどり, あさあいいろ, こきはなだ, なかあいいろ, なかはなだ, ふかきあいいろ, うすはなぞめ, あさきけしむらさき, うすいろ, うすふたあい, うすむらさき, うらむらさき, こきふたあい, こきむらさき, なかけしむらさき, なかむらさき, ふかきけしむらさき, うすこうばい, こきすみぞめ, あさつるばみ, ふかきにびいろ, うすずみ・いろ・ぞめ, うすにび・いろ, こきにびいろ, ふかきねずみいろ

【明暗の形容を含む色彩名】

くろあけ, くろあお, しらあいいろ, しらはなだ, にびはなだ, にぶむらさき, しいにぶ, くろつるばみ, にび

【色による形容を含む色彩名】

存在を認めず

【本物・偽物の形容を含む色彩名】

存在を認めず

【その他の色彩名】

いまよういろ， そがいろ， あおば， あおみどり， なつむしのいろ， あおじろ， はな・いろ・ぞめ， むしのあお

【不明】

あかくす， あかねり， おもいのいろ， かすみ， こき・いろ， かんじいろ， ちょうぞめ， にじろ， いわぬいろ， きくろ， ねりいろ， うつしいろ， つぎはなだ

資料 1-3 鎌倉・室町時代

【材料名をそのまま使った色彩名】

べにぞめ, うめぞめ, くりいろ, くりぞめ, しぶいろ・ぞめ (柿渋), うこんぞめ, かりやす

【何かの色に喩えた色彩名】

にじいろ, ももいろ, おちくりいろ, しょうじょうひ, かば, からちや, かわらけいろ, きちや, くりうめ, くろうめ・ぞめ, くろちや・ぞめ, こがれいろ, こがれこう, さびいろ, ひといろ, かれいろ, こびちや (こんぶちや, すすたけ, やまももいろ, とりのこいろ, なたね (あぶらいろ), みるちや, あおちや, ときわいろ, ろくしょういろ, ぶどう (えびいろ), なでしこ, ふしぞめ (しばぞめ), うるみいろ

【濃淡の形容を含む色彩名】

うすはなざくら, うすあか, くろこうばい, こきあかいろ, こきこうばい, うすがき, うすちょうじぞめ, うすはじ, こきかい, あかくちなし, こきこう, こきやまぶき, うすき, うすねり, こきき, かげもえぎ, こきもえぎ, あさみどり, くろあお, こきあお, うすあさぎ, かげあさぎ, こいあさぎ, うすあお・ぞめ, うすずみなど, こあい, うすこん, こきうすいろ, こきいろ, ふかねずみ

【明暗の形容を含む色彩名】

あおぐろ, はいむらさき

【色による形容を含む色彩名】

存在を認めず

【本物・偽物の形容を含む色彩名】

まそお

【その他の色彩名】

きいろ, うすずみなど

【不明】

あかはな, かきのそ, あさき, かやいろ, はいろ, あおねり, みずはな, はなむらさき, むくげ, むくのみいろ, ふしがね・いろ・ぞめ, ゆかりのいろ, しいにぶ, ろういろ, こうにぶいろ, つしみちいろ

資料 1-4 江戸時代

【材料名をそのまま使った色彩名】

べに、べにばないろ、とび、とびくりうめ、べんがら、かきしぶいろ、くるみいろ、しゃれがき、ちょうじ、のぐるみぞめ、うつぶしいろ、くわぞめ、はりのきぞめ、こがね・いろ（語源）、きわだもえぎ、かりやすもえぎ、かめのぞき（染め方）、せいたい（青黛）（用途）、つゆくさいろ、もみあいぞめ、あいこん、こんずり、かしわぞめ、きじろいろ（木地蠟色）（染め方）、びんろうじ・いろ・ぞめ

【何かの色に喩えた色彩名】

もみ、あかこうばい、ちいろ、にじぞめ、はねずいろ、べにかけねずみ、べにけしねずみ、べになんど、あかあずき、あずきいろ、あずきちゃ、からざけいろ（乾鮭）、くりうめとび、こげいろ、しののめ、ちゃとび、ときいろ、ときはいろ、とびちゃ、にからちゃ、べにがき、べにこうじ、べにとび、べにひわだ、あいこびちゃ、あいこぶちゃ、あいしゃれがき、あいとのちゃ、あいなまかべ、あおとのちゃ、あらいがき、あらいしゅ、うめがえし、えんしゅうちや、かでんちゃ、かないろちゃ、かなちゃ、かばちゃ、がまちゃ、きかば、きぬとびいろ、きやらちゃ、ぎんからちゃ、くりかばちゃ、くりかわ、くりかわちゃ、くりかわとび、こいこうじ、しぶかみいろ、しぶちゃ、しゃれがき、しゅすちゃ、しろちゃ、すずめいろ、せんじちゃ、せんちゃいろ、そうでんからちゃ、そうでんちゃ、たけかわちゃ、ちゃとび、ちやかついろ、ちやねずみ、ちやふじちゃ、ちょうじちゃ、てりがき、とうせいちゃ、ときあさぎ、ときがらちゃ、とびこおりやま、なべちゃ、なまかべねずみ、なんきん、にくいろ、ふじちゃ、ふるちゃ、べにかば、べにかばちゃ、べにくちばいろ、みずがき、ももしおちゃ、やまとがき、あくちゃ、かわらけちゃ、きがらちゃ、きこげいろ、きつねいろ、きみるちゃ、きんちゃ、くわちゃ、こぶちゃ、しがんちゃ、しこうちゃ、しんさいちゃ、すこぶちゃ、すすたけちゃ、たまごちゃ、とのちゃ、なまかべいろ、びわいろ、びわちゃ、もろこしねずみ、やまぐきちゃ、らんちゃ、りかんちゃ、ろこうちゃ、あさきすみるちゃ、あさきたまご、あぶらいろ、うぐいすちゃ、きうこん、きおうちゃ、こがねちゃ、たまご・いろ、あおやぎちゃ、あおやぎねずみ、うすすみるちゃ、うすみるちゃ、うらわやなぎ、きわだもえぎ、くさやなぎ、くさやなぎちゃ、くろすみるちゃ、しんさいちゃ、すみるちゃ、なたねいろ、ばいこうちゃ、ひわかば、ひわちゃ・いろ・ぞめ、びわちゃいろ、べにひわいろ、みどりちゃいろ、みるいろちゃぞめ、みるちゃ・いろ・ぞめ、あおちゃみる、うぐいすいろ、うぐいすぞめ、うすいすすたけ、おめしちゃ、かりやすもえぎ、きねずみ、さつまねずみ、しめねずみ、せんざい（千歳）、せんざいちや・いろ・ぞめ、ひわいろ、ひわもえぎ、まつばいろ、まめがらちゃ、やなぎすすけた、やなぎすすけたちゃ、やなぎちゃ、やなぎねずみ、やなぎばいろ、あいぎんすすたけ、うらやなぎ、はんもえぎ、みなとすすけた、もえぎびろうど、いこうちゃ、かびたんちゃ、ときわぞめ、あいびろうど、こんびろうど、ささいろ、たまむしいろ、びろうど・いろ・ちゃ、あおたけいろ、あさぎみずいろ、

えどおなんどちゃ、おなんどちゃ、こいなんどちゃ、こんてつ、ささのあお、さびてつおなんど、たまごあさき、ちゃびろうど、てついろ、てつおなんど、てつなんどちゃ、ぬればいろ、あいみるちゃ・いろ・ぞめ、おめしおなんど、かばあさぎ、さつまおなんど、みずあさぎ・ぞめ、みずいろあさぎ、あいなんど、あいけねずみ、あいずみちゃ、あいねずみ、あおねずみ、おなんど・いろ・ぞめ、かめのぞき、からすばいろ、きょうねずみ、ぎんおなんどちゃ、こうらいなんど、せいたいねずみ、ちぐさ・いろ（もえぎ）、ぬるでなんど、のしめあさぎ、はなこんじょう、まずはないろ、みずちゃ、になとねずみ、るりなんどちゃ、あおはな、こんあさぎぞめ、こんぎきょう、こんとび・いろ、はなのいろ、ふじこん、べにかけそらいろ、べにかけはないろ、むしこん、るりこん、あいさび・ぞめ、あいとび・いろ、あいふじ、ききょうふじ、きょうふじ、こいふじ・いろ、こんふじ、ねずみふじいろ、はとねずみ、はとばいろ、はとばねずみ、ふじいろ・ぞめ、ふじねずみ・いろ、ふじむらさき、ぶどうねずみ、べにききょう、むらさきふじ・いろ、かきつばたのはないろ、ぶどうむらさき、むらさきとび、えびいろ、べにねずみ、べにふじ、ようかんいろ、ふしぞめ（しばぞめ）、うすねずみ・いろ、うるしねずみ、きぬねずみ、すきやねずみ、すねずみ、そめしるねずみ、ちゃけねずみ、どぶねずみ、ねずみいろ・ぞめ、ふすべいろ、かばすすたけ、かわらけすすたけ、きやらすすたけ、きんすすたけ、くりすすたけ、こげからちゃ、こげちゃ、さくらすすたけ、ちゃすすたけ、とうきんすすたけ、なかすすたけ、ねずみすすたけ、ひごすすたけ、ふじすすたけ、べにすすたけ、ききょうすすたけ、ぎんすすたけ、ぎんすすたけちゃ、くろすすたけ、さびすすたけ、しゃれすすたけ、たまごすすたけ、ちょうじすすたけ、ないきすすたけ、なんきんすすたけ、ほんすすたけ

【濃淡の形容を含む色彩名】

あさきあかいろ、うすあかね、うすべに、うすもみ、うすもみじ、くろべに、こいべに、ちゅうもみ、なかべに、なかとび、うすかば、こいかばちゃ、こいこうじ、こいしろちゃ、こいちゃ、なかこうじ、うすこうじ、うすこうぞめ（中古あり）、うすすたけ、こきうこん、うすたまご・いろ、なかたまご、はんもえぎ、しろあさき、うすあい、うすかついろ、うすちくさいろ、こいちくさ、こいなかいろ、なかいろ、おぼろけはないろ、こいはないろ、のうこん、こいふじ・いろ、うすえび、こいねずみ・いろ、しろねずみいろ

【明暗の形容を含む色彩名】

存在を認めず

【色による形容を含む色彩名】

存在を認めず

【本物・偽物の形容を含む色彩名】

ほんもみ， もみまがいぞめ， にせももいろ， ほんくろがき， ほんくろべにぞめいろ，
ほんべに， まがいべに， ほんひ， ほんくろちゃ， ほんだがき， ほんちょうじちゃ，
ほんべにうこん， にせくちばいろ， にせききょう， にせふじいろ， ほんあいふじ，
ほんききょう， まがいききょう， にせむらさき， ほんむらさき， まがいむらさき，
むらさきまがいぞめ， ほんべにふじ， ほんびんろうじぞめ

【その他の色彩名】

いまようぞめ， にごんぞめ， あかぐろ， しんく， じんざもみ， とうべにぞめ，
べになんど， あかちゃ， あかとび， くろとび， うすちゃ， うすちょうじちゃ，
えどちゃ， かきけんぼう， きかち， きかば， こおりやまぞめ，
だんじゅうろうちゃ， ちゃんんきん， ちょうせんちゃ， とうきんかばちゃ， ひごぞめ，
ふじいろなんきん， べにうこん， むかしからちゃ， やまとがき， あいけんぼう，
くろちゃけんぼう， けんぼう， ちょうせんすすたけちゃ， なんばんちゃ， ねずみけん
ぼう， もろこしいろ， よしおかいろ， よしおかぞめ， きうこん， あかちゃんんきん，
りきゅう・ぞめ， りきゅうちゃ， いわいちゃ， くさいろ， ふかがわねずみ， けんぼう
りきゅう， えどおなんどちゃ， おなんどちゃ， こいなんどちゃ， さびてつおなんど， て
つおなんど， てつなんどちゃ， あいなんきん， あいみなど， おめしおなんど， おめし
てつ（おめしちゃ）， さつまおなんど， ちゃはないろ， なつむしのいろ， みなといろ，
やつれあいなんきん， あいなんど， あおしろいろ， あおはなだ， おなんど・いろ・ぞ
め， きょうねずみ， ぎんおなんどちゃ， くろかちん， こうらいなんど， たんばいろ，
ぬるでなんど， るりなんどちゃ， えどなんど， しろはないろ， べにみどり， いまむら
さき， きょうふじ， こんふじ， あいむらさき， えどかりむらさき， えどぞめ， えど
むらさき， なんきんふじ， きょうむらさき， うるみしゅ， べにむらさき， くろびろう
ど， ぎんねずみ， くろねずみ， けんぼうくろちゃ

【不明】

しちりょうぞめ， あかづちぞめ， かばざくら（襲）， されいろ， さわらびいろ（襲），
しゅす（絹織物）， すすき（襲）， つちいろ（表情）， つちけいろ（表情），
とうせい（植物名：冬青， 刺青）， ばばいろ， きくぞめ， きはちじょう（織物），
しょうぶかわいろ， かわいろ， あいつき， うつらん， のしめいろ（綾）， べにみなど，
ねずじむらさき， ふじかびたん， あやめ・ぞめ， かきつばたのはいろ（襲あり），
ゆうむらさき， ほのむらさき， ぼたんかけいろ， らしゃぞめ・いろ， すずいろ，
はいげいろ

資料2 質問紙の内容

資料2-1 アンケートにおける音声での説明内容及び記載内容

これは、「色から何をイメージするか」ということを調べる（しらべる）ためのアンケートです。このアンケートは、まちがった答えがありません。出てきたことばの数が多くても少なくてもよいものです。リラックスをして答えてください。緑色（みどりいろ）を例に紹介（しょうかい）します。次のようなものです。

例：緑（みどり：green）

木 (き)	はやし	もり	草	Melon	ともだち (名前)	しんかんせん (緑の窓口)
----------	-----	----	---	-------	--------------	------------------

木・はやし・もり・草・メロンはよくわかるのではないのでしょうか。「ともだち」とは友だちの名前のことです。「ともだち」「みどりさん」「みどりちゃん」どのような書き方でもかまいません。「しんかんせん」は新幹線（しんかんせん）そのものではなくて切符（きっぷ）を買うところを「緑（みどり）の窓口（まどぐち）」というからです。このように、思いついたことはどんなことでもよいので書いてください。

次のようなことに気をつけてください。

- ① 友だちと話し合わずに、自分で考えたことを書く。
- ② 自分でイメージしたことは、どんなことでもよいので、できるだけたくさん書く。
- ③ ひらがな、漢字、英語など自分の書きやすい文字で書いてよい。
- ④ 「はじめてください。」ではじめ、「おわりです。」で終わる。
- ⑤ まちがったときには、けさずに次のマスに書く。

資料3 児童の色彩語の連想に関する推論詳細データ

資料3-1 黒色に関する連想（第2学年・第6学年共通での反応語 88語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黒色が入っているもの	<p> インク・ペンキ, 絵具, 鉛筆・シャープペン・色鉛筆, クレヨン・クレパス, 墨・炭・墨汁, ペン・マジック・ボールペン, 糸・ひも, 色紙・折り紙, 画用紙, あり, パンダ, 犬, 黒猫, カラス, ブラックバス, 毛・髪の毛, 鼻毛, まつ毛, 眉毛, 目・眼球, 石・岩・玄武岩, 宝石・ネックレス, 影・陰, 雲・雨雲・雷雲, 煙, 闇・暗闇, 夜空, 暗い・暗さ, 家・建物, 椅子, 文字・字・習字・書写, 音符, クッキー, コーヒー, 胡麻, 黒豆, ダークチョコレート, かす・消しカス, 靴, 本・本の表紙, 眼鏡, くろくん（絵本キャラクター）, かばん・バック・体操服入れ, ランドセル, ゴム, 磁石・マグネット, 水筒, タイヤ, ピアノ, 鍵盤, 机, 道路・道, 時計, 時計の針, テレビラジオ・ラジカセ, リモコン, パソコン・パソコンの画面, コンセント, バット, ピン（髪留め用）, ファイル, 筆箱・ペンケース, ズボン, 靴下, ジーンズ, アンダーシャツ・下着, ジャンパー, スーツ, 学生服, 帽子, 洋服 </p> <p style="text-align: right;">以上 71 語</p>
物理的に黒色が入っていないもの	<p> 悪魔, 犬の名前, 宇宙, 黒板, こげ・こげる, ゴミ, 地獄, 電気, 電子黒板, ブラックホール, ほこり, 夜, 黒田さん, くろみちゃん, 色, おばけやしき, トンネル </p> <p style="text-align: right;">以上 17 語</p>

資料 3-2 黒色に関する連想（第 2 学年独自での反応語 51 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黒色が入っているもの	<p>アゲハチョウ, アボガド, 腕輪, 馬, エスカレーター, 絵本, 鉛筆削り, カーテン, かご, ゴキブリ, 黒蝶, 地面, 充電器, 定規・ものさし, 図, スイミー（教科書教材主人公）, タイマー, テーブル・台, トランプ, なわとび, どんどろ（妖怪ウォッチキャラクター）, 海苔, 乗り物・車, 乗り物・自転車, ハンカチ, ピアノカバー, スパッツ, タイツ, 布団, 望遠鏡, ほうき, 枕, マスク, カブトムシ, ハエ, 毛布, リスの模様, ロバ</p> <p style="text-align: right;">以上 38 語</p>
物理的に黒色が入っていないもの	<p>おばけ, くろおに, 黒川（人名）, 木, 銀, サッカー, 血, 地下鉄, 土, 洞窟, 猫の名前, 森, 虫</p> <p style="text-align: right;">以上 13 語</p>

資料 3-3 黒色に関する連想（第 6 学年独自での反応語 195 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黒色が入っているもの	<p>飴玉, 餡子, イカ墨, イカ墨パスタ, 黒砂糖, 胡椒, コーラ, ひじき, 醤油, フォンダショコラ, ブラックサンダー（お菓子）, 黒鯛, 黒大豆,</p> <p>黒トリュフ, ケーキ, たこすみ, なす, 寿司屋の皿の下, 寿司屋のレーン,</p> <p>スイカの種, フライパン, 黒点, 日食, すす・スモーク, 夜の森, かび,</p> <p>蝙蝠, 熊, ゴリラ, しまうま, ジャガー, ひぐま,</p> <p>エンダーマン（ゲームキャラクタ）, おじぼん（キャラクタ）, くまもん（キャラクタ）,</p> <p>ハンター（テレビキャラクタ）, まっくろくろすけ（アニメキャラクタ）, ミッキーマウス（キャラクタ）, ミニーマウス（キャラクタ）,</p> <p>サッカーボール, スパイク, サングラス, ラケット, ハードル, グローブ,</p> <p>ストップウォッチ, ストラップ, スピーカー, センサー, ソーラーパネル, 電線,</p> <p>電話, マイク, レンジ, 音楽プレーヤー, 携帯電話, 冷凍庫・冷蔵庫, カメラ,</p> <p>石炭, 鉛, 木炭, 鉄, 線, 筆, 文字・書道, ベタ（漫画用語）, ノート, 色紙, 黒字,</p> <p>棚・ロッカー, タブレット, チャック, 印鑑・判子, 腕時計, 液体,</p> <p>機関車・汽車・SL, 車・タクシー, 三輪車, バイク, 踏切, バス,</p> <p>鉛筆のキャップ, 岡山城, オセロ, お歯黒, カーペット, 楽器, カバー, かわら,</p> <p>切符の裏, 髯・髭・鬚, ケース, ゲーム, 消しゴム, けん玉, 銅鑼, 名札,</p> <p>鍋・中華鍋, 布, シート, 深海, 引き出し, 黒人, 黒子, ゴミ袋, さすまた,</p> <p>服・喪服・式服, コート, 筆箱（男子用）, 弁当箱, ボタン, リュックサック, 虫歯,</p> <p>屋根, モノクロ, 遊具</p> <p style="text-align: right;">以上 117 語</p>
物理的に黒色が入っていないもの	<p>アイス, 悪・悪い, 悪いこと, 悪い人・悪人, 犯罪, 悪夢, 熱い・暑い, アニメ,</p> <p>雨, あられ, 暗黒, いじめ, 裏, 煙突, 動物, バナナ,</p> <p>落ち込む, 男の子, 大人, 重い, 格好いい, 気分, 清い心, 嫌い, 曇り, 刑務所,</p> <p>怖い, 死, 死神, 白黒はっきり, 制圧, 戦争, 葬式, 卒業式, 月, 強い, 辛い, 敵,</p> <p>苦い, 灰, 腹黒い, 深い, 冬, 平日, 暴力, 星, 無次元, 闇金, 闇鍋, 欲, チョーク,</p> <p>執事, 印刷, 穴, 落とし穴, ともだち, 姉ちゃん, 墮天使, 魔女, 鬼,</p> <p>ブラックジャック, プラネタリウム, プリント, ポケモン（アニメタイトル）, 部屋,</p> <p>漫画, モンスター, 目隠し, ライト・灯, 大田黒（苗字）, 黒木メイサ（女優）, 黒子のバスケ（漫画タイトル）, 日本人, ダーク, 汚れ, 植物, フォーマル</p> <p style="text-align: right;">以上 77 語</p>
不明	<p>おどれ（大）, ころあめ,</p> <p style="text-align: right;">以上 2 語</p>

資料 3-4 白色に関する連想（第 2 学年・第 6 学年共通での反応語 146 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に白色が入っているもの	<p>色鉛筆, 色ペン・マーカー・マジック, 絵の具セット, 絵具・ペンキ・インク, クレヨン, 糸, 生地・布, 紙・プリント・画用紙・折り紙, 給食着・袋・エプロン, 靴・シューズ, カーテン, カーペット・絨毯, レース, 紐, ボタン, 箱・かご, バック, 犬, うさぎ, 牛, 魚, いか・烏賊, 猫, 白鳥, 白馬, 白熊, パンダ, 鳩, 羊, 卵・白身・殻, 歯, 目・白目, 白髪・髪の毛, 爪, 空, 太陽, 霧, 息, 雲・雨雲, 霜, 泡, 雪, 雪だるま, 湯気, 綿, 塩, 砂, 大根, 豆腐, カリフラワー, アイスクリューム・ソフトクリューム, 牛乳・ミルク, クッキー, 綿菓子・綿あめ, クリーム・生クリーム, ヨーグルト, ケーキ, マシュマロ, 米・ごはん, 小麦粉・薄力粉, ホワイトチョコレート, 素麺, 粉, 砂糖, 電車, 飛行機・ヘリコプター, 車・トラック, 新幹線, ガードレール, 壁・塀, 椅子, 家・建物・マンション・倉庫, 天井, ドア, 棚・ロッカー, 城, たんす・箆笥, 机, コップ, ホワイトボード, エアコン・ヒーター, 扇風機, 電気・電球・ライト・蛍光灯, スマートフォン・電話, ミシン, ゲーム, コンセント, ティッシュ・トイレットペーパー, 石鹸, 洋服, 靴下, シャツ, ジャンパー, ずぼん・パンツ, 帽子, ワンピース, ランドセル, ゴム, ボール, ゴルフボール, サッカーボール, 野球ボール, 教科書, 消しゴム, 鉛筆のキャップ, カレンダー, 接着剤, テープ・ガムテープ, 筆箱, 糊, ボンド, チョーク, ノート, 白線, 磁石, ファイル, シール, 時計, 名札, 歯ブラシ, オセロ, 雑巾・布巾, ピアノ, ピン, 包帯, ボード, 本, マスク, 床, レジ袋, タバコ</p> <p style="text-align: right;">以上 131 語</p>
物理的に白色が入っていないもの	<p>色, ダイヤ・ダイヤモンド, 天国・天界, 天使, 日曜日, 光, 病院, 冬, 窓, マヨネーズ, 幽霊・おばけ, シロ（ペットの名前）, 結婚式, 風呂, 花</p> <p style="text-align: right;">以上 15 語</p>

資料 3-5 白色に関する連想（第 2 学年独自での反応語 71 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に白色が入っているもの	<p>アスパラガス, ざくろ (内部), かぶ, 桜, チューリップ, 絹, シロイルカ, 白タヌキ, 真珠, 鶏, 霰, 貝・貝殻, 鉛筆, 鉛筆研ぎ, カード・トランプ, かご, コンクリート, コンピューター, 座布団, 習字セット, 消火器 (市販・簡易), 新聞紙, ストープ, ストッパー, スプレー, スポンジ, 洗面所, 台拭き, タイマー, タオル, 蝶・モンシロチョウ, 電気の傘, 電子黒板, 道着, ハンガー, 絆創膏, 火・炎, 引き出し, 日の丸, ビブス, 筆, ベランダ, 棒, マット, マリオ (アニメキャラクター), ユニフォーム, 冷蔵庫, 廊下, マカロン, 紙コップ, 紙粘土, 紙飛行機, 看板, 切符, くもマリオ (アニメキャラクター), ケーブル, コマさん (アニメキャラクター), コマさん 2 (アニメキャラクター), ジバニャン (アニメキャラクター), ダイヤニャン (アニメキャラクター), 怪盗キッド (アニメキャラクター)</p> <p>以上 61 語</p>
物理的に白色が入っていないもの	<p>英語, ガラス, 空気, 唇, 猿, 静電気, キャラクター, 信号機, 菓子, 模様</p> <p>以上 10 語</p>
不明	<p>マリラクマ</p> <p>以上 1 語</p>

資料3-6 白色に関する連想（第6学年独自での反応語 213語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に白色が入っているもの	<p>真っ白, 煙, 砂浜, 氷・氷柱, 綿毛, かまくら, マーガレット, 石灰, セメント, 月, アヒル, クラゲ, ホワイトタイガー, ペリカン, ねずみ, のみ, シマウマ, こうのとり, ライオン, 白蟻, 蜘蛛の糸, うどん, ガム, 片栗粉, かまぼこ, シチュー・ホワイトルー, 練乳, 餅・大福餅, 八つ橋, カルピス, キノコ, チーズ, 金平糖, シュークリーム, 白餡, はんぺん, ビール, 麩, 豆乳, にんにく・大蒜, 葱, バター, パン・食パン, 鯛, ウエディングドレス, 白装束, 白衣, ホワイトハウス, 東京スカイツリー, 駅のドア, インテリア・家具, トイレ, 横断歩道, 地面, 道, 救急車, 自転車, バイク, 船, パソコン, 電気コード, サッカーゴール, バトミントンの羽根, バレーボール, 卓球ボール, スパイク, ラケット, グローブ, なわとび, バット, 遊具, カッター, 修正テープ・修正液, 化粧, 塗り絵, ごみ箱, ごみ袋, 皿, しおり, 時間割, 定規・ものさし, 賞状, ジッパー, ストラップ・キーホルダー, ストロウ, 発泡スチロール, 歯磨き粉, 封筒, プラスチック, ブランター, ベース, ベッド, 星, 骨, 勾玉, まな板, 水玉, 無地, モノクロ, リボン, リモコン, CD, USB メディアフラッシュ, カイロ, カメラ, 腹巻, ハンカチ, 布団, スーツ, 制服, 枕, むいぐるみ, 軍手・手袋, キャンバス, 液体, ウルトラマン (テレビキャラクター), ハローキティ (アニメキャラクター), プリキュア (アニメキャラクター), ミッフィー (アニメキャラクター), 白人, 宝石</p> <p style="text-align: right;">以上 121 語</p>
物理的に白色が入っていないもの	<p>Mr.White(英語の教科書の人), 医者, 白井さん (人名), 担任の先生 (白髪), 白雪姫, 坂上忍 (芸能人), 千葉ロッテマリーンズ, 埼玉西武ライオンズ, 肌, 手, 友だち, オデットスワン, 郵便局, 葬式, 死, 平和, 仏, 神様, 心, 勝ち負け・勝負・勝ち, 明るい, 頭が真っ白, お洒落, 穏やか, 可愛い, 希望, 清らかさ, 綺麗, 潔白, 正義, 清潔, 清楚, 善, 晴ればれ, 涼しい, 自由, 純真・純白, シンプル, 好き, 素直, ふわふわ, 夢, 未来, 無欲, 眼鏡, 優しさ, 何色にも染まらない, 始まり, ゼロ, 無限, 無罪, 朝日, 運動場, エッフェル塔, 北海道, 北極, 東北, 日本, アクセサリー, 水晶, 黒, 白黒, 紅白, 夏, 翼, ドーム, 白血球, 日差し, 人・人間, 昼, 貧血, 冬野菜, 水, 未知の世界, 無・文字, ワイン, 雪かき, 雪合戦, フード, フィギア, 国旗, 植物, 綱引き, 動物, 部屋, 上, 下, 中身, 反対, 左, 葉, 右</p> <p style="text-align: right;">以上 92 語</p>

資料 3-7 赤色に関する連想（第 2 学年・第 6 学年共通での反応語 116 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に赤色が入っているもの	<p>赤鉛筆・色鉛筆, 赤ペン・マジック・マーカー, 絵具・インク, クレヨン, ペンキ, 口紅, チョーク, 車・スポーツカー・トラック, ポスト, 赤色灯・パトカー・サイレン, 紙・画用紙, 洋服, ジャンパー, スカート, ズボン・ジーンズ, 帽子, ランドセル, リボン, 赤ずきん, 靴下, 鉢巻, シュシュ, 布, マフラー, 靴・シューズ, バック・袋, ビブス, ゴム, カチューシャ, 夕日, 夕焼け, いちご・野イチゴ, 梅・梅干し, 人参, 唐辛子, さくらんぼ・チェリー, 西瓜, ざくろ, トマト・プチトマト, ラディッシュ, りんご, パプリカ, ピーマン, カーネーション, 桜, チューリップ, 椿, バラ, もみじ, 海老, 蟹, 魚, ザリガニ, 蛸, 口の中・舌, 唇, 血液・血管・鼻血, ほっぺ, ケチャップ, キムチ, 紅組, かご, 消しゴム, コップ, 自転車, 消火器, 定規, 消防車, 水筒, 洗濯バサミ, 棚・ロッカー・靴箱, 東京タワー, 名札, なわとび, ノート, ドリル, 糊のふた, はさみ, ファイル, 筆箱, 本, テープ, 鉛筆削り, シール, カード・トランプ, 磁石, 下敷き, 火・たき火・炎, 風船, ルビー, ボール, 星・惑星, 眼鏡・サングラス, 花丸, 文字・英語・日本語, 屋根, 赤い液体（不明）, ジバニャン（アニメキャラクター）, マリオ（ゲームキャラクター）</p> <p style="text-align: right;">以上 99 語</p>
物理的に赤色が入っていないもの	<p>赤鬼, 色, 火山, 火事, カレンダー, サンタクロース, 信号機, ダイヤ・ダイヤモンド, 太陽, チョコ, 虹, ハート, 旗・国旗, 花, 枯葉・葉</p> <p style="text-align: right;">以上 15 語</p>

資料 3-8 赤色に関する連想（第 2 学年独自での反応語 59 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に赤色が入っているもの	<p>あかしし, 金魚, ロブスター, 鶏冠, 鳥, ダリア, 芋, 木の実, ドラゴンフルーツ, きじ, お守り, 紐, 紙テープ, あかちん (ヨードチンキ), 赤丸, エプロン, 鉛筆立て, 大玉, 傘, 薬, 靴, 靴ひも, 鍵盤ハーモニカ, ごみ箱, 財布, 座布団, 図・線, スリッパ, ソファ, そり, 長靴, ネックレス, バイク, 箱, 橋, 箸, バッチ, 花火, プレーキのランプ, ベル, 防犯ブザー, ボタン, 冷蔵庫, 缶, ミニカー, ピノキオ (キャラクター), ルピニャン (アニメキャラクター), 家</p> <p style="text-align: right;">以上 48 語</p>
物理的に赤色が入っていないもの	<p>秋, いのち, 絵, コーラ, 自動販売機, 時計, 任天堂, 歯ブラシ, 絆創膏, かざり, スプレー</p> <p style="text-align: right;">以上 11 語</p>

資料 3-9 赤色に関する連想（第 6 学年独自での反応語 240 語）

（反応語と反応語の間は「，」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に赤色が入っているもの	<p>紫，ピンク，真紅・真っ赤，マニキュア，赤潮，朝日，夕・夕方，トナカイ，てんとう虫，いちじく，ラズベリー，ブルーベリー，豆，アマリリス，スイートピー，ツツジ，彼岸花，ハイビスカス，マグロ，赤身，いくら，鯛・金目鯛，刺身，鮭・サーモン，肉，ウインナー，ソーセージ，ハム，ベーコン，一味，七味，唐辛子・ハバネロ，ワイン，ラー油，紅ショウガ，アイス，ジャム，めんたいこ，スパゲッティー，肉球，脳，肺，筋肉，心臓，小腸，怪我・傷口，猿のおしり，オパール，ガーネット，スピネル，イーストアイ，ロードナイト，新幹線，毛糸，貼り紙，看板，ハンカチ，カーテン，たすき，ジャージ，リトマス紙，毛布，アルバム，椅子，印鑑・判子，鉛筆のキャップ，キーホルダー，教科書，首輪，コンタクト，さび，ストップランプ，ストロボエッジ，すべり台，スマートフォン・携帯電話，導線，バケツ，だるま，机，添削・丸つけ，しおり，辞典，おはじき，赤墨，バスケットボール，バット，バトン，スイミング，水着，スイムキャップ，グローブ，コーン，遊具，日の丸・国旗，ピン止め，笛，ボンドのキャップ，マグマ・溶岩，マスク，ライト，リモコン，煉瓦，ロマンスカー，レッドカーペット，赤い糸，赤い羽根，赤備，スパイダーマン（アニメキャラクター），キノピオ（アニメキャラクター），暗殺教室のキャラクター，レッド（アニメキャラクター），エルモ（キャラクター），かつら</p> <p style="text-align: right;">以上 109 語</p>
物理的に赤色が入っていないもの	<p>桃，紅白，赤字，目立つ・注目，パッション，派手，華やか，明るい，温かい，暑い，熱い，危ない・危険，怒り，止まれ，注意・警告，勢い，祝い・おめでたい，強い，勝・勝利，辛い，可愛い，緊急，くつきり，重要，情熱，気合，危険，心・感情，怖い・恐怖，殺意，殺人，残酷，災い，燃える・燃えつくす，もどす・0 にする，歴史，運命，戦争・戦，掃除，元気，恋・ラブ，豪華，愛，ストレス，赤ちゃん，赤とんぼ，嘘，アメリカ，中国，日本，中華街，京都，神社，蚊，魔王，妖怪，吸血鬼，地獄，火の鳥・フェニックス，火の玉，ドラゴン，消防士，救急車，郵便，警察，広島カープ，カープ女子，楽天イーグルス，女の子，隊長，ピエロ，赤毛のアン，8.6 秒バズーカ（芸人），ギャル，プレゼント，昼，夏，日曜日，バレンタイン，ナイフ，ミニ黒板，名鉄，模様・柄，友だち，電光掲示板，動物，地球の誕生，嵐，運動会，温度計，壁，壁ドン，牛丼，ゲーム，神戸電鉄，国語，酸性，囚人服，ジュース，植物，紅葉，刃，パーティー，弓矢，N 極，体，顔，爪，骨，兎，髪の毛，洗濯糊，銀杏，キャンプファイヤー，サラダ，ラーメン，シントロー（アニメキャラクター），火神（アニメキャラクター），ミルキィホームズ，シャロ（アニメキャラクター），赤司（アニメキャラクター），赤羽カルマ（アニメキャラクター），ちびまるこちゃん（アニメキャラクター），カゲロウデイズ（アニメ），スクールアイドルフェスティバル（ゲームタイトル），三森すずこ（芸能人），ラブライブ（ゲームタイトル）</p> <p style="text-align: right;">以上 126 語</p>
不明	<p>赤羽のおつかい</p> <p style="text-align: right;">以上 1 語</p>

資料 3-10 青色に関する連想（第 2 学年・第 6 学年共通での反応語 109 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に青色が入っているもの	<p>絵具・インク・ペンキ, 色鉛筆・鉛筆, 青ペン・マジック・マーカー, チョーク, クレヨン・クレパス, 車・トラック・バス, 新幹線, プール, 鉄棒, 上り棒, 吊り輪, 糸・紐, 生地・布, 洋服, ジャンパー, ズボン・ジーンズ, ランドセル, 靴・シューズ・サンダル, 帽子, 靴下, バック・袋・かばん, 筆箱, ゴム, 紙・画用紙・色紙, いるか, シール, 教科書, ノート・ドリル, 定規, 本, はさみ, セロファンテープ・テープカッター, ファイル, 鍵盤ハーモニカ・ケース, 鉛筆削り, 机, 椅子, 消しゴム, 黒板消し, 洗濯バサミ, 長靴, 糊, 歯ブラシ, ハンカチ, ピン, ベッド, 手袋, アイス, 水筒, 屋根, 養生シート, カーテン, 自転車, 眼鏡・フレーム, うんてい, ラジカセ, コップ・カップ, 棚・ロッカー, バケツ, キャップ, テープ・ガムテープ, なわとび, 箱・かご, ボール, ごみ箱, 魚, 名札, 家, 磁石, 青組, 旗, 鉢巻, サファイア, ドラえもん（アニメキャラクター）</p> <p style="text-align: right;">以上 72 語</p>
物理的に青色が入っていないもの	<p>台風・ハリケーン, 時計, 涙, 水たまり, 模様, 夜, 黒板, 沼, 火・炎, 水晶 クリスタル, 男・男の子, 地図, 波, 虹, 晴れ, ソーラーパネル, 青りんご, 色, 風, 宇宙, 風神, 雨, 地球, 氷, 友だち, 池, 信号機, 湖, 川, 空, 水, 海・マリン, 宝石, 花, ソーダ・サイダー・ラムネ</p> <p style="text-align: right;">以上 35 語</p>

資料 3-11 青色に関する連想（第 2 学年独自での反応語 55 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に青色が入っているもの	<p>スプレー, 紙テープ, 毛糸, 線・図形, 文字, 帽子, かご, 傘, カセット, 蚊帳, カルタ, カレンダー, 看板, 座布団・クッション, 下敷き, ジャングルジム, スタンプ, すべり台, 洗剤, 雑巾, 蝶, 積み木, ネクタイ, ネット, 貼り紙, ハンガー, ビーズ, ビブス, 風船, 布団, フラフープ, ブランコ, ホース, ボタン, マカロン, 虫かご, メガネケース, キノピオ（ゲームキャラクター）</p> <p>以上 38 語</p>
物理的に青色が入っていないもの	<p>ガラス, 紺, 青鬼, ゲーム, さぼてん, 水道, ダイヤ, 歯磨き粉, 部屋, 夜空, 水仙, あおき（人名）, エルサ（アニメキャラクター）</p> <p>以上 13 語</p>
不明	<p>ケド, サハシャ, チュコぱり, ブルーバリケン</p> <p>以上 4 語</p>

資料3-12 青色に関する連想（第6学年独自での反応語 221語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に青色が入っているもの	<p>紫, 緑, 藍色, 内出血・青あざ・打ち身, 水色, 蛍光色, 葡萄・ブルーベリー, 茄子, トマト, パプリカ, タピオカ, 飴・キャンディー, グミ, かき氷, シロップ, スカイブルー, ピンキー, 缶コーヒー, オオイヌノフグリ, 勿忘草, すみれ, チューリップ, 葉, 鳥, トカゲ, 蟹, サメ, LED ランプ・ライト, 犬小屋, 浮輪, 絵具筆, 大玉, 貝・貝殻, かつら, 鐘, 壁, 瓦, 血管, 炬燵, コンタクトレンズ, コンパス, 財布, 皿, しおり, シュシュ, 城, スマートフォン・電話, スリッパ, タオル, たすき, 打撲, 電車・京浜東北線, 導線, 道路標識, 扉・ドア, ハーモニカ, バイク, 橋, バツ印, 羽根, 引き出し, 飛行機, フード, 船, ブルーハワイ, プルトーザー, サファイヤ, 星, 勾玉, マニキュア, 目, 木星の衛星, スカート, ヨット, リトマス紙, 連絡袋, 洗面器, トイレ, 風呂, お風呂マット, ちりとり, エプロン・給食着, バット, バトン, ゴーグル, グローブ, ステッチ (アニメキャラクター), ミッキー (キャラクター)</p> <p style="text-align: right;">以上 87 語</p>
物理的に青色が入っていないもの	<p>6 月, OK, white, アニメ, お墓, おばけ, 外人 (青い目から), 顔, 学校, 幼稚園, 消えにくい, 貴重な薔薇, 給食, 元気玉 (アニメアイテム), 国旗, 算数, 水泳・泳ぎ・泳ぎ, スポーツ, 土曜日 (カレンダー), 泥, プーマ, 平野, 優勝, ヨーグルト, ラジコン, 遊具, お菓子, こい, フリーパス, 植物, アルカリ性, 個体, アメリカ, フランス, ハワイ, エベレスト山, 格好いい, 悲しみ, 環境, 寒色, 落ち着き, 冷静, 泣く, 流す, 優しい, 優秀, 冷え・冷たい, 病気, 平和, 真面目, 広い, 壮大, 涼しい, 進む, 澄み切った, 清潔, 集中, 循環, 透ける・透き通る, 気持ち・心情, 気持ちいい, 寒さ・寒い, さわやか, 幸せ, 静か, クール, 怖い, コンパクト, 寝る・睡眠, 鮮やか, 速い, 唇 (寒い時の), 青白い, 暗い, 夏, 冬, 昼, 窓, 天, 水滴・滴, 滝, ダム, 津波, 温泉, 潮・塩, 液体, 気体, 水遊び, 水鉄砲, 漁, 未来, 恵み, 森, 林, 島, 水星, 自然, 深海, 雪, 節水, 泉, 海の家, オーロラ, うるおい, 青年, オリックスバッファローズ, 中日ドラゴンズ, DeNA ベースターズ, 野球日本代表, ローソン, サッカー日本代表, コンビニエンスストア, 警察, JR 西日本, アバター (映画), 青峰 (アニメキャラクター), 大野智 (芸能人), エネ (アニメキャラクター), 青空君, アナと雪の女王 (映画タイトル), サリー (アニメキャラクター), パーマン (アニメキャラクター), 名前, ブルーハーツ (バンド名), ブルーギル, 魔女, 龍・ドラゴン, 半漁人, 人魚・人魚姫, 幽霊</p> <p style="text-align: right;">以上 130 語</p>
不明	<p>ローブ, たまに明るい</p> <p style="text-align: right;">以上 2 語</p>

資料 3-13 黄色に関する連想（第 2 学年・第 6 学年共通での反応語 122 語）

（反応語と反応語の間は「，」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黄色が入っているもの	<p>色鉛筆， 絵具・ペンキ・インク，黄色ペン・マーカー・マジック，クレヨン，紙・画用紙・色紙，生地・布，紐・糸・毛糸，靴・シューズ，枕，洋服，靴下，ジャンパー，スカート，ズボン，帽子，マフラー，ライオン，ランドセル，旗，鉢巻，ハンカチ，バック，キリン，虎，猫，ひよこ，チーター，蝶，蜂，蜂蜜，銀杏，マンゴー， みかん・オレンジ，レモン，メロン，パイナップル，バナナ，パプリカ・ピーマン，玉蜀黍・コーン，グレープフルーツ，たんぽぽ，菜の花，チューリップ，パンジー・ビオラ，向日葵，たくあん・漬物，500 円玉，カーテン，かぼちゃ，黄組，車，消しゴム，コーンスープ，黒板消し，コップ・カップ，粉， ゴム，磁石， 下敷き， 自転車， 地面， 定規， 新幹線・ドクターイエロー，水筒， 砂， 滑り台， スポンジ， 棚・ロッカー， 種， タブレット，卵焼き・オムレツ，チョーク， 月， 土， 時計・秒針， 名札， なわとび， 尿， バケツ， 箱・ケース・かご， バトン， 引き出し， ピン， 風船， ボール， 眼鏡， 目玉焼き， オムライス， キャップ， 教科書， ファイル， 筆箱， 本， テープ， ガムテープ， ノート， シール， はさみ， ピカチュウ（アニメキャラクター），プーさん（アニメキャラクター），ふなっしー（キャラクター），お金</p> <p style="text-align: right;">以上 101 語</p>
物理的に黄色が入っていないもの	<p>黄色，輝き，きらきら，国旗，信号機，雷，光，星，静電気，電気・ライト・明かり，太陽，注意，友だち，葉・紅葉，花，春，ボンド，虫，りんご，朝ごはん，模様</p> <p style="text-align: right;">以上 21 語</p>

資料 3-14 黄色に関する連想（第 2 学年独自での反応語 72 語）

（反応語と反応語の間は「,」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黄色が入っているもの	<p>ペン, ミニカー, 看板, リボン, 靴ひも, タオル, 傘, カレンダー, 座布団・クッション, ネックウォーマー, きつね, 雛・子鳥, ヒョウ, すだち・酢橘, サンゴ礁, 卵ごはん, クリーム, マカロン, ラーメン, かずのこ, スーツ, 手袋, ネクタイ, トパーズ, 5 円玉, 浮輪, 団扇, かご, 鍵盤ハーモニカ, ごみ箱, スタンプ, 洗濯バサミ, タイマー, チェーン, 積み木, 電池, 長靴, ネット, 粘土板, バッタ, バット, 歯ブラシ, 歯磨き粉, 貼り紙, ハンガー, 笛, 船, 防犯ブザー, ボタン, メガネケース, 文字・英語, 家・建物, キノピオ（ゲームキャラクター）, トパニャン（アニメキャラクター）</p> <p style="text-align: right;">以上 54 語</p>
物理的に黄色が入っていないもの	<p>稲妻, 3 月, 絵, 会社, 顔, 絆・きずな, 木の実, 寿司, 名前, 鶏, 避難所, 文房具, 流れ星, 炎・火, ハート, ダイヤモンド</p> <p style="text-align: right;">以上 16 語</p>
不明	<p>スタフルラ</p> <p style="text-align: right;">以上 1 語</p>

資料3-15 黄色に関する連想（第6学年独自での反応語 251語）

（反応語と反応語の間は「，」で表す。同じものとして合わせたものは「・」でしめす。）

	反応語
物理的に黄色が入っているもの	<p>駅のホームの黄色い線，花粉，点字ブロック，危険マーク，車のナンバープレート，反射材・反射板，ユニフォーム，麦わら帽子，金メダル，ラッパ，額・額縁，鐘・ベル，画鋸，髪の毛，金髪，朱印，PM2.5，椅子，稲，王冠，大玉，帯，カード，壁，薬，靴箱，ゴールポストカバー，国語，国語辞典，コンタクトレンズ，皿，しおり，ジッパー，シャンプー，賞状，シヨベルカー，ストラップ，砂浜，洗面器，体温計，たすき，卓球ボール，たばこ，通学帽子，机，綱，電車・東京中央線，天婦羅，道路，ネックレス，糊，バイク，はし，ピラス，火花，封筒，札・値札，布団，宝石，ポケット，ボトル，マグマ，まな板，耳栓，屋根，遊具，夕日，床，溶岩，落橋，ランドセルカバー，レシート（イオンのキャンペーン），連絡袋，ロゼッタ，ゆず，パパイヤ，ミニトマト，山梨，梨，ザボン・文旦，黄色い人参，柿，金柑，キウイ，ゆり，キンモクセイ，マーガレット，つぼみ・蕾，木・木の幹，嘴・くちばし，トカゲ，蛙，ホタテ貝，さつま芋・芋，ジャガイモ，アイス・ジェラート，油揚げ，飴・キャンディー，プリン，バター，パン・パン生地・ケーキ，メロンパン，脂肪，ドーナツ，ゆで卵，シュークリーム，ジュース，サラダ油，オリーブオイル，黄粉，マヨネーズ，カステラ，グミ，かき氷，カレー，ガム，からし，蛍光色・発光色・ネオンカラー，キャノーラ油，じゃがりこ，チーズ，泥，濁った川，ピラミッド，ファラオ，金閣寺，ツタンカーメン，地層，黄砂，大地，ニコちゃんマーク，ひょうちゃん（キャラクター），殺センサー（アニメキャラクター），スポンジ・ボブ（アニメキャラクター），ドラミちゃん（アニメキャラクター），ハバタン（キャラクター），バリーさん（キャラクター），メロンパンナ（アニメキャラクター），モモ（アニメキャラクター）</p> <p style="text-align: right;">以上 139 語</p>
物理的に黄色が入っていないもの	<p>色，緑，薄い・薄い色，着色料，金色，黄緑，金・黄金，雷雲，キング，金星，金目鯛，明るい，鮮やか，暖かい・温かい，暑い，きらびやか，辛い，重い，綺麗，幸運・幸せ，ゴージャス，幸せ・福，目立つ，見にくさ，優しさ，リラックス，平和，眩しい，派手，春，人工物，酸っぱい，善，卒業，大事な言葉，暖色，暖房，元気・元気な人，日光・日差し，テンションが高い，希望，笑顔，エネルギー，王者，日本人，イエローモンキー，黄色い声，秋，虹，100円ショップ，アクセサリー，宇宙船，運動会，映画，おもちゃ，おもちゃの蛇，風・台風，家族，ゲーム，酒，猿，自然，地球，地図，電光石火，入学，パズル，パッケージ，目，優勝，惑星，学校，キャラクター，昼，やくざ，ヤンキー，砂漠，野菜炒め，レモンスカッシュ，レモンティー，黄桃，鯨，アメリカ，チカン市国，ハワイ，中国，大阪，果物，鳥，植物，カバの色，星座，夜空，避雷針，ドラゴン，雷神，イエス様，ソフトバンクホークス，阪神タイガース，サリー（アニメキャラクター），スーパーサイヤ人（アニメキャラクター），ワリオ（ゲームキャラクター），カカロット（アニメキャラクター），プロリー（アニメキャラクター），ネロ（ゲームキャラクター），黄瀬（アニメキャラクター），レ（音階）</p> <p style="text-align: right;">以上 106 語</p>
不明	<p>きとう，キザル，文たん，老梅</p> <p style="text-align: right;">以上 4 語</p>

資料 4 児童の色彩語の連想に関する放射状カテゴリー詳細図

資料 4-1 図 27 黒色「刑務所」などに関する予想される思考の流れ の拡大図

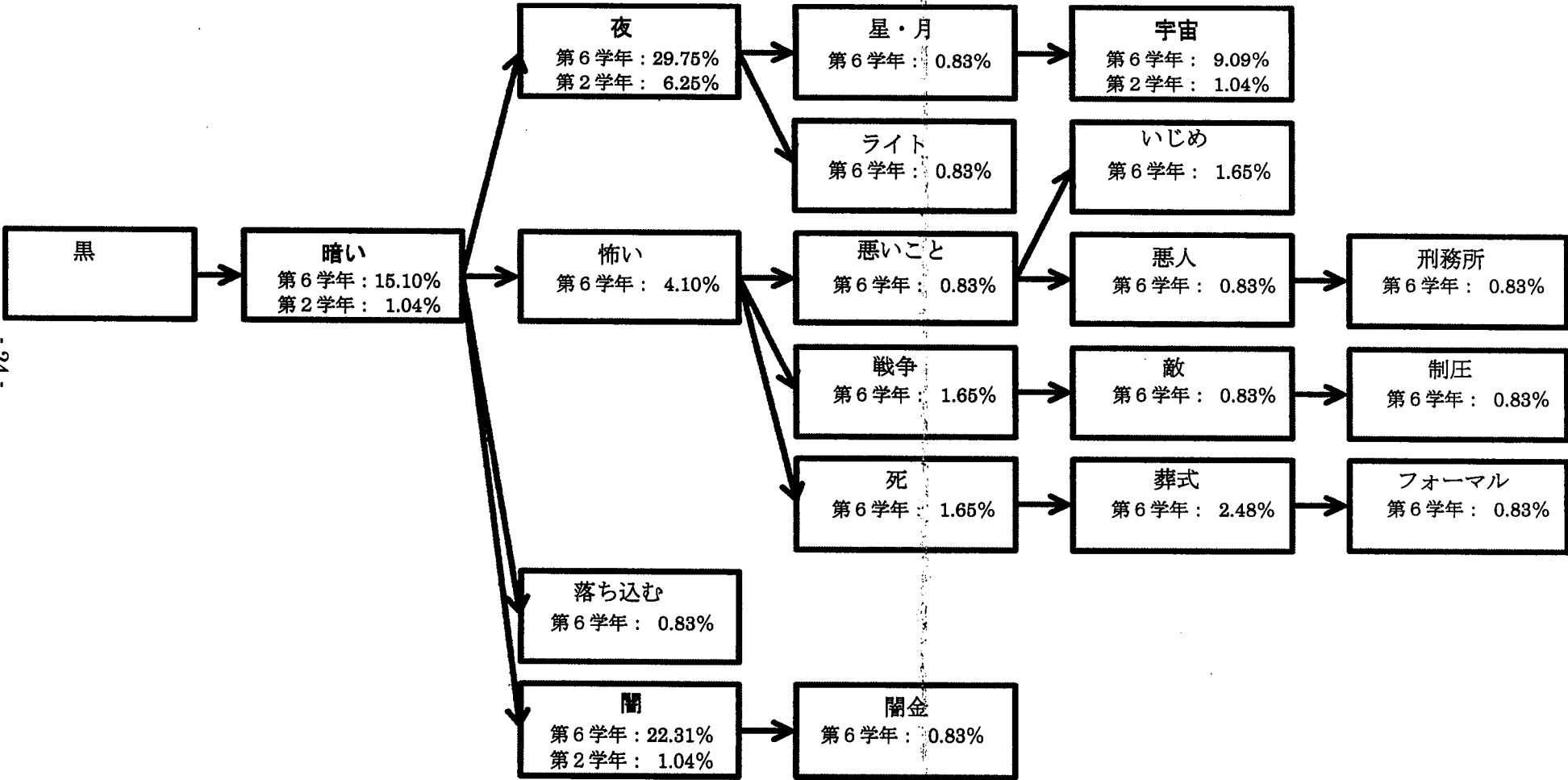
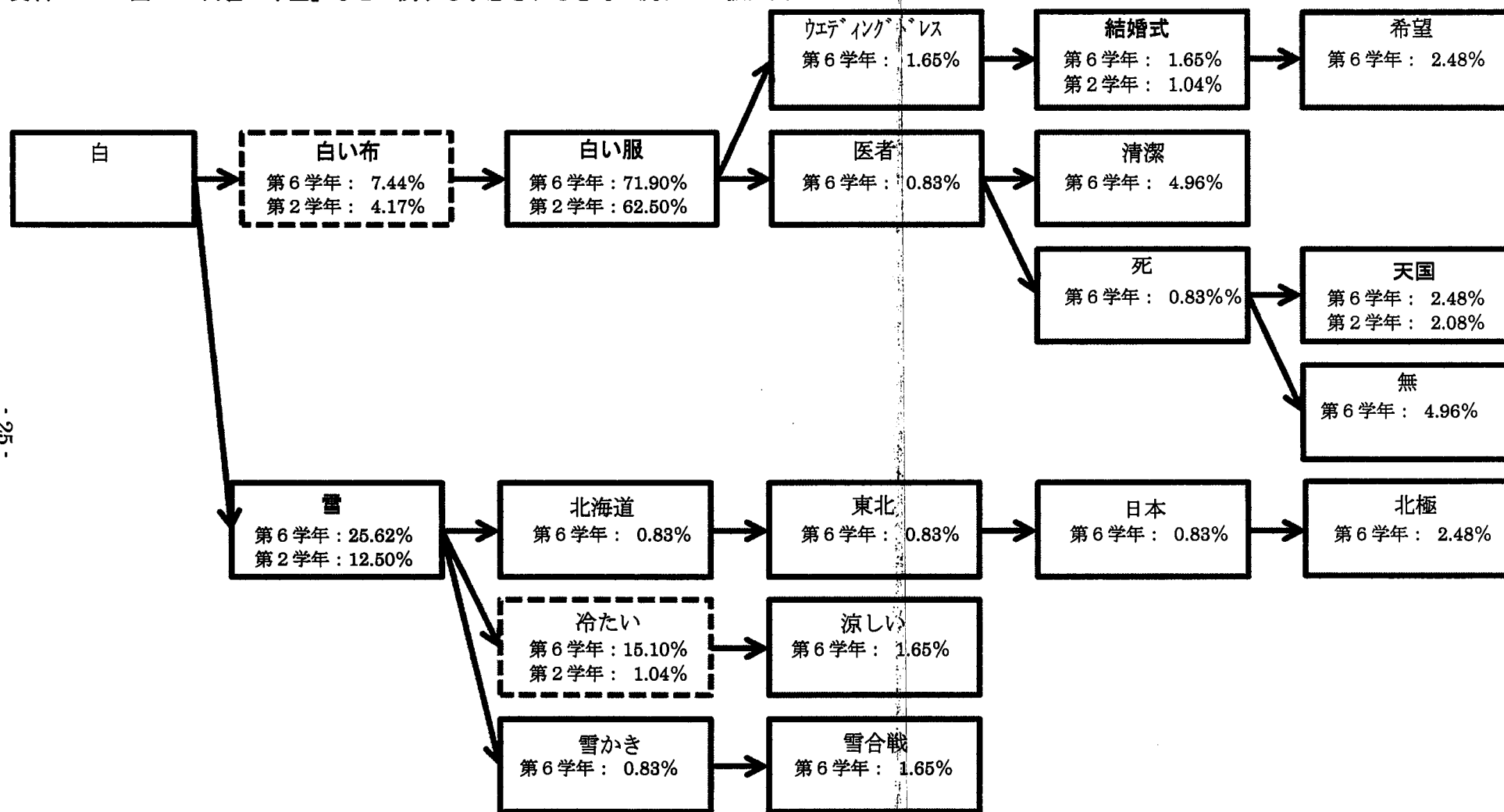


図 27 黒色「刑務所」などに関する予想される思考の流れ

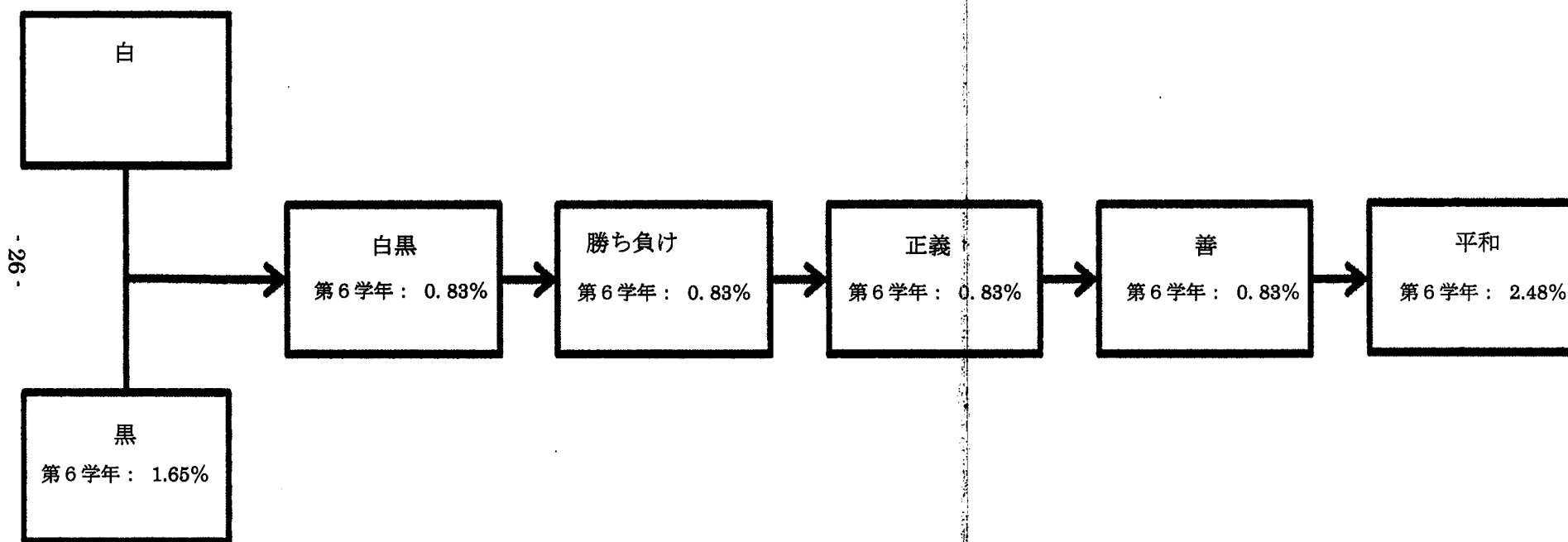
資料4-2 図28 白色「希望」などに関する予想される思考の流れの拡大図



(各学年の出現率を%で表す。ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図28 白色「希望」などに関する予想される思考の流れ

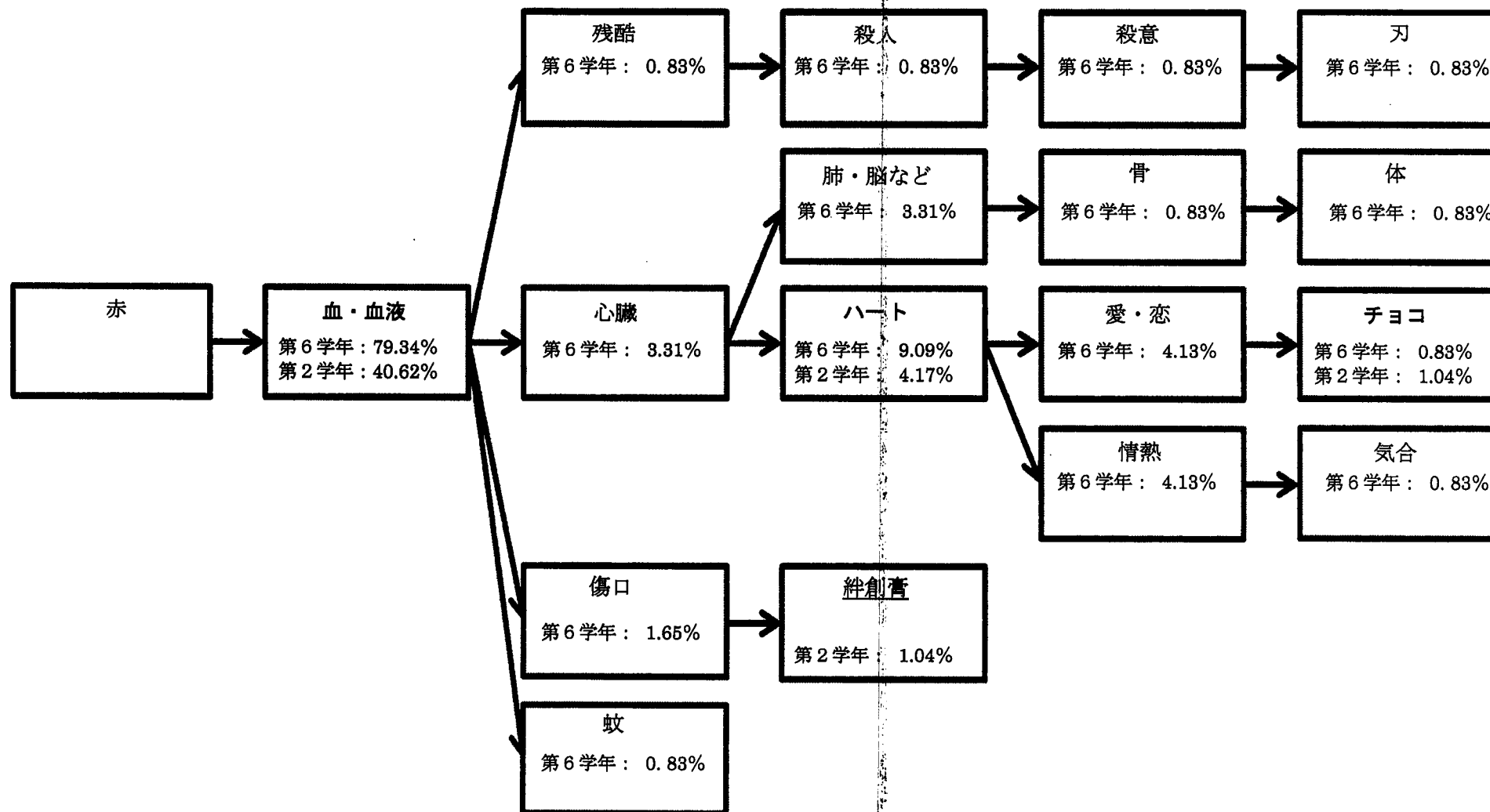
資料4-3 図29 白色「平和」などに関する予想される思考の流れの拡大図



(各学年の出現率を%で表す。ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図29 白色「平和」などに関する予想される思考の流れ

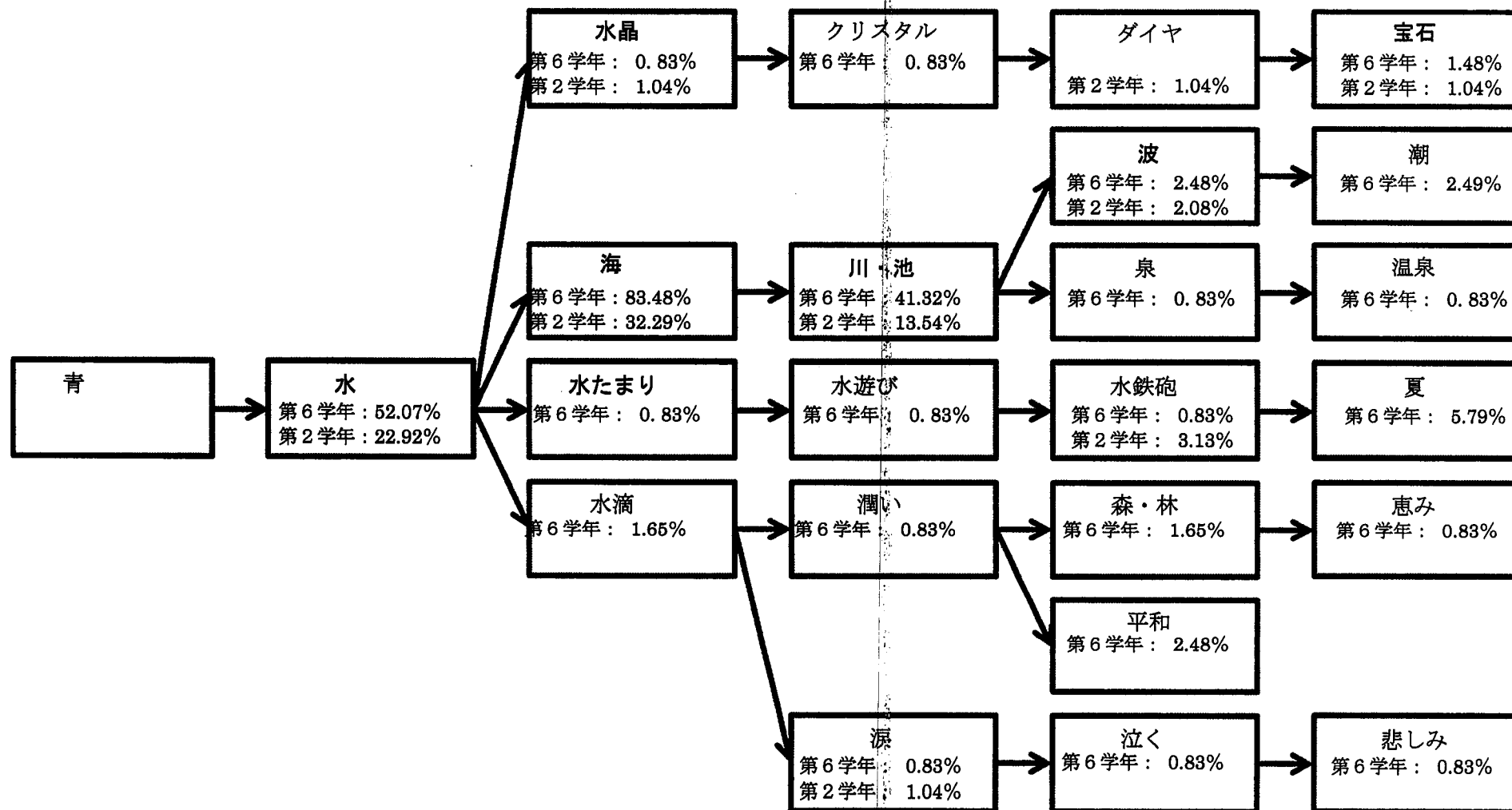
資料4-4 図30 赤色「チョコ」などに関する予想される思考の流れの拡大図



(各学年の出現率を%で表す。ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図30 赤色「チョコ」などに関する予想される思考の流れ

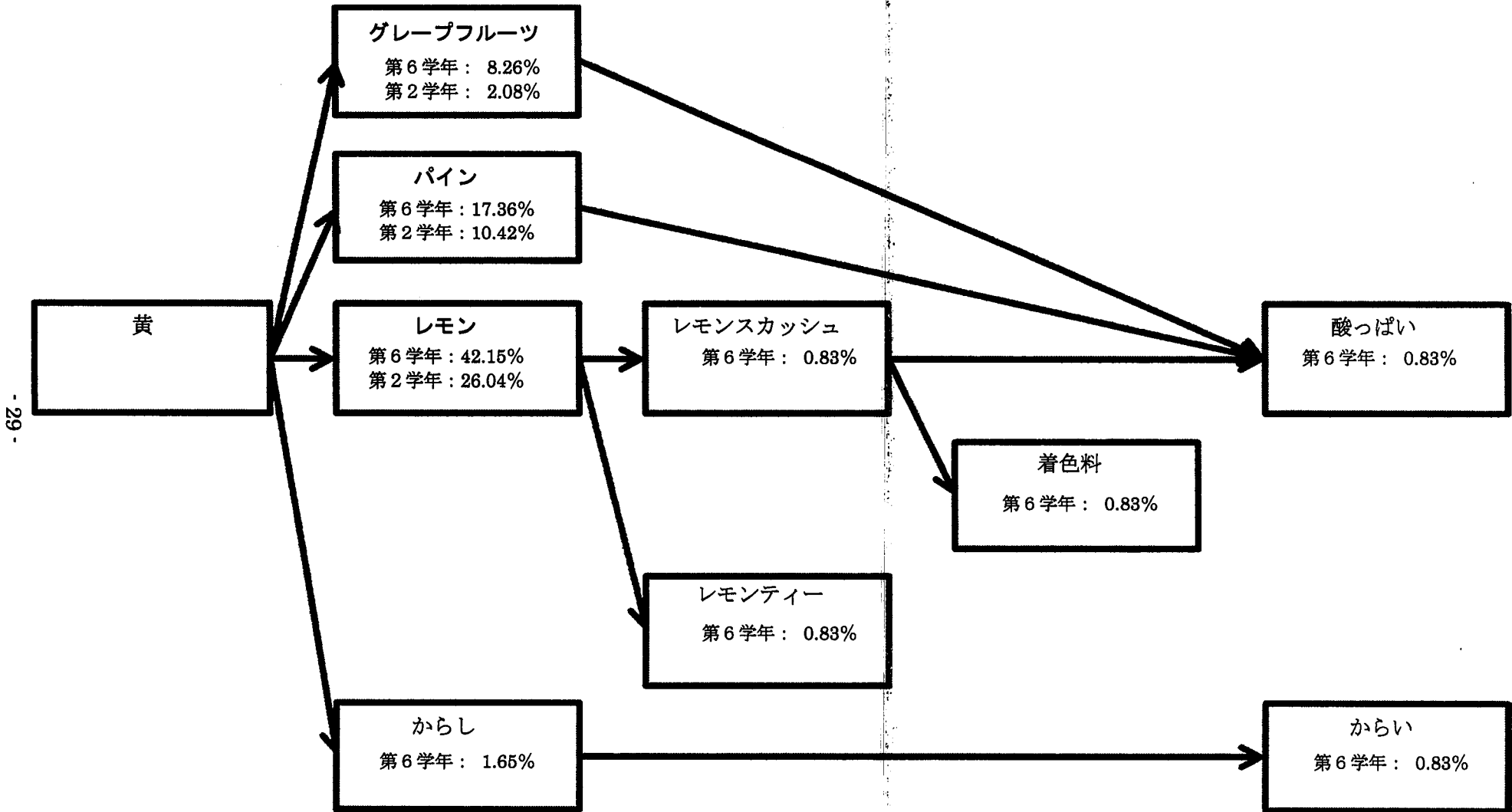
資料4-5 図31 青色「温泉」などに関する予想される思考の流れの拡大図



(各学年の出現率を%で表す。ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図31 青色「温泉」などに関する予想される思考の流れ

資料 4-6 図 32 黄色「酸っぱい」などに関する予想される思考の流れ の拡大図



(各学年の出現率を％で表す。ゴシックの書体は第2学年と第6学年で共通して出現した語を示す。)

図 32 黄色「酸っぱい」などに関する予想される思考の流れ